

内務省報告
 二十三年五月二十八日
 二十三年六月九日同上
 二十三年六月二十二日同上
 二十三年六月二十四日同上
 二十三年七月五日同上
 二十三年七月八日同上
 二十三年七月十八日同上
 二十三年八月六日同上
 二十三年八月八日同上
 二十三年八月九日同上
 二十三年十二月二十六日同上

官有地第一種皇宮地附屬地へ編入ニ付當省へ受取候條此段報告候也

官林及官有山林原野調査

岐阜縣下官林及官有山林原野

一段別十六萬三千二百十町九段四畝二十二步

皇宮地附屬地へ編入ノ分

内
一段別八畝二十四步

皇宮地附屬地へ一旦編入ノ後道路敷ニ組換ノ

タメ岐阜縣へ引渡タルニ付減

已ニ拂下濟ノモノヲ誤テ引繼タルニヨリ除却

ノ儀岐阜縣ヨリ申越ニ付減

一段別三畝二步

殘段別十六萬三千二百十町八段二畝二十六步

愛知縣下同上

一段別七萬六千六百五十九町三段六畝十二步

同上

長野縣下同上

一段別十四萬五千八百二十七町八段一畝四步八釐

同上

神奈川縣下同上

一段別二萬五千二百九十四町二段三畝十四步

同上

山梨縣下同上

一段別四十一萬二千五百八十町五段二畝三步

同上

静岡縣下同上

一段別二十一萬八千一百一十一町一段三畝十六步九釐六毛

同上

内

一段別二十五町一畝五步

之レハ開墾成工ノ上素地相當代價拂下ノ約ア

ルモノヲ誤テ引繼タルニヨリ除却ノ儀静岡縣

ヨリ申越ニ付減

殘段別二十一萬五千五百六十六町一段二畝十一步九釐六毛

三重縣下神路山官林

一段別千九百四十五町步

同上

合計段別百三萬五千六百七十三町八段八畝十一步七釐六毛

内務省商務兩省請願二十一年五月二十五日

京都府外二府十一縣下官林ノ内別紙記載ノ箇所合段別凡二百二十七萬四千五百町五段九畝十五步今般帝室

御財產ニ編入センコトヲ宮内大臣ヨリ照會セリ右ハ支障ナキヲ以テ其當メニ應セント欲ス依テ閣議ヲ

請フ 指令二十一年九月十八日 秋田縣下字男鹿 合段別九十萬八千二百五十五町六段三畝十步帝室御財產ニ編

入セシムヘシ (別紙)

〔内ハ抹殺〕

所轄國	郡	御料	段別
京都府	山城國官林	一圓	三千五百五十二町七段六畝十五步
兵庫	攝津國ニ屬スル分官林	一圓	千八百三拾三町七段六畝十四步
靜岡	官林	一圓	十八萬三千三百〇六町九段五畝二十九步
岐阜	美濃國惠那郡官林	一圓	五萬六千九百八十八町八段九畝二十步
宮崎	日向國西諸方郡官林	一圓	一萬四千九百八十二町四段七畝步
長野	信濃國西筑摩郡官林	一圓	三十五萬〇〇四十九町一段〇二十六步
秋田	羽後國南秋田郡官林	一圓	七十二萬〇〇四十一町二段六畝十二步
青森	陸奥國津輕五郡官林	一圓	六十四萬五千三百二十六町五段二畝六步

東京	官林	一畝	五十九町六段二畝十步
大坂	官林	一畝	二千六百十九町八段六畝八步
神奈川	官林	一畝	二萬四千五百七十六町九段三畝九步
奈良	大和園	一畝	二千五百三十九町三段三畝二十六步
埼玉	官林	一畝	十四萬七千〇二十二町〇四畝十二步
熊本	官林	一畝	十一萬九千九百〇一町四畝八步
合計	風致其他一切ノ禁伐林ヲ除ク		二百二十七萬〇四百町五段九畝十五步

付録(農商務省再調査(△印)ノ案書)
官林段別ノ内帝室御財產ニ編入ノ積目下開議提出ノ段別及收支左ニ
一 二百二十七萬四千四百町五段九畝十五步
收入二十一萬九千八百四十九圓七十三錢五釐
經費十一萬三千三百五十五圓七十三錢五釐
差引過十萬九千八百三十六圓四十八錢

青森縣

△段別六十四萬五千三百二十六町五段二畝六步
收入二萬六千二百九十九圓四十五錢二釐
經費一萬二千九百三十八圓
差引過一萬三千三百六十一圓五十六錢二釐
△差引殘段別百六十二萬五千七百四十七畝九步
收入十九萬三千五百五十四圓七十七錢三釐
經費九萬七千七百五十五圓五十五錢五釐
差引過九萬六千四百七十九圓六十一錢八釐

秋田縣

該秋田縣下南秋田郡ノ内宇男鹿山官林段別二千九百九十餘町步ヲ除ク
△段別七十一萬七千四百八十八町四段三畝二十九步
收入二萬三千二百一十一圓三十四錢三釐
經費一萬七千七百二十一圓三十四錢三釐
差引過八千三百四十圓六十五錢七釐
△差引殘段別九十萬八千二百五十五町六段三畝十步

收入十七萬三千五百八十八圓十七錢三釐
經費八萬五千三百五十四圓二十一錢二釐
差引過八萬八千六百三十三圓九十六錢一釐
備考 宇男鹿山官林ノ儀ハ帝室ニテ御所有相成度旨ニ付該縣下若干段別ノ内府書段別ヲ除キ差引七
差引殘段別九十萬八千二百五十五町六段三畝十步
一萬二千二百一十一町一畝十一步 段別五町步以下
差引殘段別八十九萬六千九百四十四町六段一畝二十九步

官林種別表

府縣名	園名	官林總段別	御料地編入	五町步以下	同所上	神社風致	同所上	國土保安	同所上	殘段別
東京	武藏	111,111		5,510	18	22,110	43	10,401	13	21,110
京都	山城丹波丹後	60,600		5,511	61	11,100	31	11,100	31	21,110
大阪	攝津和泉河内	27,000		1,111	60	11,111	121	11,111	121	21,111
神奈川	武藏相模	25,194,250		11,111	88	11,111	121	11,111	121	21,111
兵庫	攝津播磨但馬	10,000,000		1,111	88	11,111	121	11,111	121	21,111
埼玉	武藏下總	12,713,800		1,111	1,111	11,111	121	11,111	121	21,111
奈良	大和	2,255,500		1,111	1,111	11,111	121	11,111	121	21,111
静岡	伊豆駿河遠江	1,234,800		1,111	1,111	11,111	121	11,111	121	21,111
岐阜	美濃飛騨	5,511,110		1,111	1,111	11,111	121	11,111	121	21,111
長野	信濃	4,444,444		1,111	1,111	11,111	121	11,111	121	21,111
青森	陸奥	9,999,999		1,111	1,111	11,111	121	11,111	121	21,111
秋田	羽後陸中	10,101,010		1,111	1,111	11,111	121	11,111	121	21,111
熊本	肥後	13,131,313		1,111	1,111	11,111	121	11,111	121	21,111

宮崎	日向	小計	肥前	長崎	肥前	新潟	越後	群馬	上野	千葉	下總	茨城	常陸	栃木	下野	三重	伊勢	愛知	尾張	山梨	甲斐	滋賀	近江	宮城	陸前	岩手	陸中	山形	羽前	福井	越前	石川	加賀	富山	越中	鳥取	因幡	
1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000

二十一年度收支一覽表

所轄總段別	總收入	總經費	收入百圓に對する總費	御料段別	同上收入	同上經費	收入百圓に對する總費	殘段別	同上收入	同上經費	收入百圓に對する總費
京都	1,000,000	750,000	75%	1,000,000	750,000	75%	1,000,000	1,000,000	750,000	75%	1,000,000
兵庫	1,000,000	750,000	75%	1,000,000	750,000	75%	1,000,000	1,000,000	750,000	75%	1,000,000
靜岡	1,000,000	750,000	75%	1,000,000	750,000	75%	1,000,000	1,000,000	750,000	75%	1,000,000
三重	1,000,000	750,000	75%	1,000,000	750,000	75%	1,000,000	1,000,000	750,000	75%	1,000,000
合計	4,000,000	3,000,000	75%	4,000,000	3,000,000	75%	4,000,000	4,000,000	3,000,000	75%	4,000,000

森林ハ過伐ノ恐アルヲ以テ一步ヲ退キ收入ノ豫算ヲ起草ス如何トナレハ森林樹木ハ不動産ナリ之ヲ伐
 タ動産トナスニハ適度ノアルアリ依テ今日ヨリ十分殖林ノ事ヲ勤メ年ヲ逐テ少ヲ進ムル方森林經
 濟ノ得策ナル事ヲ信ス保存木保存林輪伐栽植ハ林政上一モ缺クヘカラサル要點ナリ故ニ栽植ノ多キニ
 失スルハ可ナリ過伐ノ國土保安衛生上其他ノ關係ヲ來タシ森林經濟ヲ觀ルコトアルハ不可ナリ依テ收
 入ヲ節減シテ豫算ヲ起草スル所ナリ然レモ收支相償ヒ相應ノ純益備ハルナリ
 二十二年度ニ至リ官林ヲ分割スルモ山林局ノ經濟ハ依然トシテ二十一年度豫算ノ比準ニテ收支ヲ差引
 純益アルヲ以テ愛ニ舉ケス
 御料林事業目的ノ事
 木會森林ニ於テハ左表ヲ目的トシテ殖伐ノ事業ヲ舉行スル積リナリ

段	別	木	數	三年間ノ伐伐ニシテ一箇年ノ木數	毎年栽培苗數	毎年栽培經費
			三五六一五八	一六八四七四	三五六一五	三三〇〇〇〇

本表ニ據レハ一箇年ニ三萬五千六百十五本ヲ伐採シ得レトモ一步ヲ退キ毎年三萬本宛ヲ伐採スルモノ
 トス

伐採木數	此尺ノ數	此經費	保護經費	賣上	高差	引純益
三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇

本表ノ如ク一箇年尺ノ四萬五千本ヲ出シ其賣上高ノ内ニテ伐木保護經費ヲ引去リ全ク純益金殆ント三
 萬圓ヲ備フルナリ
 秋田青森ノ森林モ之レニ亞キ相應ノ純益ヲ備フナリ
 埼玉縣下ノ森林中秩父ノ中津川大瀧ヲ以テ大町歩ノモノトス
 此森林ノ材木ハ海運ヲ要セス荒川筋ヲ經テ東京ニ達スル故專ラ栽植ヲ勤メ後年府下ノ應用ニ供セント
 スルナリ
 神奈川縣下ノ森林ハ何レモ東京近傍ニ付殖伐ノ事ヲ舉行スル目的ナリ
 靜岡縣下ノ森林中天城富士井川千頭栲生白倉門栲等ハ頗ル大町歩ナリ殖伐ノ事ヲ舉行スル目的ナリ
 山城大和河内和泉攝津ノ森林ハ其土地ノ需用ニ供スヘキ樹種ヲ栽植シ傍ラ副産物ヲ採取スルヲ目的
 ス
 熊本縣及ヒ宮崎縣下日向ノ諸縣四郡ニハ樟樹澤山アリ依テ樟腦製造ノ業ヲ起サントス
 樟樹ハ三十年生乃至五十年生ニナレハ一本ノ樹ヨリ樟腦百斤ヲ得ルナリ
 樟腦收支一覽表

樟樹	樹種	此製造諸費	賣上	高差	引純益
一	本	10000	10000	10000	10000
十	本	100000	100000	100000	100000
百	本	1000000	1000000	1000000	1000000
千	本	10000000	10000000	10000000	10000000
一	萬	100000000	100000000	100000000	100000000

右ハ目下山林局ニ於テ高知縣ノ官林ニ就キ製造シテ實收益アルモノト他ノ取調書等ヲ取捨斟酌シテ本
 表ヲ製ス
 樟腦製造ハ尤モ利益アルニ付熊本日向ノ御料林ニハ年々樹實ヲ播種シ輸環端ナク此業ヲ繼續セントス
 木會御料林保管ノ事
 成林ノ一部ヲ委託シ保管殖伐ノ事ヲ取扱ハシメ村民等ニ至ル迄下草其他ノモノハ幾分力遣利ノ恩惠ヲ
 蒙ル様取扱ハシムル目的ナリ然レトモ木會御料林ノ如キハ到底今日ノ如ク林區ヲ設キ特別ノ取
 扱ヲ要スル備處ナリ
 詞訟犯罪ノ事
 詞訟犯罪者アルコトハ土地ヲ所有スルモノノ免ルヘカラサル數ナリ然レトモ帝室ノ官吏ニシテ其國民ノ
 犯罪者ヲ告發スルニ至ルハ經常ナラサル故取調向ハ當分地方廳ヘ委託シ特務巡查ヲ置キ特務巡查ニ係
 ニテハ漸々取締向モ緒ニ就ケリ且又不得止詞訟ニ涉ルトキハ御料局長官原被ノ費ニ任スヘシ
 以上ハ單ニ要領ヲ掲載シ専ラ閱覽ノ便ヲ主トシタルモノニシテ其細目圖書ハ御下命ニ從テ閱覽ニ供
 スヘシ
 付
 山林局ニ於テ取調タル二十一年度收支豫算表ニハ御料林ノ方總經費十萬六千八百八十八圓餘トシ
 テ二十二年度ノ總經費十二萬五千三百三十六圓餘トナル其増加シタル理由ハ二十一年度山林局
 別紙內務農商務兩大臣進署請議京都府外二府十一縣下官林ノ内二百二十七萬四百五段九畝十五步帝
 室御財產ニ編入ノ件ハ請議ノ通決議可相成哉閣議ニ供ス
 指令案

崎玉	官林	一町	十四萬七千二百四十四步
熊本	官林	一町	十一萬九千九百一十四步
宮崎	日向國諸方郡官林	一町	一萬四千九百八十二町四段七畝步
秋田	南秋田郡小濱村外六箇村字男鹿山官林		二千九百九十二町八段二畝十三步
計	風致其他一切ノ禁伐林ヲ除ク		二十九萬五千三百七段三畝十六步

乙號 更ニ編入スヘキ分

府縣名	郡	官林及官有山林原野合段別
愛知	知	七萬六千六百二十七町三段十七步
山梨	梨	四十一萬四千九百五十九町四段五畝十九步
岐阜	岐阜	十五萬八千三百九十五町五段九畝二十二步
長野	野	十四萬九千六百六十六町三段六畝二十九步
靜岡	岡	二萬七千三百九十九町七段二畝三步
神奈川	川	九百四十八町八畝二十二步
計	風致及諸禁伐林共	八十二萬七千四百九十六町五段三畝二十一步

乙號附屬

ニ編入スヘキ分段別内譯

官林段別

風致及諸禁伐林段別

官有山林段別

同 原野段別

計 七萬六千六百二十七町三段十七步

愛知縣 一町

七萬四千九百八十五町七段八畝十五步

九百九十八町一段一畝二十一步

六百八十一町二段二十二步

六十町一段九畝十九步

山梨縣 一町

三十萬八千三百九十七町六段三畝十九步

官林段別

風致及諸禁伐林段別

官有山林段別

同 原野段別

計 四十一萬四千九百五十九町四段五畝十九步

官林段別

風致及諸禁伐林段別

官有原野段別

計 十五萬八千三百九十五町五段九畝二十一步

岐阜縣

十五萬六千五百五十三町七段七畝十八步

千五百二十八町五段五畝十八步

三百十三町二段六畝十五步

長野縣

十三萬七千七百五十四町八段一畝十七步

二百六十七町三段八畝二步

五千八十八町七畝二十九步

六千五百六十六町九畝十一步

十四萬九千六百六十六町三段六畝二十九步

官林段別

風致及諸禁伐林段別

官有山林段別

同 原野段別

計 二萬七千三百九十九町七段二畝三步

靜岡縣 一町

千九百六十四町四段四畝二十九步

六千四百八十九町三段十二步

一萬九千八百十三町九段六畝二十二步

二萬七千三百九十九町七段二畝三步

官林段別

風致及諸禁伐林段別

官有原野段別

計 九百四十八町八畝二十二步

神奈川縣 一町

五百七十七町二段四畝步

三百七十町八段四畝二十二步

合計段別八十二萬七千四百九十六町五段三畝二十一步

官林段別

風致及諸禁伐林段別

官有山林段別

同 原野段別

計 六十七萬七千六百九十二町一畝九步

四十七萬七千四百五十三畝十五步

三萬二千五百二十二町三畝二十四步

十一萬四千七百七十七町九段五畝三步

指令二十二年七月十六日
 官林及官有山林原野ノ内皇宮地附屬地ニ編入ノ件請議ノ通
 内閣書記官議案二十二年七月九日
 別紙農商務大臣請議官林及官有山林原野ノ内皇宮地附屬地ニ編入ノ件ヲ案スルニ客年九月決定帝室御
 財產トシテ皇宮地附屬地ニ編入セラルヘキ官林ノ内今般東京府外二府六縣下官林二十九萬五千三百三町
 七段餘歩ヲ扣除シ更ニ愛知縣外五縣下ノ官林及官有山林原野合八十二萬七千四百九十六町五段餘歩ヲ
 皇宮地附屬地ニ編入ノ儀宮内大臣ヨリ照會ノ處支障無之ニ付其需ニ應シ度トノ旨ナリ右ハ請議ノ通決
 議可相成歟開議ニ供ス

宮内省報告 二十三年二月二十二日

福島縣磐城國 西白河郡吉岡村下野田島村上野田地内澤井原
 一段別一町七步

内

田段別十一歩

畑段別八畝十九歩

山林段別九段一畝七歩

先般當省へ受取候地所ノ内孕在ノ民有地前書ノ通有之皇宮地附屬地除却ノ儀福島縣知事ヨリ申出候ニ
 付内務大臣へ照會ノ末皇宮地附屬地除却候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年二月二十八日

千葉縣下上總國夷隅郡西畑村ノ内元板谷村皇宮地附屬地内段別一町三段三畝歩縣道變換ニ付道敷トシ
 テ皇宮地附屬地除却方同縣知事ヨリ申出ノ趣モ有之候ニ付内務大臣へ照會ノ末該地積皇宮地附屬地除
 却候條此段報告候也

福島縣磐城國西白河郡
 吉岡村外二箇村吉岡郡
 澤井村外一箇村内澤井
 原民有地ヲ皇宮地附屬
 地ニ編入ス

千葉縣下上總國夷隅郡
 西畑村皇宮地附屬地内
 元板谷村外一箇村内
 道敷トシテ除却ス

奈良縣下奈良公園内及
 法橋町有地ヲ皇宮地附
 屬地ニ編入ス

宮内省報告 二十三年二月二十八日
 奈良縣下奈良公園地ノ内段別四町二段七畝四歩及同地接續民有地段別三町七段二畝二十二歩合段別七
 町九段九畝二十六歩官地ハ受取民地ハ買收ノ上今般官有地第一種皇宮地附屬地へ編入候條別紙段別調
 書相添此段報告候也

縣	國	郡	町	字	番地	地目	段	別
奈良	大和	添上	奈良		五〇	公園		二七〇四
計								二七〇四
奈良	大和	添上	奈良	登内	一九	宅地		〇一〇四
					一九	畑		〇一一一
					二〇	同		〇一二八
					二一	同		〇一三六
					二二	同		〇一四四
					二三	宅地		〇一五二
					二四	畑		〇一六〇
					二五	同		〇一六八
					二六	宅地		〇一七六
					二七	畑		〇一八四
					二八	同		〇一九二
					二九	宅地		〇二〇〇
					三〇	同		〇二〇八
					三一	同		〇二一六
					三二	宅地		〇二二四
					三三	畑		〇二三二
					三四	同		〇二四〇
					三五	宅地		〇二四八
					三六	畑		〇二五六
					三七	同		〇二六四
					三八	宅地		〇二七二
					三九	畑		〇二八〇
					四〇	同		〇二八八
					四一	宅地		〇二九六
					四二	畑		〇三〇四
					四三	同		〇三一二
					四四	宅地		〇三二〇
					四五	畑		〇三二八
					四六	同		〇三三六
					四七	宅地		〇三四四
					四八	畑		〇三五二
					四九	同		〇三六〇
					五〇	宅地		〇三六八
					五一	畑		〇三七六
					五二	同		〇三八四
					五三	宅地		〇三九二
					五四	畑		〇四〇〇
					五五	同		〇四〇八
					五六	宅地		〇四一六
					五七	畑		〇四二四
					五八	同		〇四三二
					五九	宅地		〇四四〇
					六〇	畑		〇四四八
					六一	同		〇四五六
					六二	宅地		〇四六四
					六三	畑		〇四七二
					六四	同		〇四八〇
					六五	宅地		〇四八八
					六六	畑		〇四九六
					六七	同		〇五〇四
					六八	宅地		〇五一二
					六九	畑		〇五二〇
					七〇	同		〇五二八
					七一	宅地		〇五三六
					七二	畑		〇五四四
					七三	同		〇五五二
					七四	宅地		〇五六〇
					七五	畑		〇五六八
					七六	同		〇五七六
					七七	宅地		〇五八四
					七八	畑		〇五九二
					七九	同		〇六〇〇
					八〇	宅地		〇六〇八
					八一	畑		〇六一六
					八二	同		〇六二四
					八三	宅地		〇六三二
					八四	畑		〇六四〇
					八五	同		〇六四八
					八六	宅地		〇六五六
					八七	畑		〇六六四
					八八	同		〇六七二
					八九	宅地		〇六八〇
					九〇	畑		〇六八八
					九一	同		〇六九六
					九二	宅地		〇七〇四
					九三	畑		〇七一二
					九四	同		〇七二〇
					九五	宅地		〇七二八
					九六	畑		〇七三六
					九七	同		〇七四四
					九八	宅地		〇七五二
					九九	畑		〇七六〇
					一〇〇	同		〇七六八

右ハ今般皇室ニ於テ御要用ノ儀有之内務海軍兩大臣へ協議ヲ遂ケ官有地第一種皇宮地附屬地へ編入候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年三月二十四日

青森縣下上北郡六箇所村外二箇村原野合段別六百三十七町八段〇二十二步軍馬育成所附屬地トシテ陸軍省へ下付相成候ニ付内務省へ協議ヲ遂ケ別表調書ノ通今般皇宮地附屬地除却致シ候條此段報告候也

國	郡	村	字	番	號	地種地目	段	別
陸奥	上北	野邊地村	向田	七十五番ノ内	宮三原野	九〇〇	〇〇〇	〇〇〇
同	同	大字有地村	同	七十六番		一七五四	〇二九	二〇〇
同	同	甲地村	同	七十七番		七四五	二〇〇	二〇〇
同	同	大字所村	ガヌ平	一番ノ内		一五九六	七三六	七三六
同	同	大字所村	千樽	七番ノ内		一六一	七二五	七二五
同	同	同	同	三番ノ内		一三〇	二二二	二二二
計						六三七八	〇三三	〇三三

宮内省報告 二十三年三月二十七日

府下南豐島郡代々幡村南豐島第七御料地内一段別六段四畝十八步〇三七一

右地所今般東京府華族公爵藤司憲通へ排下相成候ニ付内務大臣へ照會ノ上官有地第一種皇宮地附屬地除却候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年四月九日

府下南豐島郡澁谷村字氷川裏南豐島第六御料地一面積八千六百六十三坪三合一勺

同上字常盤松同第四御料地内一面積凡千七百八十二坪合坪一萬四百四十五坪三合一勺右地所今般近衛兵營敷地トシテ下賜相成候ニ付内務大臣へ照會ノ上皇宮地附屬地除却致候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年四月十一日

昨年十二月二十六日送第七〇一號ヲ以テ群馬縣下赤城山其他ノ官有地合段別三萬千五百三十三町一段一畝二步ハ官有地第一種皇宮地附屬地ニ編入候旨報告及置候然ルニ右地所ノ内帳簿上段別ニ誤謬有之訂正方同縣知事ヨリ當省御料局へ照會有之候ニ付此際別紙朱書ノ通訂正爲取計其旨内務大臣へ通知濟ニ候條此段更ニ報告候也

段別誤謬訂正調 △印ハ朱書

群馬縣上野國北勢多郡赤城山官有地一段別一萬五千五百八十九町一段六畝二步一萬五千五百八十九町一段二畝十八步同利根郡子持山官有地

青森縣下上北郡六箇所村外二箇村原野合段別六百三十七町八段〇二十二步軍馬育成所附屬地トシテ陸軍省へ下付相成候ニ付内務省へ協議ヲ遂ケ別表調書ノ通今般皇宮地附屬地除却致シ候條此段報告候也

東京府下南豐島郡代々幡村南豐島第七御料地内一段別六段四畝十八步〇三七一

東京府下南豐島郡澁谷村字氷川裏南豐島第六御料地一面積八千六百六十三坪三合一勺

群馬縣下赤城山其他ノ官有地合段別三萬千五百三十三町一段一畝二步ハ官有地第一種皇宮地附屬地ニ編入候旨報告及置候然ルニ右地所ノ内帳簿上段別ニ誤謬有之訂正方同縣知事ヨリ當省御料局へ照會有之候ニ付此際別紙朱書ノ通訂正爲取計其旨内務大臣へ通知濟ニ候條此段更ニ報告候也

一段別二千六百三十八町八段六畝十四步
 二、二千六百三十八町八段六畝三步
 同西群馬郡榛名山續寺官有地
 一段別七千六百六十二町五段七畝四步
 七千六百六十二町五段六畝五步
 同碓氷郡烏洲村外四箇村官有地
 一段別三千九百二町二段二畝二十九步
 三千八百九十八町二段二畝十九步
 總段別三萬一千五百三十三町一段二畝二步
 三萬一千五百二十九町五畝二十八步

宮内省報告 二十三年四月十五日

兵庫縣下攝津國八部郡須磨村ノ内西須磨村字鐵枳

一官林段別百十六町八段二十步

同上 字青谷山

一官林段別三十三町八段三畝十九步

同上 字高倉山

一官林段別八十一町步

合段別二百三十一町六段四畝九步

右ハ今般皇室ニ於テ御要用ノ儀有之内務農商務兩大臣ヘ照會ノ上官有地第一種皇宮地附屬地ヘ編入候條此段報告候也

兵庫縣八部郡須磨村官林ノ地ニ編入ス

岩手縣二戸郡小島谷村外二十五箇村原野ノ宮地附屬地ニ編入ス

宮内省報告 二十三年四月十七日

岩手縣下陸奥國二戸郡小島谷村外二十五箇村總段別二萬五千五百九十二町〇三畝二十二步別紙取調表ノ通皇室ニ於テ御要用有之豫テ内務農商務兩大臣ヘ協議ヲ遂ケ今般官有地第一種皇宮地附屬地ヘ編入候條此段報告候也

(別紙)

郡	新村名	舊村名	字	地目	段	別
二	戸小島谷平	大志田	原野	原野	一一〇	〇〇〇〇
同	同	大關切	同	同	一一〇	〇〇〇〇
同	同	落合	同	同	一一〇	〇〇〇〇
同	同	西田子	同	同	二〇五〇	〇〇〇〇
同	斗米上斗米	上野立當	野	野	二六五	九六〇七
同	同	上野	原野	野	一〇四	二〇二四
同	同	上川	代	同	三一五	八一〇〇
同	同	米内	同	同	三一九	五九〇七
同	同	地竹	澤	同	五八二	七九〇〇
同	同	小端	同	同	三三八	〇八〇〇
同	淨法寺	馬洗場鏡田長阪	同	同	二〇五	〇〇〇〇
同	同	手倉森	同	同	五三八	〇〇〇〇
同	同	大清水	同	同	四二〇	〇〇〇〇
同	同	駒峯	同	同	四〇〇	〇〇〇〇

宮崎縣宮川二縣下官有
原野苗圃等皇室
地ニ編入並ニ岐阜
愛知三縣下官有
地中ノ増減
二十三年五月二十八日宮
内省報告

宮内省報告 二十三年四月二十九日

宮崎外一縣下官有原野苗圃等皇室ニ於テ御要用ノ儀有之内務農商務兩大臣ハ協議ノ上官有地第一種皇
宮地附屬地ニ編入ニ付當省ハ受取候分并岐阜外二縣ニ於テ皇室地附屬地ニ一旦編入ノ後道路敷地其他
ノ事故ニヨリ増減相生候分トモ別紙調書ノ通有之候條此段及報告候也

御料林並原野増減調書

宮崎縣下官有原野

一段別千六百七十一町三段一畝十二步

皇室地附屬地ニ編入ノ分

神奈川縣下官有苗圃

一段別一町三段七畝九步

同上

岐阜縣下官有原野

一段別二町一畝步

農キニ引繼ノ際開洩ノ趣ヲ以テ岐阜縣ヨリ引繼相成タルニヨリ増

同縣下御料林

一段別八畝十七步

皇室地附屬地ニ一旦編入ノ後神社境内ニ引戻ノタメ岐阜縣ニ引渡シタルニヨリ減

一段別一段二畝十一步

同上ノ節實測減

一段別三畝十九步

引繼ノ際開洩ニ付更ニ岐阜縣ヨリ引渡シ相成タルニ付増

長野縣下御料林

一段別二十七步

皇室地附屬地ニ一旦編入ノ後道路敷地トシテ長野縣ニ引渡シタルニ付減

愛知縣下御料林

一段別六步

皇室地附屬地ニ一旦編入ノ後道路敷地トシテ愛知縣ニ引渡シタルニ付減

一段別七畝十八步

皇室地附屬地ニ一旦編入ノ後水路敷地トシテ愛知縣ニ引渡シタルニ付減

一段別一段七步

皇室地附屬地ニ一旦編入ノ後學校敷地トシテ無代下付タルニヨリ減

宮内省報告 二十三年五月二日

秋田縣北秋田郡大野村外一箇村官有原野一段別八百〇四町六段五畝步及山本郡東雲村外一箇村
同一段別三百五十二町三段三畝〇二步合一段別千五百五十六町九段八畝〇二步
皇室ニ於テ御要用有之内務農商務兩大臣ハ協議ヲ遂ケ今般官有地第一種皇室地附屬地ニ編入候條此段
報告候也

宮内省報告 二十三年五月二日

皇室地附屬地ノ内美濃國方縣郡一日市場村字鷹野御料林一段別八畝十三步ノ内一段別十二步堤塘敷地トシ
テ岐阜縣ニ引渡候條此段及報告候也

宮内省報告 二十三年五月五日

青森縣陸奥國東津輕郡外三郡官有地原野其他別表ノ通一段別四萬八千三百六十六町三段三畝〇七步今般
皇室ニ於テ御要用ノ儀有之候ニ付内務農商務兩大臣ハ協議ヲ遂官有地第一種皇室地附屬地ニ編入候條

秋田縣北秋田郡大野村
外一箇村及山本郡東雲
村外一箇村官有原野
皇室地附屬地ニ編入ス

皇室地附屬地美濃國方
縣郡一日市場村字鷹野
御料林内テ堤塘敷地ト
シテ岐阜縣ニ引渡ス

青森縣東津輕郡外三郡
官有地原野ヲ並
三戸四郡官有原野ヲ並
皇室地附屬地ニ編入ス

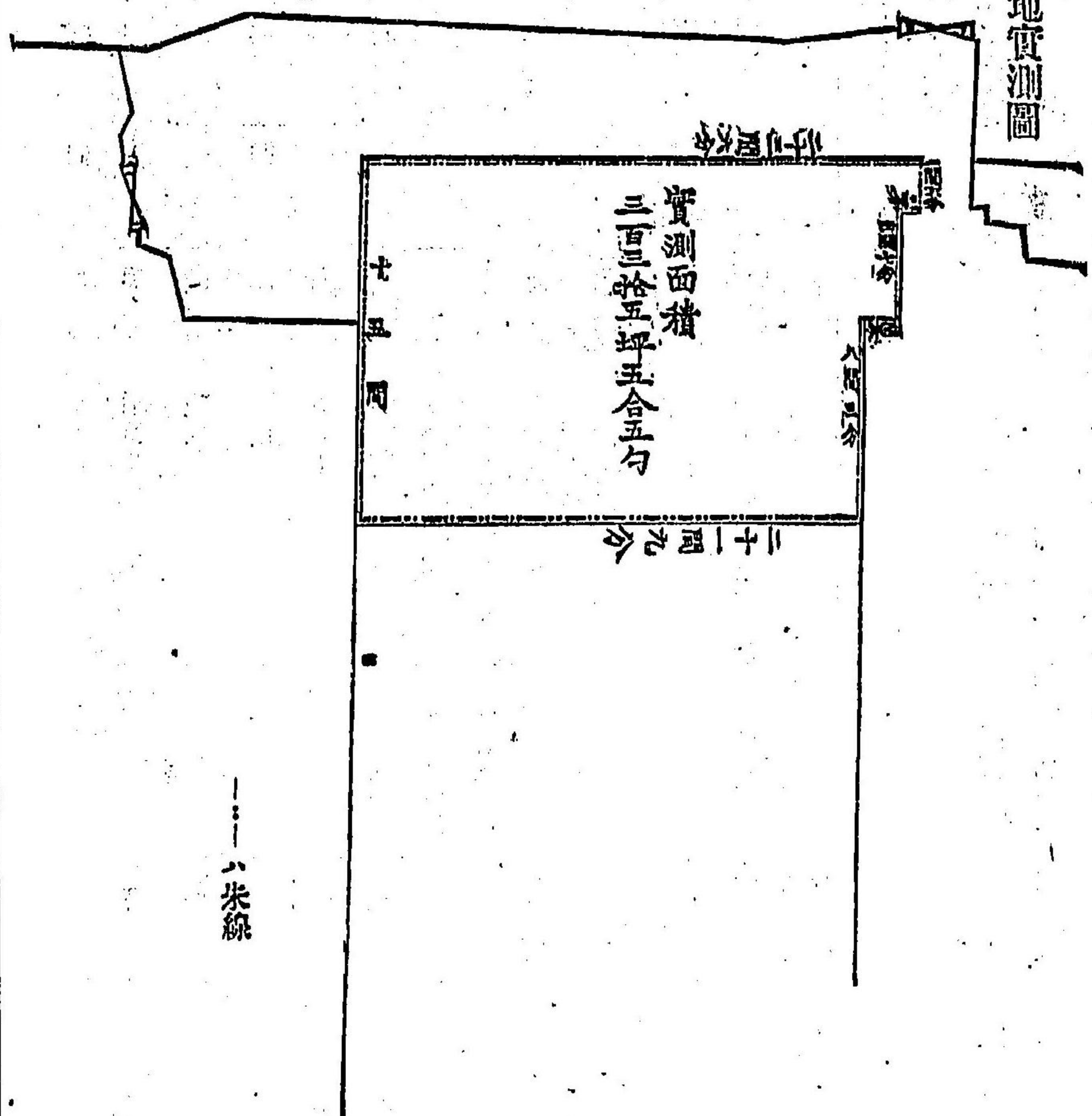
此段報告候也
皇宮地附屬地取調表

國	郡	村	大字	字	地目	段	別
陸奥	東津輕	東平内	口廣	水須、川向口廣澤、口廣澤左右衛門次郎	原野	一九二六三三	
同	上北	天間林	天間館	猪ノ鼻、幸古澤、後平	同	六〇九七三〇	
同	同	同	同	上志多	同	三三〇三七一〇	
同	同	同	同	白石五房ノ下、堰代栗ノ木澤	同	一八四五六一九	
同	同	同	同	作田道	同	一三三三五二八	
同	同	同	同	向中野川向	同	二〇〇〇〇	
同	同	同	同	大平、森ノ澤、館ノ下、森ノ上、中野	同	四七五三五	
同	同	同	同	幸古澤、舟場向川久保、寺澤前	同	三九二七四〇四	
同	同	同	同	原久保、狐久保、大澤、ガヌ平、淋代下	同	二七一四六二七	
同	同	同	同	山瀧澤山、銀頭長根、細津、割出橋ノ上	同		
同	同	同	同	柄ノ木、岩渡、朝日當、寒水、寒水下、五十嵐、細津橋上、中村道ノ上、中村道ノ下	同	四、三五九八一九五	
同	同	同	同	乙供、柳澤	同	三三八〇一〇七	
同	同	同	同	篠内平	同	一〇九六五〇〇	
同	同	同	同	大久保平、大澤、夫雜原下山	同	一、一七九一〇三二	
同	同	同	同	大平、向平	同	七、六四四六一五	
同	同	同	同	切左坂道ノ上、水喰向、岩間手橋上、子ノ島平、瀧澤平、野田、明熊、寒根澤	同	六、六八七五二八	

同	同	同	同	漆玉山、神平、山ノ澤	同	三、四一三三三五	
同	同	同	同	秋取山、板橋平、家ノ下	同	四、三三八二二八	
同	同	同	同	湯田平、山添、深澤	同	九、六八〇八〇四	
同	同	同	同	鶴見平、向平、荒熊内	同	一、六五五三五	
同	同	同	同	荒屋渡ノ上	同	一、六四六四〇〇	
同	同	同	同	淋代	同	一、二四八二二九	
同	同	同	同	母衣平、出生	同	四、〇九九〇一七	
同	同	同	同	井戸頭、樋口	同	二、二六一四二二	
同	同	同	同	下豊良、北ノ平、長田、池ノ平、下町	同	一、六六三三〇六	
同	同	同	同	提深、北野、笹館	同	六、二九二九二七	
同	同	同	同	八斗澤、林ノ後、家ノ下、伊谷澤	同	一、〇八八三三六	
同	同	同	同	北平、下平、里ノ澤	同	三、三六六〇〇一	
同	同	同	同	沖山、余熊	同	九、六五三八一	
同	同	同	同	道ノ下、道ノ上、追館、田茂木、切揚場	同	二、四三三三七〇〇	
同	同	同	同	前谷地、道ノ下、道ノ上、切揚場、湯ノ深、幸ヶ崎、南ノ又山、家ノ上、前田	同	一、八九四八八三二	
同	同	同	同	道ノ下、道ノ上、内子田、千樽、久保ノ内、向田	同	三、七七八九一〇四	
同	同	同	同	三ツ森、猿子澤、野附、穴澤、二又家ノ後	同	六、一〇五二〇〇	
同	同	同	同	坪毛澤、堀切澤、權現澤、根古橋、柳澤、七百、通目木、下久保	同	二、六六八五二〇	
同	同	同	同	四木、下淋代、内金矢、中屋敷	同	一、三三四五八一〇	
同	同	同	同	内山平、向平、向山、濱道、鴉久保山	同		

東京市芝區濱崎町芝離宮表門前海面別紙圖面朱線内 皇室ニ於テ御要用ノ儀有之内務大臣へ協議ヲ遂
ク於當省埋立竣工ノ上官有地第一種皇宮地附屬地へ編入候條此段報告候也

芝離宮表門前埋立地實測圖



皇宮地附屬地ノ内政申
請ニ引續ク段別調書
ヲ訂正ス

宮内省報告 二十三年五月二十八日

皇宮地附屬地ノ内政申請ニ引續相成候段別ニ誤認有之訂正ノ儀同縣ヨリ申越候ニ付別紙調書
ノ通増減相生候條此段及報告候也

御料林並原野増減調書
岐阜縣下武儀郡御料林

一段別三畝十六歩
越キニ岐阜縣ヨリ引繼相成候段別調書ニ誤記有之訂正ノ儀同縣ヨリ申越タルニ付増

同縣下同郡原野

一段別八歩
同上ニ付減

同縣下大野郡原野

一段別五畝四歩

越キニ岐阜縣ヨリ引繼相成候段別調書ニ掲載有之タル處右ハ民有地ヲ誤テ村長ヨリ調出シタル
ヲ其儘書載セシモノニ付削除ノ儀同縣ヨリ申越タルニ付減

右ノ通

宮内省報告 二十三年六月三日

神奈川縣足柄下郡元箱根村長有地附屬地ニ編入ス
神奈川縣下相模國足柄下郡元箱根村舊札場其他ノ民地買上竝ニ獻納地共別表ノ通合段別百二十五町三
段二畝十七歩今般 皇室御要用ノ儀有之内務大臣へ協議ノ上官有地第一種皇宮地附屬地ニ編入候條此
段報告候也

買 收 地

神奈川縣鎌倉郡御料林
段別ノ雜報ヲ訂正ス

宮内省報告 二十三年六月九日

神奈川縣下相摸國鎌倉郡

腰越津村腰越字神戶御料林 △印ハ朱書

一段別六段七畝十九步

一段別四段七畝十九步

差引一段別二段步

右ハ朱書ノ通籤キニ御料地へ編入濟ノ處今般誤謬發見段別訂正ノ儀静岡支廳長ヨリ届出候ニ付前記ノ
通段別相減候條此段報告候也

編入高

訂正高

減高

宮内省報告 二十三年六月廿二日

神奈川縣下

武藏國久良岐郡中村字谿御料林

一段別十九步

同縣

同國西多摩郡調布村字金丘御料林一段別一町八段三畝十四步之内

一段別五段一畝五步

合段別五段一畝二十四步

右ハ本年二月十二日送第七二號ヲ以テ皇宮地附屬地へ編入ノ儀及報告候官林及官有山林原野ノ内ニ有
之候處既ニ民有地ニ編入ノモノニ付削除方神奈川縣ヨリ申越ニ依リ前記ノ通り相減候條此段報告候
也

東京市麹町區元千代田
町外ニテ實町官用地並
路ノ手取敷等ノ皇宮地
附屬地ニ編入ス

宮内省報告 二十三年六月二十一日

東京市麹町區元千代田町一番地其他別紙圖面並坪敷調所ノ箇所 皇室ニ於テ御要用ノ儀有之内務大臣
へ協議ヲ遂ク該地所官有地第一種皇宮地附屬地へ編入候條此段報告候也

坪敷取調書

麹町區元千代田町一番地

一面積九千四十六坪三合八勺

同 二番地

一面積九百十七坪

一道路敷九千九百三十五坪九合四勺

一濠敷三千六百七十三坪七合五勺

一土手敷千四百六十四坪八合五勺

同祝田町四番地

一面積三千九百九十坪八合四勺

一道路敷九千七百七十二坪八合五勺

一濠敷八千九百三十七坪

一土手敷千四百八十坪九合一勺

同寶田町五番地

一面積九百十四坪五才

同寶田町

一道路敷一萬四百八十二坪五合

一土手敷千二百二十六坪四合

元陸軍省用地

元陸軍省用地
下水敷共

元元老院用地
下水敷共

下水敷共

- 一 濠敷千九百三十一坪
- 同大手町一丁目二番三番地
- 一 面積一萬五千七百三十五坪九合
- 一 道路敷一萬坪八合三勺
- 一 濠敷千三百十五坪七合五勺
- 同元衛町
- 一 道路敷四千二百二十八坪二合七勺
- 一 濠敷四千六坪七合五勺
- 同竹平町一番地
- 一 面積五千六百二十九坪一合三勺
- 一 面積五千六百二十九坪一合三勺
- 外六百三坪七合五勺
- 一 道路敷五千六百二十五坪六合八勺
- 一 土手敷四百八十八坪五合六勺
- 一 濠敷二千二百二十八坪五合
- 同代官町
- 一 道路敷九千九百八十坪四合九勺
- 一 土手敷二萬二千三百三十四坪七合六勺
- 一 濠敷二萬二千七十六坪
- 同飯田町一丁目
- 一 道路敷百十坪五合
- 一 濠敷七千五百七十六坪二合五勺

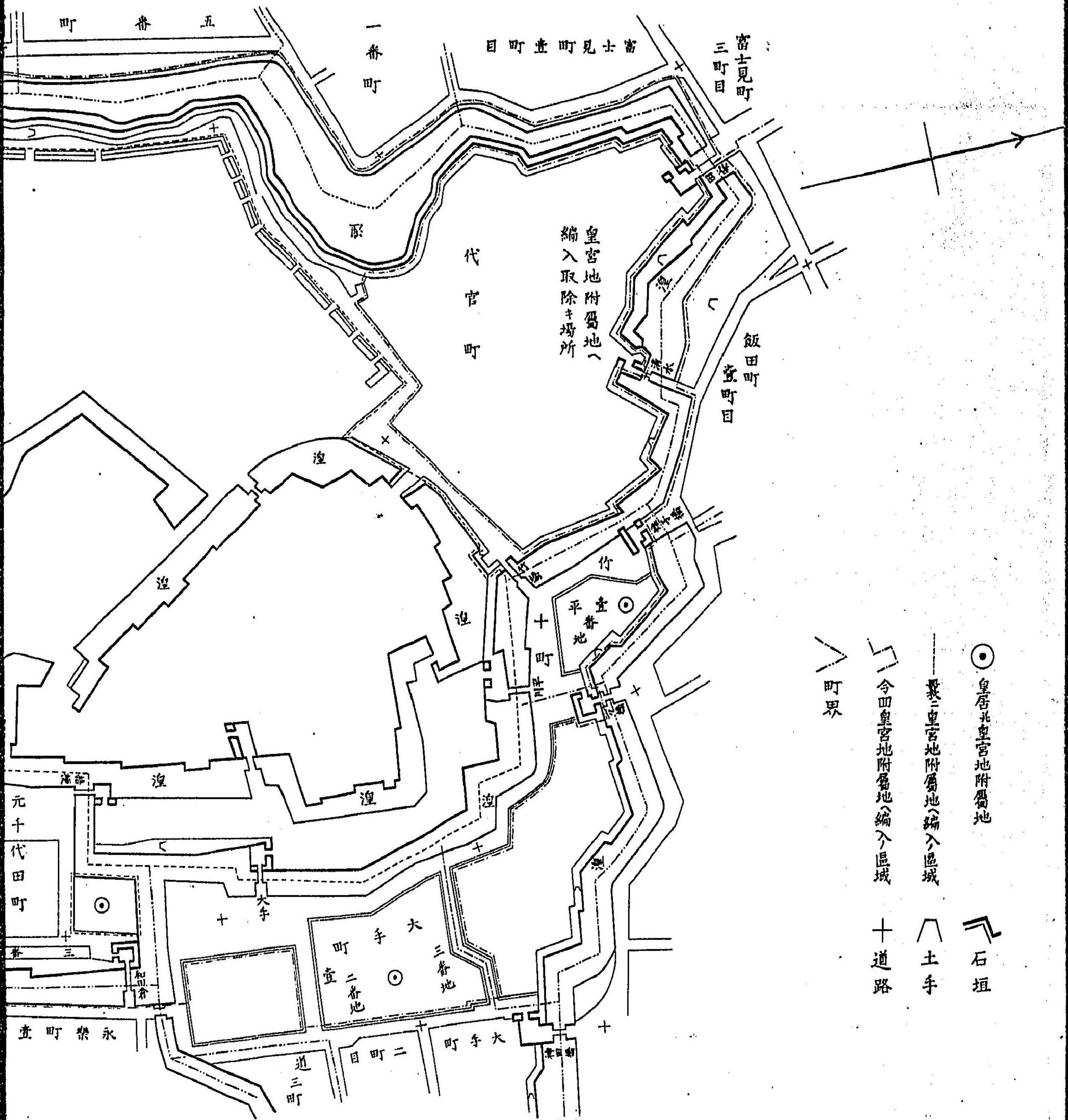
元內務省用地
下 水敷 共

下 水敷 共

元文部省用地
元文部省用地
土 手 敷
下 水敷 共

- 同富士見町一丁目
- 一 道路敷二十六坪
- 一 土手敷九百一坪八合
- 一 濠敷三千百九十六坪五合
- 同一番町
- 一 土手敷千四百七十七坪七合五勺
- 一 濠敷六千六百七十四坪
- 同五番町
- 一 土手敷千二百三十七坪五合
- 一 濠敷三千三百九十坪
- 同元園町一丁目
- 一 土手敷二百七十三坪
- 一 濠敷五百九十五坪
- 同麴町一丁目
- 一 濠敷百九十九坪
- 一 土手敷千二百四十八坪八合
- 同山元町一丁目
- 一 道路敷三百六坪
- 一 濠敷九百五十坪
- 一 土手敷二百九十二坪五合
- 同準町
- 一 濠敷六千百四十六坪

- 一土手敷二千七百二坪
- 同永田町一丁目
- 一濠敷四千六百二十坪
- 一土手敷千九百七十六坪
- 同外櫻田町
- 一濠敷三千八百九十五坪
- 一土手敷七百八十八坪
- 一道路敷三十九坪
- 同西日比谷町
- 一濠敷四千三百三十二坪五合
- 一道路敷三十六坪
- 同有樂町一丁目
- 一濠敷四千六百八十坪
- 同八重洲町一丁目
- 一濠敷二千九百五十二坪
- 同永樂町一丁目
- 一道路敷九十二坪
- 一濠敷三千六百九十二坪七合五勺
- 計二十三萬千九百九十三坪六合四勺五才



岐阜縣下大野郡加納村
皇宮地附屬地内ノ地籍
數地トシテ除却ス

愛知縣下皇宮地附屬地
内ノ地籍引繼ノ段別ヲ返
戻ス

東京市四ツ谷區仲町第
四御料地ヲ拂下ケ皇宮
地附屬地トシテ除却ス

宮内省報告 二十三年六月二十三日

皇宮地附屬地ノ内岐阜縣下大野郡加納村字古墓所千九十六番原野段別一段八畝二十七步ノ内段別一段一畝十四步竝同所千九十七番原野段別二段八畝歩合段別四段九畝十四步堤塘敷地トシテ皇宮地附屬地ヲ除却ノ上岐阜縣へ引渡候條此段報告候也

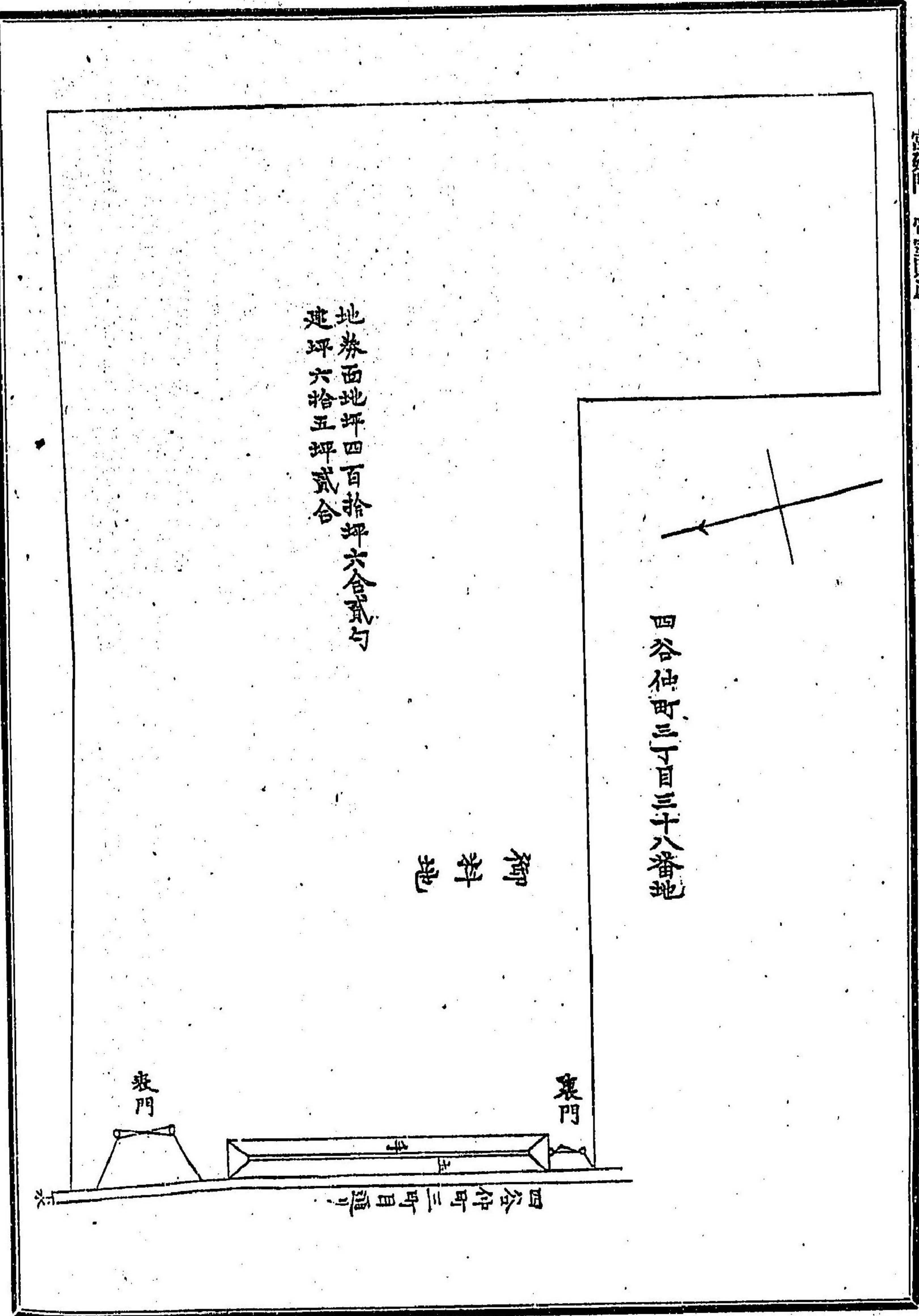
宮内省報告 二十三年六月二十四日

愛知縣下皇宮地附屬地ノ内元官有山野段別三十三町九段三畝二十歩ハ誤テ引繼候モノニテ行政上引戻ヲ要スル趣ヲ以テ引繼帳删除ノ儀愛知縣ヨリ申出候ニ付内務農商務兩大臣承認ノ上皇宮地附屬地ヲ除却シ同縣へ引渡候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年六月二十八日

東京府下四ツ谷區仲町三丁目三十八番地
仲町第四御料地
一面積四百十坪六合二勺
但別紙圖面ノ通

右ノ地所東京府華族子爵錦織教久妹錦織隆子ヨリ排下願出聞届内務大臣へ照會ノ末今般皇宮地附屬地除却致シ候條此段及報告候也



東京府下南豊島郡遊谷村南豊島第四御料地内
近衛兵營敷地トシテ下賜セシモノ返上ニ依リ
皇宮地附屬地ニ編入ス
第四御料地内下賜ノ報告
二十三年四月九日ニ在リ

東京市赤坂區溜池町田
町第一御料地市區改正
設計附屬地ニ係ルニ據リ
皇宮地附屬地トシテ除却ス

宮内省報告 二十三年七月一日

府下南豊島郡遊谷村字常盤松

南豊島第四御料地ノ内

一面積千七百八十二坪

右地所先般近衛兵營敷地トシテ下賜相成候處今般該地所陸軍省ヨリ返上候ニ付内務大臣へ照會ノ上官有地第一種皇宮地附屬地へ編入候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年七月三日

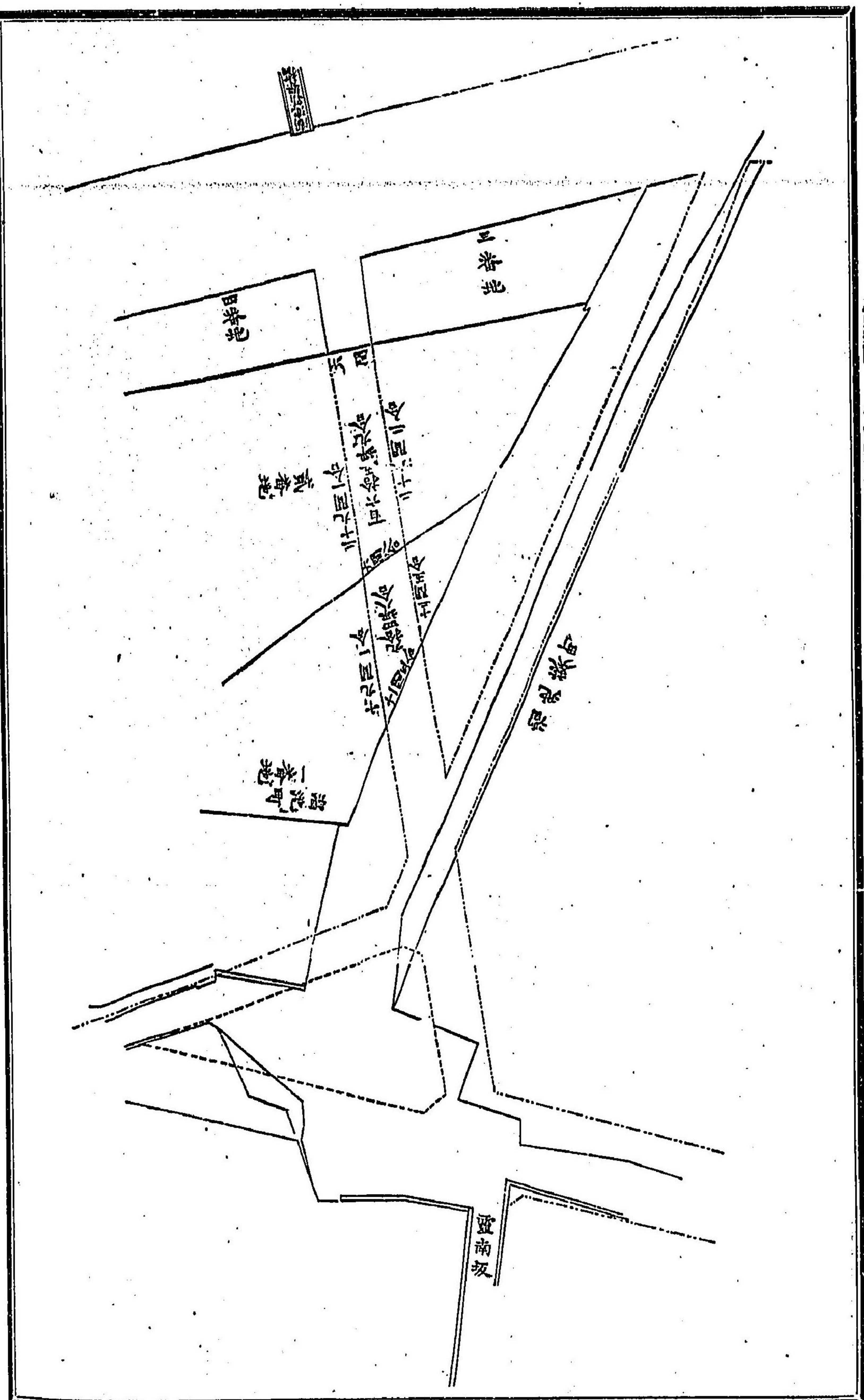
東京市赤坂區溜池町二番地

田町第一御料地

一面積二百六十坪七合

但別紙圖面之通

右ハ市區改正設計中第五等路線ニ係ル旨ヲ以テ皇宮地附屬地除却方東京府知事ヨリ照會之有候ニ付内務大臣へ照會ノ上該地積官有地第一種皇宮地附屬地除却候條此段報告候也



群馬縣西群馬郡伊香保
買取地及獻納地ノ位置
地圖ニ綴入ス

宮内省報告 二十三年七月三日
群馬縣上野國西群馬郡伊香保町大字伊香保民有地今般 皇室ニ於テ御要用ノ儀有之別紙調書ノ通買收
並獻納地共内務大臣へ協議ノ上受領シ該地籍官有地第一種皇宮地附屬地へ編入候條此段報告候也
伊香保民地買上並獻納地坪取調表

國	郡	町	大字	字	番地	地目	段別坪數	買上代價	賣上人名
上野	西群馬郡	伊香保	伊香保	物開山	番地	山林	八三〇三	四九三〇四四	東京市麻布區非坂町三番地 伯爵 井上 馨
同	同	同	同	同	同	同	一五二五	九三三〇八	同
同	同	同	同	同	同	同	一〇〇一	五九七九四八	同
同	同	同	同	同	同	同	三三〇〇	六九〇〇五	東京市麹町區下六番町四十七番地 金井 恭
同	同	同	同	同	同	同	三三〇〇	一五二二二	同
同	同	同	同	同	同	同	一三三〇〇	七九三六九四	同
同	同	同	同	同	同	同	七〇〇〇	三八〇五三八	同
同	同	同	同	同	同	同	一〇〇〇	一〇三二八九	同
同	同	同	同	同	同	同	六〇〇〇	三三七八七五	同
同	同	同	同	同	同	同	二六四三	五〇三四九三	東京市下谷區東馬場町二十一番地 青木 茂
同	同	同	同	同	同	同	二〇〇〇	八六五〇四	同
同	同	同	同	同	同	同	四分五	六〇〇〇〇	同
同	同	同	同	同	同	同	一〇一	一五五〇〇	東京市下谷區東馬場町二十一番地 竹下 康之
同	同	同	同	同	同	同	三三〇〇	一三三〇〇	東京市日本橋區坂本町七番地 田中 銀之助

栃木縣下野原野ノ内
上野原郡上野原外十八
箇所ノ地附屬地ニ
編入ス

宮内省報告 二十三年七月十一日
栃木縣下野原野ノ内上野原郡上野原外十八箇所合段別七千四百六十七町〇九畝二十三步別紙仕譯書
ノ通今般皇室ニ於テ御要用ノ儀有之候ニ付内務農商務兩大臣ノ協議ノ上官有地第一種皇宮地附屬地ニ
編入候條此段報告候也

皇宮地附屬地調

上都賀郡上野原官有原野

一段別八十九町六段九畝二十步

同郡千渡原官有原野

一段別二百三十二町四段二十七步

河内郡荒針原官有原野

一段別百三十八町六段二畝六步

同郡祇園原官有原野

一段別百十三町五段十七步

芳賀郡大内村大字飯貝外五箇所官有原野

一段別二百九町一段九畝十七步

同郡祖母ヶ井村大字祖母ヶ井外四箇所官有原野

一段別四百十二町四段五畝十九步

那須郡佐久山村大字藤澤外三箇所官有原野草山

一段別二百三十九町四段九畝十五步

同郡同町大字福原外二箇所官有原野草山

一段別二百六町四段九畝步

同郡那須村大字高段官有原野

一段別百六十九町三段三畝二十四步

鹽谷郡北高根澤村大字上高根澤外二箇所官有原野

一段別二百五十七町九段九畝七步

芳賀郡真岡町大字龜山大字野原繼*中村大字長田外四箇所官有秣場

一段別百二町二段八畝五步

同郡清原村大字上籠谷大字大内村大字下籠谷官有原野

一段別百二十三町六段五畝十八步

同郡清原村大字氷室官有秣場

一段別百二町四段三畝二十步

同郡同村大字氷室外六箇所官有秣場

一段別六百六十七町五段五畝二十三步

同郡真岡町大字龜山字大野原官有原野

一段別百七十四町三段五畝步

同郡同町大字龜山字大野原繼*大内村大字下籠谷字南原官有原野

一段別九十三町二段八畝一步

同郡水橋村大字東水沼南官有原野

一段別百八十五町九段五畝六步

那須郡湯津上村大字湯津上外十五箇所官有原野

一段別千三百一町八段一畝十七步

同郡那須村大字豊原外三箇所字夕狩原官有原野

一段別二千六百四十六町九段二畝二十一步

奈良縣下添上郡奈良町丸山及春日神社地畝二編入ス

神奈川縣下相州下足柄御料地ヲ關根離宮附屬地ト改稱ス

二十三年十一月宮内省告示第二十七號ヲ以テ世傳御料ニ編入ス
二十三年十二月二十七日官報ヲ以テ關根離宮附屬地ヲ關根御料地ト改稱ス
美濃國岐阜市大字上追加御料地ニ編入ス
美濃國岐阜市大字上追加御料地ニ編入ス
岐阜縣附屬地ノ内儀ヲ引續タル信濃國御料ノ民有ニ歸セシメ段別ヲ削除ス

岐阜縣下各務郡關根村御料地大砲射的場トシテ陸軍省へ交付シ茲宮地附屬地ト改稱ス

青森縣上北郡上北御料内ヲ拂下シ茲宮地附屬地ト改稱ス

岐阜縣上石津郡牧田村柴草山北安八郡西橋村原野附屬地ノ際調池段別ヲ茲宮地附屬地へ増加ス

尾張國西春日井郡萩野村皇宮地附屬地段別ヲ訂正ス

合段別七千四百六十七町九畝二十三歩 但十九箇所

宮内省報告 二十三年七月十四日

奈良縣下添上郡奈良町大字高畑小字丸山

一原野段別一町六段十三歩 民有地

同縣同郡同町春日神社々地雪消澤ノ内

一原野段別九町六段二十三歩 官有地

合段別十一町二段一畝六歩

右民有地ハ獻納願ヲ聽許シ官有社地ハ受取併セテ官有地第一種皇宮地ニ編入ノ儀内務大臣へ協議ヲ遂ケ地種組替相濟候條此段報告候也

官報抄錄 二十三年七月十四日

下足柄第一第二御料地ヲ關根離宮附屬地ト改稱セリ

宮内省報告 二十三年七月十六日

美濃國岐阜市大字上加納字高殿官有地二十七坪ノ儀ハ御料地ニ接續ノ土地ニ付内務大臣へ協議ノ上皇宮地附屬地へ編入岐阜縣ヨリ受領候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年七月十八日

皇宮地附屬地段別ノ内信濃國ニ於テ元官林段別三千六百二十四町三畝二十二歩ノ儀ハ茲ニ長野縣ヨリ引繼ノ帳簿ニ記載有之然ルニ右ハ引繼前民地ニ下尻處分濟ナルコト發見セシテ其旨同縣へ照會候處全ク民有ニ歸シタルモノヲ帳簿へ記載ノ儘誤テ引繼タル旨回答有之候ニ付皇宮地附屬地段別前顯ノ

通削除取計候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年七月二十二日

皇宮地附屬地ノ内岐阜縣下各務郡關根村御料林段別十町一段五畝十二歩大砲射的場トシテ皇宮地附屬地ヲ除却ノ上陸軍省へ引渡候條此段及報告候也

宮内省報告 二十三年七月二十八日

青森縣上北郡浦野館村大字大浦字母衣平出生四十四番上北御料地内

原野段別百十四町八段二畝十九歩ノ内

一原野段別五段九畝二十一歩

右同所七戸村盛田喜平治ヨリ開墾地ニ要スル用水路敷地トシテ拂下ノ儀願出以特別出届ノ上地種組替方内務大臣へ照會ノ末今般皇宮地附屬地除却致候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年八月六日

岐阜縣下上石津郡牧田村字和田柴草山段別三段九歩同安八郡西橋村字外畑原野段別一段歩合段別四段九歩ノ儀ハ茲キニ同縣下官有山野悉皆引繼ノ際調池ノ趣ヲ以テ今般同縣ヨリ引繼候ニ付皇宮地附屬地段別增加取計候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年八月六日

皇宮地附屬地ノ内尾張國西春日井郡萩野村大字光音寺字野方千九百十三番草生地ノ儀ハ茲キニ愛知縣ヨリ一筆限帳ニ段別一畝二十二歩ト記載引繼相成候處右ハ一畝二十一歩ノ誤寫ナル旨同縣ヨリ申出候ニ付皇宮地附屬地段別訂正取計候條此段報告候也

宮廷門 帝室財產

百九十五

内譯

大樽郡ニテ 一〇,〇〇〇〇
 瀬棚郡ニテ 四〇,〇〇〇〇
 島牧郡ニテ 一七,五〇〇〇
 齋都郡ニテ 一五,〇〇〇〇
 歌葉郡ニテ 二一,五〇〇〇
 磯谷郡ニテ 二二,五〇〇〇
 積丹郡ニテ 二一,〇〇〇〇
 美國郡ニテ 三〇,〇〇〇〇
 古平郡ニテ 七,五〇〇〇
 余市郡ニテ 三二,五〇〇〇

石狩國ニテ二十八萬町步

内譯

札幌郡ニテ 四〇,〇〇〇〇
 厚田郡ニテ 一〇,〇〇〇〇
 濱益郡ニテ 一〇,〇〇〇〇
 夕張郡ニテ 三,五〇〇〇
 空知郡ニテ 一〇,〇〇〇〇
 雨龍郡ニテ 五〇,〇〇〇〇
 上川郡ニテ 三,五〇〇〇〇

天鹽國ニテ三十三萬五千町步

内譯

増毛郡ニテ 一〇,〇〇〇〇
 留萌郡ニテ 四,五〇〇〇〇
 苫前郡ニテ 五〇,〇〇〇〇
 天鹽郡ニテ 六〇,〇〇〇〇
 中川郡ニテ 四,五〇〇〇〇
 上川郡ニテ 一,二五〇,〇〇〇

十勝國ニテ十一萬五千町步

内譯

十勝郡ニテ 三〇,〇〇〇〇
 中川郡ニテ 六,五〇〇〇〇
 河東郡ニテ 二〇,〇〇〇〇

釧路國ニテ二十九萬町步

内譯

白糠郡ニテ 六〇,〇〇〇〇
 足寄郡ニテ 六〇,〇〇〇〇
 阿寒郡ニテ 三五,〇〇〇〇
 釧路郡ニテ 四五,〇〇〇〇
 厚岸郡ニテ 三五,〇〇〇〇
 川上郡ニテ 五五,〇〇〇〇

根室國ニテ九萬五千町步

内譯

根室郡ニテ 一五,〇〇〇〇

標津郡ニテ 四〇〇〇〇
目梨郡ニテ 四〇〇〇〇
北見國ニテ二十九萬二千五百町步

内譯

- 宗谷郡ニテ 五五〇〇〇
- 枝幸郡ニテ 八二五〇〇
- 紋別郡ニテ 六五〇〇〇
- 常呂郡ニテ 八五〇〇〇
- 網走郡ニテ 二五〇〇〇
- 斜里郡ニテ 八〇〇〇〇

合計二百萬町步

北海道廳上請二十三年五月十六日
 北海道森林ノ内二百萬町步 皇室御財產へ編入相成度右差支有無宮内省ヨリ照會有之候ニ付取調候處
 支障無之而巳ナラヌ御料ニ歸シ候ハ、森林ノ改良増殖保護等行届キ大ニ當道將來ノ利益トモ相成一方
 ニハ確實ノ御財產トナリテ永遠 皇室ノ御尊榮ヲ保持セラレ、ニ於テ裨益尠カラスト認候條當廳於テ
 差支ナキ旨同申致置候間右御編入ノ儀裁可相成度此段上請候也
 指令二十三年六月十一日

北海道森林ノ内 皇室御財產へ編入ノ件上請ノ通裁可セラレ
 御料局ヨリ北海道廳へ照會二十二年一月十四日
 御廳御所管北海道總體ノ官林若シ御廳ニ於テ御差支無之候ハ、當省へ受取 帝室御財產ニ相備へ申度
 候依テ御差支無之候ハ、該官林簡所名段別并收支計算書等承知致度候條乍御手敷可成早々御取調越被
 下度此段及御照會候也
 北海道廳ヨリ御料局へ回答二十二年一月十七日
 當廳所管北海道官林 帝室御財產ニ相備へ相成度ニ付官林簡所其他開越候條第一三號御照會ノ趣了
 承當道森林ノ簡所段別收支計算等ハ目下取調中ニ付御即答及兼候條右御承知相成度此段及御回答候也
 御料局ヨリ北海道廳へ回答二十二年一月十八日
 貴廳御所管北海道官林 帝室御財產ニ相備へ度云々及御照會候處昨十七日付ヲ以テ森林ノ簡所段別收支
 計算等ハ目下御取調中ニ付御即答相成兼候旨御回報ノ趣致承知候然ル處北海道官林ヲ 帝室御財產ニ

可奉備儀ニ付テノ御差支有無御書面中判然致兼候間右ハ御差支ハ無之哉御財產取調上ニ於テ都合モ有
 之候ニ付尚及御協儀候條否折返シ煩御回答度候也
 北海道廳ヨリ御料局へ回答二十二年一月二十二日

北海道官林ヲ 帝室御財產へ奉備ノ儀ニ付第一七號御來意ノ趣了承右ハ森林段別收支計算等目下取
 調中ニ付調整済ノ上ニ非サレハ御財產へ奉備差支有無確實致兼候間右ニ御承知相成度此段及御回答
 候也
 北海道廳ヨリ御料局へ回答二十二年十月十一日

北海道森林ノ儀ニ付第一號御照會ノ次第モ有之候處今同尋常ノ見込モ相立候條全道森林中差支無之部
 分凡二百萬町步 御財產ニ編入相成候儀聊カ差支無之候尤モ差向概算ヲ以テ御引渡ノ上追テ詳細調査
 授受可取計見込尙委細ノ儀ハ追テ御協儀可致候ヘトモ不取敢此段及御回答候也
 追テ本文町步ノ數ハ實測済ノ上ニアラサレハ勿論確定不致候ヘハ他日ニ於テ多少ノ増減可有之候條
 其邊御承知相成度爲念此段申添候也
 宮内省ヨリ北海道廳へ照會二十三年三月二十日

北海道森林當省ニ受取方ノ儀ニ付會テ當省御料局ヨリ申入候儀モ有之候處右ハ今般其森林四百萬町步
 皇室御財產トシテ當省へ受取官有地第一種皇宮附屬地ニ編入致度候條差支無之候ハ、引渡方御取計
 有之度此段及御照會候也

北海道廳ヨリ宮内省へ回答二十三年三月二十一日
 送第一六一號ヲ以テ北海道官林四百萬町步ヲ 皇室御財產トシテ御省へ引渡方御照會ノ處右ハ毫モ差
 支之無ニ付其旨内閣へ上請致候條指令次第更ニ授受ノ御協儀可致ト存候此段及御回答候也

北海道廳ヨリ宮内省へ稟中二十三年五月十六日
 三月二十日付北海道森林四百萬町步御財產トシテ御編入相成度ニ付差支有無御照會ニ對シ同二十一日
 付ヲ以テ差支無之旨御回答致置候處今同品川御料局長ヨリ更ニ指示ノ次第モ有之候ニ付右ハ二百萬町
 步御編入ノ事ニ引直シ内閣へ其旨上請仕候條右ニ御了承相成度此段上申候也

御料局ヨリ北海道廳へ照會二十二年十月十九日
 北海道森林ノ儀ニ付兼テ御申越ノ次第モ有之候處全道森林中凡二百萬町步ハ御財產ニ編入相成共差支
 無之旨本月十一日付御回答ノ趣了承右ハ御料地ニ編入致度候條明年雪解ノ頃見計實地取調候條致度其
 節諸事可及御協儀候條編入ノ事ニ御承知置有之度此段尙ホ亦申進候也

内閣書記官職案二十三年五月十七日
 別紙北海道廳長官上請ノ趣ヲ案スルニ北海道森林ノ内二百萬町步 皇室御財產へ編入ノ儀宮内省ヨリ
 照會有之同應ニ於テ差支ナキノミナラス御料ニ歸シタル上ハ森林ノ改良増殖方モ行届キ將來該地方ノ
 利益トモ可相成ニ付御財產ニ編入相成度トノ旨ナリ右ハ上奏ノ上左ノ通指合相成可然ト認ム

神奈川縣足柄下郡箱根
同共有山林ノ内ニ皇宮地附
屬地ニ編入ス

宮内省報告 二十三年九月二日
神奈川縣下相摸國足柄下郡箱根驛共有山林合段別六十六町四段十二步別紙調書ノ通今般皇室ニ於テ御
要用有之候ニ付内務大臣へ協議ヲ遂ケ該地買收ノ上官有地第一種皇宮地附屬地へ編入候條此段報告候
也

皇宮地附屬地段別調書

神奈川縣足柄下郡箱根驛

字屏風山五百六十二番

一山林段別十一町一段六畝四步

同縣同郡同驛字同所五百六十三番

一山林段別十三町一段六畝七步

同縣同郡同驛字同所五百六十四番

一山林別段七町九段九畝二十八步

同縣同郡同驛字同所五百六十五番

一山林段別五町七段九畝十八步

同縣同郡同驛字同所五百六十六番

一山林段別十町四段三畝二十四步

同縣同郡同驛字同所五百六十七番

一山林段別十一町四段三畝七步

同縣同郡同驛字屏風流五百六十一番ノ内

一山林段別六町四段一畝十四步

合段別六十六町四段十二步

一驛共有地

同 同 同 同 同 同

群馬縣下利根郡川田村
官有地ノ内ニ皇宮地附
屬地ニ編入ス

宮内省報告 二十三年九月十七日

群馬縣下利根郡川田村官有地ノ内合段別百四十町五段一畝二十三步別紙仕譯書ノ通今般 皇室ニ於テ
御要用ニ付内務農商務兩大臣へ協議ヲ遂ケ官有地第一種皇宮地附屬地へ編入候條此段報告候也

皇宮地附屬地取調表

國	郡	村	大字	字	地番	地目	別
上	野利	根川	田下川田	入澤	四二一、	秣場	町段畝步
同	同	同	同	同	四二〇、	同	八六八二七
同	同	同	同	同	四三〇、	同	九、九五〇七
同	同	同	同	同	四四九、	同	五、二九二一
同	同	同	同	同	四五〇、	同	五、九九一一
同	同	同	同	同	甲二九九、	同	一三、八五一八
同	同	同	同	同	二九九、	同	二、八九〇六
同	同	同	同	同	大平	同	二、三六〇〇
同	同	同	同	同	水久保	同	二、五五一一〇
同	同	同	同	同	岩本	同	一、四六三二
同	同	同	同	同	戸島前	同	一、四七四二
同	同	同	同	同	杓子	同	一、四八二二
同	同	同	同	同	同	同	〇、四八一
同	同	同	同	同	同	同	一、七二〇八
同	同	同	同	同	同	同	〇、〇九〇八
同	同	同	同	同	同	同	一、五六一八
同	同	同	同	同	同	同	〇、三三七

同	同	同	銅久保	一八五八同	八段十五步
同	同	同	鶴ヶ子	一八六八同	一町八段六畝九步
同	同	腹際	二〇一五同	同	十町六段四畝二十一歩
合計					六百五十九町四段二畝二十八歩 内三町歩 官林

宮内省報告 二十三年十月八日

東京市神田區一橋通町
文部省用地ヲ皇宮地附
屬地ニ編入ス

神田區一橋通町二十一番地

一面積八百七十一坪四合一勺

同二十二番地

一面積七百六十一坪二合一勺

右ハ文部省用地ニ有之候處今般同省ト協議ノ末地所建物共當省ニ於テ受領候ニ付内務大臣ヘ照會ノ上
該地官有地第一種皇宮地附屬地ニ編入候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年十月二十九日

岩手縣二戸郡小島谷村
皇宮地附屬地ヲ除却ス

巖手縣下陸奥國二戸郡小島谷村大字中山地内字西田子皇宮地附屬地

一凡段別千八百二十町歩

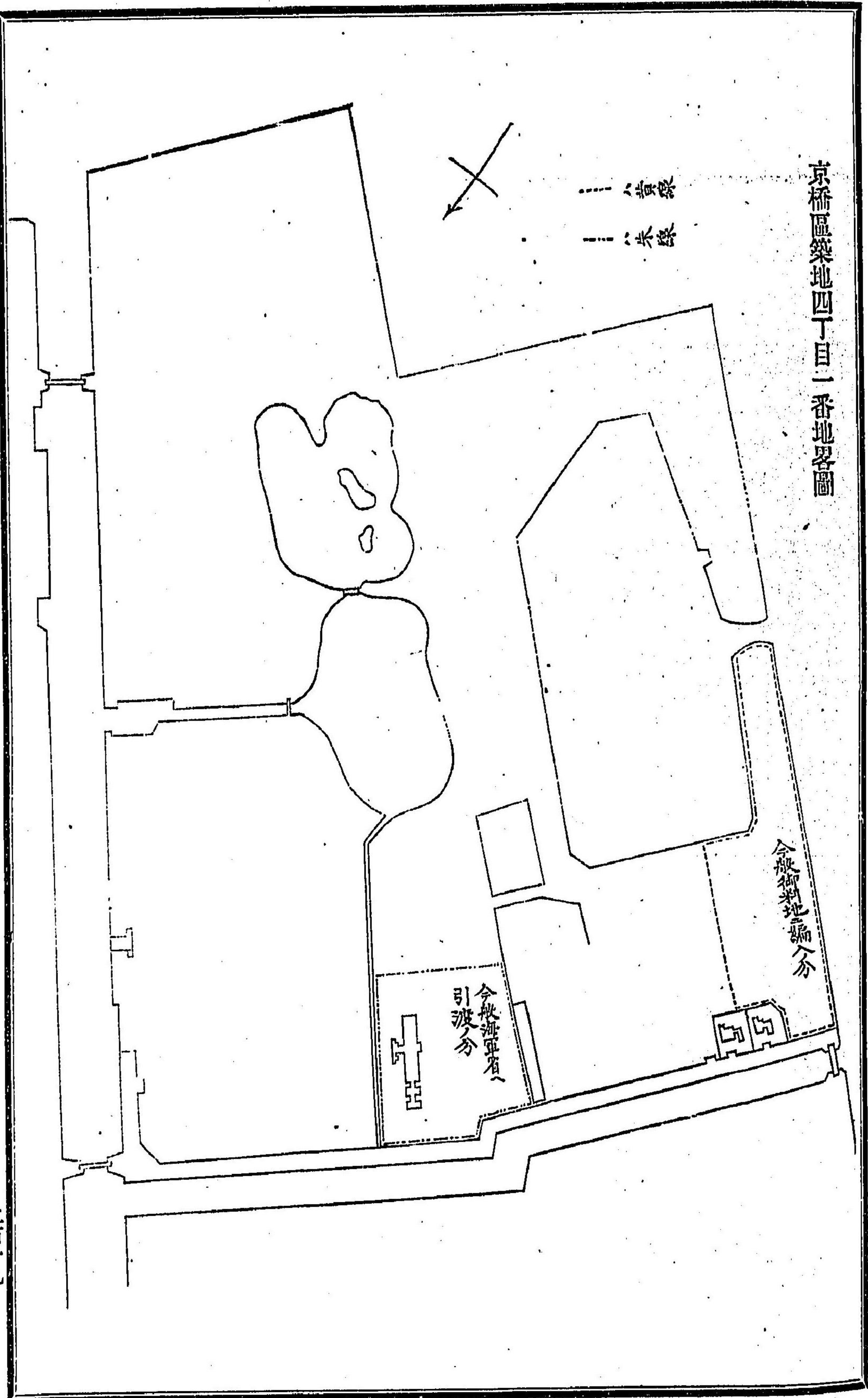
右地所陸軍々馬育成所用トシテ入用ノ旨陸軍省ヨリ照會ノ次第モ有之候ニ付内務大臣ヘ照會ノ上今般
皇宮地附屬地除却致候條此段報告候也

宮内省報告 二十三年十月三十一日

東京市宮橋區築地四丁
目一番地内皇宮地附屬
地ヲ同所陸軍省用地ト
交換ス

京橋區築地四丁目一番地ノ内官有地第一種皇宮地附屬地面積四千五百二十三坪五合三勺ト海軍省用地
同番地内同坪數ト彼是交換ノ儀海軍省ヨリ協議ノ次第モ有之候ニ付今般内務大臣ヘ照會ノ末實地交換
受授取計相濟候條別紙圖面相添此段報告候也

京橋區築地四丁目一番地畧圖



段戸御料地	愛知縣三河國北設樂郡
錦織御料地	岐阜縣美濃國可兒郡
上川御料地	北海道廳石狩國上川郡

右御料地ノ面積段別及境界ハ御料局ニ保存スル所ノ圖面ヲ以テ標準トス
右宮城皇宮御所離宮竝寶庫ハ其土地建造物ヲ包含シ其動産ノ世傳御料ニ編入スヘキモノハ別ニ之ヲ
定ム

宮内省報告 二十三年十二月二十六日

皇宮地附屬地ノ内増減相生シ候分別表ノ通有之候條此段及報告候也

皇宮地附屬地増減調表

國	郡	村	字	地種	摘	要	段	別
信濃	上伊那	西春近	井田	原野	為ニ引繼ノ際脱落ノ越サ以テ及野縣ヨリ引繼ニヨリ増		〇〇四〇七	
同	同	同	大師	山林	同		〇〇二一四	
同	同	飯島	保山久	林	引繼ノ帳簿ニ誤記有之旨長野縣ヨリ申越ニヨリ減		〇〇〇〇三	
同	下伊那	平岡	堂下	原野	遺跡者ハ掃下野ノモリヲ移轉訂正減ノ旨引繼タル旨長野縣ヨリ申越ニヨリ減		〇〇〇二四	
同	西筑摩	池田	若宮	林	長野縣ヨリ引繼ノ際誤調ニヨリ増		〇〇五三二	
美濃	可兒	池田	若宮	林	為キニ引繼ノ際重畳田ニ付除却ノ儀未嘗支障ヨリ申越ニ付減		〇〇五二二	
同	同	同	日影	林	民有地ニ歸シタルモノヲ誤テ引繼相成タルニ付減		〇〇〇三〇	
同	下石津	上野	日影	林	長野縣ヨリ引繼ノ際帳簿重複ニ付同縣ハ照會ノ上減		一八二七〇〇〇	
同	武儀	下有知	小野外ニ二	林場	引繼ノ際相積ノ旨ヲ以テ長野縣ヨリ引繼ニヨリ増		〇〇〇〇九	
同	各務	鵜沼	小野外ニ二	林	十二年中國軍省對峙時トシテ引渡ノ旨長野縣ヨリ引繼ノ旨ヲ以テ減		〇九四二八	

同	本巢	上高屋	大判	山林	調波ノ旨ヲ以テ岐阜縣ヨリ引繼ニヨリ増		〇〇四〇三	
同	同	敷屋	御茶屋	山林	為キニ引繼ノ際誤調ニヨリ増		〇一五二五	
同	安八	落合	東瀬古	山林	帳簿上重複引繼ニヨリ減		〇〇七〇三	
同	厚見	江崎	川添	原野	川敷トシテ第四土木監督署派出所へ引渡ニヨリ減		〇七〇〇〇	
同	不破	宮代	神明屋	原野	帳簿上引繼ノ旨ヲ以テ岐阜縣ヨリ引繼ニヨリ増		〇三三三二	
同	大野	排斐町	古城跡	同	帳簿上重複引繼ニヨリ減		〇五四二八	
同	葉栗	宮田	木田島	草生	引繼ノ際段別誤記ノ廉發見セシニヨリ増		〇〇三三四	
同	東春	外水野	北山	林	道路敷地トシテ愛知縣へ引渡ニヨリ減		一四〇一一	
同	丹羽	岩田	外四	同	同		〇〇七二五	
同	同	同	大畔	同	水路敷地トシテ愛知縣へ引渡ニヨリ減		一六三〇六	
同	東春	同	東屋敷	同	道路敷地トシテ愛知縣へ引渡ニヨリ減		〇三〇一五	
同	日井	玉川	外一	同	道路敷地トシテ愛知縣へ引渡ニヨリ減		〇〇一三三	
同	八名	西郷	向山	同	神社敷地トシテ愛知縣へ引渡ニヨリ減		〇〇一三三	
同	瀝見	高根	名操	同	道路敷地トシテ愛知縣へ引渡ニヨリ減		〇〇一三三	
同	益田	下呂	若宮野	同	道路敷地トシテ岐阜縣へ引渡シタルニヨリ減		〇〇一三三	
同	同	小坂	前田	田	民有地敷上二十三年十二月十一日皇宮地附屬地へ編入ノ旨ヲ以テ増		〇〇八〇六	
同	伊勢	度會	同	林	二十三年六月二日皇宮地附屬地へ編入ニヨリ増		一六三〇六	
同	同	同	同	山林	同		二七三〇〇	
同	同	同	同	原野	同		二八〇二九	
同	同	同	同	同	同		一四二五五五二	
同	多氣	同	同	林	同		〇三九〇八	
同	同	同	同	山林	同			

明治三十三年十二月現在
在帝室財產調查

宮廷門 帝室財產

鹿兒島縣	薩摩國	排宿郡	福元村	新熊ノ地町	二七九〇〇〇〇
同	同	同	同	倉下外一字	三二四〇〇〇〇
同	同	同	日光町	本宮下	二八〇〇〇〇〇
栃木縣	下野國	上都賀郡	日光野村	小倉外五字	三三三〇〇〇〇
奈良縣	大和國	添上郡	奈良雜司村	清水田	三三三〇〇〇〇
靜岡縣	伊豆國	賀茂郡	熱海村	十軒原	一五九八五五五
同	同	同	外四箇村	南原	一〇〇〇〇〇〇
同	同	同	外二箇村	八幡原	一〇〇〇〇〇〇
同	磐城國	西白河郡	外六箇村	三城目原	二二七二一〇〇〇
同	磐城國	西白河郡	外一箇村	藤沼原	二〇八一八〇〇〇
同	同	岩代國	外四箇村	六軒原	一五九三三三三
同	同	岩代國	外二箇村	駒ノ頭	二五八四八九四
同	同	香取郡	吉余岡三村		二五八四八九四
同	同	岩瀬郡	外鏡田村		一五九三三三三

二百二十八

帝室地

明治三十三年十二月三十一日現在

武藏國	宅地	百貳拾町貳反貳畝貳拾五步四四	宮城
同	道敷	百七町四畝〇五步九七五	離宮地
同	沼敷	三拾貳町貳反五畝拾七步七五	
同	土手敷	貳拾町壹畝六步〇六	
同	同	拾貳町七反壹畝貳拾六步五八	

第一種世傳御料 宮城及離宮地

宮廷門 帝室財產

武藏國	宅地	九拾町壹反壹畝五步二九	宮城及離宮地外
同	田	三町六反七畝貳拾壹步	
同	畑	五拾八町貳反九畝貳拾三歩六六	
同	竹林	壹町四反九畝貳拾八歩七	
同	林	三拾八町四反六畝貳歩六貳九	
同	畑	九反六畝貳拾壹歩五	
同	道敷	貳反壹畝壹歩	
同	宅地	六町四畝拾壹歩九九	
同	畑	八反壹畝拾五歩	
同	畑	貳町貳反七畝貳拾貳歩	
同	芝地	百拾七町五反九畝貳拾壹歩	
同	林場	九町四反壹畝壹歩	
同	湖	七百四拾八町六反六畝三歩	

二百二十九

計	國		國和大		國濃美		三河國		飛騨國		信濃國		國江越		國斐甲		國河駿		伊豆國		伊勢國		石狩國			
	寄洲	溫泉敷地	山	宅地	山	林	原	野	山	林	山	林	山	林	原	野	山	林	原	野	山	林	山	林	山	林
	四反貳畝拾壹步	七步	壹萬九千貳百八拾九町五反八畝貳拾貳步	貳町九畝拾七步四	三拾二町三反貳畝拾貳步二八	六萬百五拾六町六畝貳拾貳步	四町六畝拾貳步	三萬貳千六百五拾九町貳反步	拾萬七千六百五拾五町壹反四畝拾步	四拾三萬四千四百貳拾七町八反壹畝貳拾壹步	八萬四千百壹町壹反七畝貳拾八步	九百拾七町三畝貳拾步	拾四萬八千九拾三町八反六畝拾九步	千三百七拾六町六反六畝貳拾步	四萬五百拾八町壹反五畝拾六步	壹萬四千五百四拾三町三反拾三步	四萬四千六百貳拾貳町六反貳拾壹步	壹萬七千三百六拾四町三反六畝五步	壹萬五千五百五拾二町六反貳畝五步五	壹萬五千五百五拾二町六反貳畝五步五	壹萬五千五百五拾二町六反貳畝五步五	壹萬五千五百五拾二町六反貳畝五步五	壹萬五千五百五拾二町六反貳畝五步五	壹萬五千五百五拾二町六反貳畝五步五	壹萬五千五百五拾二町六反貳畝五步五	壹萬五千五百五拾二町六反貳畝五步五

第二種 御料地

津攝		國和大					國城山					國藏武						
濱地	宅地	山林	池	堤	原野	畑地	田地	宅地	土手敷	溝渠	鋤地	荒蕪地	山林	宅地	河岸地	山林	農地	宅地
四反五畝拾七步七三二	八町八反五畝拾七步	拾八町貳反五畝貳拾步	壹反八畝拾壹步	三畝貳拾九步	拾壹町八反三畝貳拾八步	貳町四反壹畝貳拾八步	三町八畝拾八步	五町八反五畝五步七四	六畝步	八畝五步五	四反三畝拾四步	三反貳拾九步九七	拾町四反三畝拾九步	六町五反三畝貳拾四步三三五	貳反五畝五步四三	三町四畝貳拾步	五反四畝拾貳步七七	四拾九町六反八畝步八六二

三		國 張 尾										國 勢 伊 國							
腹生地	草生地	山林	貯木所	山	林	藪	蒲生地	柴生地	野	腹生地	草生地	山	山	原	山	貯木所	原	山	山
貳拾貳步	九町六反四畝步	貳萬三千三百五町九反壹畝貳拾三歩	拾壹町壹反貳畝貳拾壹歩	四百八拾六町九反八畝三歩	三拾三町四反四畝四歩	貳反拾七歩	八反四畝拾壹歩	三畝貳拾七歩	貳反貳畝貳拾七歩	八町七反貳拾三歩	九拾六町四反五畝五歩	貳町七反九畝貳拾六歩	貳萬五百四拾七町四反四畝拾九歩	五畝貳拾壹歩	九百貳拾壹町八反九歩	拾三町八反五畝貳拾七歩	貳町八反六畝貳拾歩	千四百拾九町八反五畝拾六歩八七	貳百三拾壹町六反四畝九歩

總 上			國 豆 伊				國 嬰 甲		國 河 駿			國 河							
秣山	葦生地	野地	秣場	山林	畑地	田地	宅地	原山	山	海岸地	海面	宅地	野	山	林	藪	秣場	催生地	柴生地
五百八拾三町九反七畝貳拾九歩	七拾五町壹畝貳拾五歩	貳千貳百三拾町五反四畝拾六歩	壹反九畝八歩	壹町三反六畝九歩	八畝貳拾七歩	壹町壹反貳畝拾六歩	九反三畝拾七歩	五萬八千五百四拾八町四畝拾六歩	貳拾壹萬千七百六拾壹町九反四畝步	壹町九畝步	貳町三反五畝八歩	貳反三畝貳歩	三拾三町四反八畝拾三歩	百拾貳町八反壹畝拾歩	五町壹反五畝拾六歩	貳反八畝拾歩	九反七畝貳拾五歩	五反貳畝貳拾七歩	三反四畝拾壹歩

國 總 下										國 陸 常			國						
芝	田	宅	林	沼	原	寄	草	山	芝	砂	海	眞	草	洲	山	陸	芝	草	原
芝地	田地	宅地	林地	沼地	原野	寄洲	草地	山林	芝地	砂地	海面	眞生地	草地	洲池	山林	陸地	芝地	草地	原野
八百八拾六町六反壹畝拾三歩	百貳拾五町七反六畝貳拾歩	七百七町貳反三畝四歩	四百拾八町六反六畝貳拾壹歩	四拾三町壹反三畝貳拾四歩	五町七反六畝貳拾六歩	三町三反九畝拾四歩	貳千四百九拾貳町三反七畝歩	貳反拾三歩	百七拾八町四畝貳拾九歩	貳拾五町九畝五歩	九町壹反六畝貳拾九歩	九町六反八畝貳拾四歩	五拾壹町九畝拾歩	貳町九反五畝拾六歩	九拾町四反三畝拾貳歩	貳拾貳町貳反貳拾八歩	貳拾八町貳畝貳拾五歩	三町六反貳畝拾歩	四萬七千八百貳町四反貳拾六歩

國 飛 飛										國 飛 飛		國 飛 飛		國 飛 飛		國 飛 飛		國 飛 飛		
原	草	芝	秣	藜	藜	雜	柳	腹	網	柴	原	芝	山	原	山	原	山	山	山	沼
原野	草地	芝地	秣場	藜地	雜木林	柳生地	腹生地	網場	柴山	原野	芝地	山林	原野	山林	山	原	山	山	山	沼
百四町九反九畝六歩	百三拾町壹反七畝貳拾壹歩	六町六畝貳拾七歩	六拾三町九反壹畝拾九歩	三畝拾六歩	壹町八反貳畝七歩	三町七反八畝歩	貳町六反貳畝貳拾五歩	四町六畝拾貳歩	四反壹畝六歩	九畝九歩	四反六畝九歩	五萬六百四拾五町五反八畝九歩	拾六町六反六畝貳拾五歩	六千八百七拾貳町四反六畝貳拾貳歩八	三百六拾壹町八反九畝拾九歩	壹反九畝貳拾三歩	七反六畝貳拾壹歩	貳萬七千九百四拾八町三畝壹歩	貳百九拾八町五反八畝貳拾九歩	

國野下																					
秣	岩	田	畑	地	宅	山	柴	芝	池	藪	原	崖	川	堀	草	社	湖	温泉	秣	原	
秣場	岩山	田地	畑地	宅地	山林	柴山	芝地	池地	藪地	原野	崖地	川敷	堀敷	草山	社地	湖水	温泉敷地	秣場	原山野		
貳千七百七拾九町三反七畝貳拾六步	三拾町八反貳拾步	五町四反五畝步	貳町壹反拾五步	三反八畝拾五步	六千八百六拾三町九反七畝拾八步	貳拾七町五畝貳拾七步	拾三町五反七畝四步四七六	貳反五畝三步	壹町七反九畝貳拾三步	六千貳百九拾三町壹反八畝貳拾七步四七	八反四畝六步	拾町三反九畝貳拾四步	貳反壹畝拾壹步	七百五拾壹町壹反七畝拾九步	四百三拾町步	七百貳拾町步	四畝三步	七百六拾九町九反九畝拾三步	四百四拾五町九反八畝拾五步		

國代岩										國盤岩			國中險				國前陸			國與陸		
秣	宅	荒	荒	林	原	田	原	草	山	原	野	荒	叢	生	秣	原	草	草	野	原		
秣場	宅地	荒地	荒地	林	原野	田地	原野	草山	山	原野	野	荒蕪地	叢生地	秣場	原野	草山	草山	野	原野			
五百八拾七町九反五畝八步	壹反五畝貳拾步	六町九反貳畝貳步	壹反四畝拾貳步	拾四町五反七畝貳拾貳步	四百拾五町九反五畝貳拾九步	三反四畝貳拾壹步	七百五拾七町七反貳畝步	貳百三拾五町五反七畝貳拾步	八千四百五拾壹町五反壹畝貳拾貳步	五百貳拾五町步	四千四百八拾六町四反七畝貳拾步	七百七拾八町三反九畝貳拾八步	三百八拾壹町九反壹畝貳拾四步	百六町三反四畝貳拾貳步	六百四拾六町壹反三畝貳拾五步	百拾壹町九反壹畝七步	九千七百六拾四町六畝拾三步	貳百六拾五町九反六畝七步	四萬九千五百九拾壹町三反六畝貳拾四步			

伊駿河國	佐渡國			馬場國				周防國	羽後國	羽前國	城							
	山	宅	畑	畑	原	宅	山				畑	原	炭	秣	宅	荒	荒	林
山林	海面	山地	畑山	畑地	原野	宅地	山林	畑山	原野	炭山	秣場	宅地	荒田	荒畑	林	原野		
壹萬三千六百拾壹町四反六畝貳拾三步	六町九反五畝拾七步二	五畝拾步	九畝貳步	五拾八町貳反四畝八步三	五畝步	拾八步六	三畝貳拾步	貳反八畝貳拾七步	貳百拾八町壹反六畝貳拾四步	貳百八拾三町五反五畝拾壹步九九	拾四町貳反壹畝拾三步	千百五拾六町九反八畝貳步	壹町四畝貳步	四百七拾三町五反四畝拾步	壹反五畝步	貳町三反九畝步	貳町四反七畝貳步	千八百三拾七町三反壹畝拾六步

根室國	釧路國	十勝國	天鹽國	後志國	膽振國	渡島國	日高國		石狩國	樺太國	陸奥國	日向國	相模國		關東國				
							畑	原					山	原					
森林	森林	森林	森林	森林	森林	森林	畑地	原野	畑地	宅地	山林	山林	山	原	原山				
九萬五千町步	貳拾九萬町步	拾壹萬五千町步	三拾三萬五千町步	拾五萬貳千五百町步	貳拾壹萬町步	拾三萬町步	五反七畝貳拾三步三五	百九町九畝三步	三萬八千七百四拾五町四反四畝拾八步三三	九拾壹町四反九畝拾六步〇三	壹町六反四畝步	貳拾八萬町步	拾貳步	四反四畝拾貳步	四反八畝六步	千六百拾九町八反壹畝拾貳步	四百七拾町壹反九畝壹步	七千四拾五町貳反六步	壹萬貳千貳百三拾町四反五畝五步九六

北見國	森	林	三拾九萬貳千五百町步
計			貳百六拾三萬三千七百五十六町七反三畝拾五步四貳五
通計			三百六拾四萬四千四百貳町七反拾貳步〇八九

水戸孝允外五名勅撰碑
建設費臨時帝室費ト
シテ宮内省へ交付ス

宮内省附議二十一年二月二十四日(按抽門建設)
故水戸孝允以下六名勅撰碑建設ノ儀去ル十六年十月別紙甲號寫ノ通太政大臣ヨリ違有之候ニ付同月別
紙乙號寫ノ通相伺既ニ指令濟ニ候得共碑文御下渡無之爲メ今日迄其儘經過致來候然ルニ其後出納規則
モ御改正宮内省費ハ帝室費ヘ一併シテ交付切ノ順序ニ相成候ニ付右建碑費ノ儀モ臨時帝室費トシテ御
波可相成儀ト存候就テハ銅製ノ積ヲ以テ費額豫算取調候處別紙丙號ノ通一名分金六千五百圓ヲ要シ候
見込ニ付六名分合計金三萬九千圓二十一年度ニ於テ臨時帝室費トシテ交付切ニ相成度尤今後碑文撰定
次第追々著手實際建設ノ上費額上不足ヲ生シ候ハ、別段支出ヲ請ハス帝室費定額中ニテ支辨可致ト存
候此段開議ヲ請候也
追仲本文銅碑ハ別紙圖面ノ通高サ八尺幅四尺ニシテ銅字凡一千字ノ積蓋石ハ二重ニ仕組四方鐵柵取
附等ノ仕様ニ有之候也

指令二十一年三月九日

請議ノ通

甲號 宮内省へ邊十六年十月九日
乙號 宮内省同十六年十月十五日

右六名へ勅撰碑文下賜候條銅字并建設等總テ於其省可取計此旨相違候事
廣 岩 大 毛 大 木
深 倉 原 利 久 戶
真 具 重 敬 保 孝
臣 視 德 親 通 允

水戸孝允以下六名へ勅撰碑建設等總テ當省ニ於テ可取計旨御違相成候ニ就テハ碑文御下渡ノ上ハ夫々
銅字并建設ノ見込取調候條銅字并建設等總テ當省ニ於テ可取計旨御違相成候ニ就テハ碑文御下渡ノ上ハ夫々
共豫テ相伺置候條何分ノ御指令相伺度候也

指令十六年十一月七日

伺ノ通

丙號 勅撰文銅碑六基新設費概算節儀
一金三萬九千圓 六名分建碑費額
但一名分金六千五百圓

大藏省答議二十一年三月二日 但一基分
二月二十七日付内閣邊第二五號ヲ以テ宮内大臣請議水戸孝允以下六名勅撰碑建設費下付ノ件ニ付意見
承知致度旨御照會ノ趣了承右ハ不得止事ト存候ニ付可決相成可然候此段及御答候也
内閣書記官議案二十一年三月六日
別紙宮内大臣請議水戸孝允以下六名勅撰碑建設費交付ノ件ヲ調査スルニ右ハ去ル十六年中宮内省伺出
ニ依リ一切ノ費額別途下渡ノ儀許可セラレタル處其後碑文未定ノ爲メ今日マテ遷延シタリ就テハ右費
用一名分金六千五百圓トシ六名分合計金三萬九千圓ヲ二十一年度ニ於テ臨時帝室費トシテ交付切ニ相
成碑文撰定次第追々著手シ萬一費額不足ノ節ハ帝室費定額中ニテ支辨スヘシトノ旨ニ有之大藏大臣ニ
於テモ異議無之ニ付請議ノ通決議可相成候開議ニ供ス及會計檢査院ハ三月九日大藏省

勅令節錄二十一年三月十七日(全文ハ財政門參)

朕明治二十一年度ノ歲計豫算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十一年度歲計豫算

歲出

第二部

第一款 帝室費 金貳百五拾萬圓

第一項 帝室費 金貳百五拾萬圓

大藏省請議二十一年十月二日

帝室費ハ明治二十一年度以降年々二百五十萬圓ト定メラレ候處右ニテハ御用度多端ニ今日御行届相成兼
候趣ニモ相見ニ畢竟増額ヲ要シ候事實ニ候處其時機此末數年ヲ經過候後ニテハ彼是不可然被存候條事

宮廷門 帝室財產

○來ル二十二年度ノ豫算ニ於テ五十萬圓ヲ増額シ爾後年々都合三百萬圓ノ定額ト相成候方可能考ヘラレ候然ルニ差當リ五拾萬圓ノ資金ハ如何ニシテ之ヲ得ベキ歟頗ル苦心ノ至ニ候因テ考案スルニ皇居御造營ノ儀ハ速成ヲ要セシニ付一時借入繰替金ヲ以テ支辨シ年々豫算定額ヲ以テ之レハ返戻相成ルヘキ事ニ二十年度一月中内閣ニ於テ議決相成リ今後尙ホ二十二年度ニ於テ五拾萬圓二十三年度ニ於テ三拾八萬九千餘圓ヲ右返戻ノ爲メ御造營費トシテ豫算ニ編入支出スヘキノ處前陳ノ通り二十二年度以降帝室費増額相成リ度ニ付右御造營費ニ該當スル五拾萬圓ヲ以テ之レハ振リ向ケテ二十二年度以降帝室費三百萬圓ト決定セラレ度然ル上ハ右御造營費繰替ヘ返戻相成ルベキ高ハ即チ帝室費ニ於テ引受ケ形ノ如ク返戻相成候ハ、二十四年度以降ハ純然三百萬圓ノ御用度ニ相成候ニ付兩全ノ儀ト存候右可決相成度此段閣議ヲ請フ

指令二十二年十月二十四日

明治二十二年度以降帝室費増額ノ件請議ノ通

内閣書記官議案二十二年十月十日

別紙大藏大臣附議ヲ案スルニ帝室費ハ明治二十年度以降金貳百五拾萬圓ニ定メラレタルニ御用度多端ニシテ増額ヲ要スル趣然ルニ此未敷年經過ノ後ニテハ不可然儀ト認ムルヲ以テ來二十二年度以降五十萬圓ヲ増額シ三百萬圓ニ定メラシ其増額ニ係ル資金ハ客年一月中閣議決定セル皇居御造營費ニ係ル一時借入繰替金ノ返戻殘金二十二年度及二十三年度ノ豫算ニ編入支出スヘキ金額ヲ以テ之レニ振向然シテ帝室費ヨリ右御造營費繰替ノ分ヘ返戻セハ二十四年度以降ハ純然三百萬圓ノ御用度ト相成ヘシト議ナリ右ハ附議ノ通決議可相成哉閣議ニ供ス

帝室費豫算額

一金貳百三拾四萬圓 十九年度
 一金貳百五拾萬圓 二十及二十一年度
 大藏大臣附議御造營費繰替貸ノ件摘要
 皇居御造營費増額トシテ百四拾六萬八千貳百餘圓ヲ二十年二月ヨリ二十一年四月迄ニ支出ノ儀宮内大臣ヨリ請求有之候處支出ノ目途無之ニ付ラハ自後入用ノ都度日本銀行ヨリ一時國庫ニ借入年五分ノニ之ヲ御造營事務局ヘ繰替貸トシ同局ニテハ二十年度以降毎年豫算額内ヨリ國庫ニ還納シ内利ヲ付ス更ニ國庫ハ之ヲ同金行借入金ノ返済ニ充テ同年度ヨリ二十三年度迄ノ御造營費豫算額ヲ概定ノ儀附議ノ通二十一年一月中閣議決定ス

大日本帝國憲法抄錄 二十二年二月十一日 (全文ハ政體門政)

第六章 會計

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

勅令節錄 二十二年三月五日 (全文ハ政體門政)

朕明治二十二年度歳入歳出ノ總豫算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十二年度歳入歳出總豫算

歳出

經常歳出

第一部

第一款 皇室費 金三百萬圓

第一項 皇室費 金三百萬圓

豫算節錄 二十三年三月三日 (全文ハ政體門政)

朕明治二十三年度歳入歳出ノ總豫算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年度歳入歳出總豫算

歳出

經常部

第一款 皇室費 金三百萬圓

第一項 皇室費 金三百萬圓

大藏省へ通牒 二十三年三月二十四日

東宮御所御建築費豫備トシテ準備金ノ内ヨリ金貳百五拾萬圓宮内省へ引渡ノ儀 勅裁ヲ經候ニ付此旨及通牒候也

宮内省へ通牒

同文言

別紙ノ通大藏大臣へ通牒候間此段及通牒候也

内閣書記官議案二十三年三月二十四日

東宮御建築費ノ件

東宮御建築費豫備トシテ準備金ノ内ヨリ金貳百五拾萬圓宮内省へ引渡ノコトニ被定候事
右閣議ニ供ス會計檢査院へ通牒

勅令節錄 二十一年一月二十一日 (全文ハ財政門決)

朕明治十五年度ノ歲計決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十五年度歲計決算

歲出

經常歲出

第三款 帝室及皇族費 金百七拾八萬八千七百貳拾壹圓

勅令節錄 二十一年十二月二十四日 (全文ハ財政門決)

朕明治十六年度ノ歲計決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十六年度歲計決算

歲出

經常歲出

第三款 帝室費 金貳百三拾六萬三千六百五拾圓八拾九錢壹釐

勅令節錄 二十二年五月十一日 (全文ハ財政門決)

朕明治十七年度ノ歲計決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十五年度歲計決算

明治十六年度歲計決算

明治十七年度歲計決算

明治十七年度歲計決算

歲出

經常歲出

第三款 帝室費 金貳百三拾貳萬七千百壹圓

勅令節錄 二十二年十一月七日 (全文ハ財政門決)

朕明治十八年度歲入歲入總決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十八年度歲入歲入總決算

歲出

經常歲出

第三款 帝室費 金百七拾九萬七千貳百四拾六圓

勅令節錄 二十三年十一月二十二日 (全文ハ財政門決)

朕明治十九年度ノ歲入歲入總決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十九年度歲入歲入總決算

歲出

第二部

第一款 帝室費 金貳百四拾四萬九千八百三拾五圓三拾四錢

勅令節錄 二十一年三月十七日 (全文ハ財政門決)

朕明治二十一年度ノ歲計豫算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十一年度歲計豫算

歲出

明治二十一年度歲計豫算

明治十九年度歲計決算

明治十八年度歲計決算

明治十五年度宮廷御造營費決算書

第四部 第一款 假皇居御造營費 金五拾萬圓

勅令節錄 第二十一號 十一月二十一日 (全文ハ財政門決)

朕明治十五年度ノ歳計決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十五年度歳計決算

臨時歳出

第四款 雜支 出

第一項 宮殿御造營費 金四拾四萬七千七百五拾圓壹錢五釐

高知縣下土佐國高知郡

宮内省附議二十一年五月二十四日

高金四萬圓 外金八千七百八拾四圓九拾八錢

未納高 規材上納高

右ハ去ル明治十六年中皇居御造營事務局ニ於テ規材必用ニ付高知縣平民島本仲道へ上納方受負申付候處高知縣下山林ニ於テ伐採ノ上上納ノ目的ニテ莫大ノ資金ヲ要シ候儀ニ付前記ノ通内金トシテ金四萬圓相渡シ爾來伐採事業ニ著手漸次上納中折悪ク數度ノ暴風雨ニ遭シ其都度海濱ニ流失セシ木材不尠隨テ種々ノ困難ヲ來シ當初ノ心算全ク離離シテ遂ニ數萬圓ヲ消失シ再ヒ伐採ノ資金無之場合ニ立到リ候次第畢竟事業ノ不馴ト數度ノ天災ヨリ起因セルモノニシテ實ニ感誠スヘキ事ニ候當時高知縣官并御造營事務局官員現場出張點檢爲致事實取調候ヘトモ別ニ良策無之候然ルニ目下御造營落成ノ期ニ近キ最早木材ノ所要モ無之且御造營費モ追々結了ノ期ニ相迫リ候ニ付前書未納金返納ノ儀嚴重督促致候貴困ノ者ニテ到底辨償候事難相成空ク歲月ヲ經過スルノニ候尤モ初メ四萬圓支出ニ際シ三井銀行ヨリ同額ノ金員預リ券ヲ以テ抵當トシテ爲差出候ニ付木材不納ノ場合ニ至リテハ直ニ同銀行ニ要求可致管ニハ候ヘトモ有栖川宮御附藤井希環三條大臣家扶福井英晴ヨリ同銀行へ數回面書ヲ以テ島本仲道へ渡方ノ掛合ニ及ヒ終ニ悉皆引出シ前記ノ通全ク事業ニ消費セシモノニ付三井銀行ニ向ヒ要求候ハ情實

不忍備ト存候去リトテ本人ヨリ上納爲致候儀ハ到底難被行就テハ御造營費決算上ニ於テハ極メテ差支候儀ニ付特別ヲ以テ未納金三萬千七百八拾四圓九拾八錢ハ御造營費ニ於テハ支拂切ニ相立テ乘損ノ事ニ取計中度尤モ爲夫候額補填ヲ要スル儀ニハ無之候條至急何分ノ御詮議相成候様致シ度此段請開議候也 追テ爲御參考請取證寫外三通相添候也

前金御下渡請取證之事 一金四萬圓也 右ハ高知縣下土佐國高知郡別枝村黒瀧山規材百貳拾九本此代金四萬百六拾貳圓三拾八錢皇居御造營御用トシテ御買上ケ御約定仕候處伐採運搬多分ノ經費差支候付書面ノ金額前金トシテ請取候處相違無御座候就テハ右抵當トシテ金四萬圓三井銀行一時預リ證券差上置申候萬一前書規材納方ニ付兼テ差上候約定書面ニ違背仕候節ハ右抵當トシテ差上置候預リ證券ヲ以テ直ニ御引取可被下候共節一言ノ申分無御座候尤該證券ハ御局へ爲抵當差出置候儀ニテ該金ヲ以テ同行ト外取引上之差引ニ相立候儀ハ仕間敷候依之前金受取ノ證文奉差上候仍而如件

明治十六年九月五日

神田區中區藥町十七番地寄附 高知縣平民 島本仲道 京都府平民 西村時四郎 高知縣平民 井上善作 本縣區善本町三十四番地 東府土族 前島浩 本所區本所南二葉町五番地 同 四條隆平

皇居御造營事務局 御中

一金四萬圓 右四萬圓正ニ預リ申候此手形持參人へ引換ニ相渡可申候也

在東京 三井銀行

明治十六年九月五日 島本仲道殿 裏書

宮廷門 帝室財產

表面之金額ハ預ケ主亦ハ其名指人ニ渡スヘクニ付甲ヨリ乙ヘ手形ヲ渡ストキハ梓内ノ凡例ニ從テ年號月日渡シ先ノ姓名及ヒ本人記名關印ナシタル上順次何人ヘモ授與スルヲ得ヘシ但表證ノ金額預リ申當行ニ於テ使用ナサハサルヘシ

年 號	月 日	渡シ	先 姓 名	本 人 記 名 關 印

島本仲道ヨリ木材買上ケニ付金四萬圓ヲ此際同人ヘ下付候ニ付テハ其行ノ一時預リ券ヲ以テ同人ヨリ當局ヘ爲抵當相納候手筈ニ候因テ右預券ニ對スル金額ハ名前人ヨリ取付候トモ當局ヨリ沙汰無之間ハ不相渡者勿論ノ儀ト存候然ルニ前書其行預リ券ノ性質ハ如何成手續ニテ取扱候哉心得ノ儀モ有之候ニ付此段及照會候也
十六年八月三十日
三井銀行中
皇居御造營事務局

御請

御局ヨリ島本仲道ヘ金四萬圓御下付ニ付同人ヨリ當行ヘ該金相預リ候際振出シ候一時預リ券ノ儀御照會ノ趣キ奉進承候右預リ券ト唱稱候ハ添ヨリ當行ニ於テ使用不致金柄ニテ替ヘハ本日相預リ翌日取付候トモ聊差支無之相渡候兼テノ規定ニ有之候依テ官民一般ノ金錢取引上ハ右預リ券ヲ以テ是迄取扱來候既ニ今般ノ取扱ノ島本仲道ニ宛振出候預リト雖モ其實御局ニ於テ爲抵當御取引ノ儀ニ付同人定約期限内ハ申出候共不渡ハ勿論當行ト同人ト外差引ニ不拘御局ヨリ該券御下ケ渡ノ節ハ引換ニ即時金員相納ノ可申手續ニ御座候右御照會ニ付此段奉申上候也
三井銀行
齋藤 銀藏

明治十六年八月三十一日

皇居御造營事務局

御中

指令 二十一年七月二日

請議ノ趣特別ノ詮議ヲ以テ金三萬千七百八拾四圓九拾八錢棄捐ニ付ス

内閣書記官職案二十一年七月二日
宮内大臣輔禮皇居御造營用材受負人高知縣平民島本仲道ヘ内渡金四萬圓ノ内金三萬千七百八拾四圓九十八錢全ク同事業ノ爲メ損失ニ付右金額棄捐相成度トノ件ハ甚不都合ナルモ別紙ニ具述ノ通事實無餘儀次第ニ付附議ノ通棄捐決議可相成歟閣議ニ供ス
二十一年七月二日
大藏院
大藏

明治十六年度皇居御造營費決算額

勅令節錄 第二十九號 十二月二十四日 (全文ハ財政門決)

朕明治十六年度ノ歲計決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十六年度歲計決算

歲出

臨時歲出

第二款 雜 支 出

第一項 皇居御造營費 金四拾萬圓

明治十七年度皇居御造營費決算額

勅令節錄 第六十五號 五月十一日 (全文ハ財政門決)

朕明治十七年度ノ歲計決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十七年度歲計決算

歲出

臨時歲出

第四款 雜 支 出

第一項 假皇居御造營費 金五拾貳萬九千八百圓

明治十八年度皇居御造營費決算額

勅令節錄 第二百二十二號 十月七日 (全文ハ財政門決)

朕明治十八年度歲入歲出ノ總決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十八年度歲入歲出總決算

歲出

臨時歲出

第四款 雜 支 出

宮庭門 帝室財產

明治十九年度皇居御造營費
總決算額

第一項 假皇居御造營費 金五拾萬圓

勅令節錄 第二十三號十一月二十二日 (全文ハ財政門參)

朕明治十九年度ノ歲入歲出總決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十九年度歲入歲出總決算
歲出

第四部

第一款 假皇居御造營費 金七拾八萬貳千八百八拾七圓四拾壹錢九釐

皇居御造營費ニ關スル事項ノ同種掛長ニ委任ス

宮殿

宮内省附議二十一年一月七日
當省皇居御造營費掛長ノ職ハ理事ノ都合ニ有之候間御造營費豫算額内ノ收支并右經費ニ關スル諸般ノ事項ハ元皇居御造營事務局長ニ委任ノ通事ヲ掛長堤正隨ニ委任專擔爲致度此段至急開議ヲ請フ
指令二十一年一月二十四日

請議ノ趣認許ス

内閣書記官議案二十一年一月十三日
別紙宮内大臣附議皇居御造營經費豫算額内ノ收支并經費ニ關スル諸般ノ事項專擔ヲ殘業掛長堤正隨ニ委任專擔爲致度トノ趣ハ全ク理事ノ都合ニ依ルモノニ付從前同事務局長杉孫七郎ニ委任ノ例ニ依リ附議ノ通決議可相成哉開議ニ供ス大藏省并會計檢査院ニ移照

官報抄錄 二十一年四月二十日

宮内省ニ於テハ今般皇城炎上皇居御造營等ニ付キ獻金獻品者賞與事務所取纏ノタメ右獻金獻品者ニシテ是迄所在詳ナラサリシカ爲ニ未タ賞與ヲ蒙ラサル者ハ來ル六月三十日ヲ期シテ最初獻納セシ時ノ氏名族籍年月日竝ニ經由セシ官廳名及現今ノ族籍居住地等ヲ各管轄廳ニ向ケテ届出テシムルノ手續ヲナシタリ

皇居御造營誌抄錄 二十一年五月十日

宮内省築造工事竣工ヲ告ク

皇居御造營誌抄錄 二十一年五月二十三日

謁見所ノ竣工ヲ告ク

皇居御造營誌抄錄 二十一年六月二十一日

表宮殿へ設置ノ電燈地
工ス

謁見所ノ竣工ヲ告ク

宮内省築造工ス

皇城炎上皇居御造營等
ニ付獻金獻品者所在局
出ス

表宮殿向ニ設置シタル電燈概畧竣工ヲ告ルニ依リ試験ヲ行フ

皇居御造營繕工期前

皇居御造營繕業掛長ヨリ宮内大臣へ上申 二十一年六月二十二日

皇居御造營繕ノ儀 賢所及ヒ奥表宮殿向ハ勿論宮内省女官部屋廐向警察署其他諸建物附屬家ニ至ル迄最初計畫ノ分ハ既ニ落成致シ其餘別途起工ニ係リ候分モ過半竣工 賢所前參集所吹上倉庫宮内省内模樣替及警察署ヲ近衛ニ充用シ更ニ新築ノ警察署等ハ本年九月中ニ悉皆落成可致見込ニ付右落成ノ上ハ直ニ受授ノ手順ニ相運居候様其主務ノ各職寮局課等へ豫メ御達置相成候様仕度此段上申候也
追テ裝飾品ノ儀ハ海外へ注文ノ分ハ粗完結ニ至リ候得共内地製造ニ係ル分ハ未タ半途ノ廉モ有之候間此分ハ追テ上申候様可仕候也

皇太后宮邸宮邸御造營繕工期前

皇居御造營繕抄録 二十一年六月二十八日

皇太后宮 皇后宮御造營繕場へ 行啓大手石橋通御車寄へ 著御右へ謁見所東溜ノ間東車寄饗宴所後席及ヒ西溜ノ間内謁見所御學問所階下ヨリ奥御表境ヲ右へ吳服ノ間通リ御學問所御二階常御殿 御通覽 皇后宮常御殿ニ於テ 御休憩夫ヨリ 皇太后宮御休所及ヒ宮御殿ヨリ中ノ階段ヲ經テ再ヒ後席ノ間 饗宴所ノ電氣燈點火ヲ 御覽在ラセラル宮内省へ東渡廊下通リ二階 御一週西廊下ヨリ御内儀通リ與 御車寄新阪道通リ代官町新門ヨリ 還御畢テ皇族及ヒ親任官勅任官當掛奏判任官雇ニ至ルマテ其家族 ニモ拜觀ヲ差許サレタリ此日殘業掛勅奏判任以下小者ニ至ル迄酒饌ヲ賜フ各等差アリ諸請負人モ亦酒 饌諸職工ニハ酒饌ヲ賜フ又御造營ニ從事シ奉職中病没セシ者ノ遺族並非職トナリタル者等七名ニモ特 ニ酒饌ヲ賜フ而シテ勅奏任官へハ別ニ酒饌資ヲ賜ハリタリ

官報抄録二十一年六月三十日
一昨二十八日皇居御造營繕場へ行啓ノ節 皇后宮先ツ御造營繕場へ若御アラセラル 皇太后宮ヲ御待受ノ 上兩陛下御同伴ニテ宮殿各所御巡覽皇居御殿ニ於テ御少憩更ニ各所御巡覽五時半頃各還御在ラセラル

皇居御造營繕金ハ今般 宮内省へ納付

大藏省訓令 第三十一號 二十一年七月九日 皇居御造營繕金ハ今般宮内省へ直ニ納付スヘシ

大藏省報告二十一年七月九日
皇居御造營繕金ノ儀ハ從來國庫中一ノ別金櫃ヲ設ケ收支シ來リ候處今般宮内大臣ノ照會ニヨリ該件ニ 關スル收支ノ事務ハ本月二十日ノ現計ヲ以テ宮内省へ引繼キ今般ハ總テ宮内省ニ於テ直接取扱候筈同 大臣ト協議済ニ付此段報告ニ及フ
追テ獻金者ニ對スル該金員收支結果ノ報告等ハ是亦同省ニ於テ可取扱筈ニ有之候

御車寄前大手石橋宮内 省前ノ電燈竣工

皇居御造營繕抄録 二十一年七月二十日

皇居御造營繕抄録 二十一年八月十四日

主馬寮部内御料馬車倉一棟落成ニ依リ同寮へ引渡ス

皇居御造營繕工概況

皇居御造營繕業掛ヨリ宮内大臣へ上申 二十一年九月十五日

皇居御造營繕工期限ノ議ニ付テハ昨二十年十二月本年六月兩度ニ及上申置候處爾後宮内省中模樣替警 察署ヲ近衛ニ充用シ更ニ新築ノ警察署 賢所參集所吹上倉庫其他數庫ノ増工事モ順次落成致候就テハ 來ル十月下旬ニハ御移轉被爲在候モ差支無之候條此段及上申候也

楓山下内匠寮工作場落 成間察へ交付ス

皇居御造營繕抄録 二十一年九月十八日

楓山下内匠寮工作場大略落成ニ付該寮へ引渡ス

皇居御造營繕工ニヨリ 宮殿諸建物諸門等ヲ内 匠寮ニ交付ス

宮内大臣ヨリ皇居御造營繕業掛へ達 二十一年十月八日

皇居御造營繕工ニ就テハ宮殿向其他諸建物諸門等都テ來ル十日ヲ以テ内匠寮へ引渡ス可シ

- 小柱
- 暖爐前飾
- 座席
- 鏡
- 男子化粧ノ間
- 巨鏡
- 巨鏡洗而架
- 圓形卓子
- 化粧鏡
- 暖爐上鏡
- 衣裳臺
- 長椅子
- 男子椅子
- 椅子
- 暖爐前飾
- 婦人化粧ノ間
- 巨鏡
- 洗面架
- 姿見鏡
- 圓形卓子
- 婦人椅子
- 卓子
- 暖爐上鏡

一一四四一一二二 一六三一一二一一 二二二二

面個個個個面個面 個個個個個面個個個面 面個個個

新皇居増工事等落成期

皇居御造營宮殿及諸建
物諸門等主殿寮ノ主管
ニ付ス

皇居御造營殘業掛ヨリ宮内大臣へ上申 二十一年十月八日

新 皇居宮殿向此頃増工事或ハ模様替等被 仰出候廉廉目今夫夫著手致候處右ハ來ル十一月下旬ニハ
悉皆落成ノ見込ニ有之候間此段豫メ及上申置候也

官報抄録 二十一年十月十二日

皇居御造營宮殿其他ノ諸建物諸門等一昨十日ヲ以テ宮内省ニ受取り當分主殿寮ノ主管ニ付スル旨宮内

大臣ヨリ主殿寮へ達シタリ

宮内省告示 二十一年十月二十七日

皇居御造營落成ニ付自今宮城ト稱セラル

(參照)

令義解卷一後宮職員令
 關司ニ尙閑一人掌宮閣管領即宮城以內諸門管領及出納之事
 拾芥抄中末四ニ 宮城ノ部アリテ山城國へ遷都ノコト諸氏諸門建立ノコト諸門懸額筆者ノコト櫻
 橋樹ノコト等ヲ記載セリ
 制度通卷二
 都邑坊城並 皇城 宮城門號ノ事トアル條下ニ 皇居是ヲ 宮城ト云フ
 明治五年五月十四日岩倉特命全權大使以下へ御委任狀ノ末文ニ
 茲ニ日本帝國ノ大猷ヲ押シ明治五年壬申五月十四日東京 宮城ニ於テ親ク之ヲ附與スル者也
 寺島大辦務使派遷ノ節信任狀ノ末文
 明治五年壬申五月十四日東京 宮城ニ於テ親ク名ヲ署シ璽ヲ鈐シ之ヲ附與ス
 以後多クハ此文體ヲ用フ但時ニ宮中ニ於テトアリ

宮内省達 二十一年十月三十一日

皇居御造營殘業掛

其掛ヲ廢ス

元皇居御造營殘業掛

其掛事務ノ内會計ハ内藏寮へ工事ハ内匠寮へ裝飾向ハ調度局へ引繼ク可シ

官報抄録 二十一年十一月一日

宮内大臣ハ昨三十一日ヲ以テ皇居御造營殘業掛ヲ廢シ其會計ハ内藏寮へ工事ハ内匠寮へ裝飾向ハ調度
局へ引繼カシメ皇居御造營殘務取扱所ヲ設ケテ殘務ヲ取扱ハシムル旨ヲ省中夫々へ達シタリ

皇居御造營殘業掛
ノ皇居御造營殘務取扱
所ヲ設ケ

二十三年三月三十一日
務取扱所ヲ閉シ

宮内省ヨリ大蔵省へ協議二十一年九月
 客歳十二月二十四日皇居御造營事務局ヲ廢止シ更ニ殘業掛ヲ置キ爾來工業漸次相運ヒ本年十月ニ於テ
 竣工シ織カニ手殘ノ箇所ハ處作及ヒ土藏造築等ニ止リ然ルニ内部裝飾ノ内現今計畫中ニ係ル掛帳其他
 備付品ニ至テハ猶數萬圓ノ事業有之加ルニ極メテ精工ヲ盡シ隨テ多數ノ時日ヲ要シ候儀ニ付到底二十
 二年度ニ沙ラサレハ結了難相成候處夫レカ爲メ殘業掛ヲ存置スルハ甚無益ノ次第ニ有之因テ本年十月
 限リ殘業掛ヲ廢止シ右裝飾其他ノ事業ハ常省主務ノ寮局ニ於テ取扱ヒ其經費ハ即チ御造營費豫算殘額
 ヲ以テ内藏寮へ繼續シ同寮へ會計主務官ヲ置キ從前ノ通金錢物品ノ收支取扱候ハ、事業上ニ於テ好都合
 合ノミナラス格別冗費モ相省候儀ニ付キ其運ニ致度貴省ニ於テ御差支ノ筋無之哉及御協議候條否至急
 御回答有之度候也

追テ殘業掛廢止後ハ本省各寮局員ヲ以テ裝飾等ノ事業ニ從事セシムルト雖トモ其擔當者ノ俸給其他
 需用品代等ハ御造營費ヨリ支辨ノ積リニ有之候此段爲念申添候也
 大蔵省回答二十一年十月三日
 去ル九月二十五日付ヲ以テ御照會ノ趣了承十月限リ殘業掛ヲ廢止シ事業ト經費ヲ内藏寮へ御引繼相成
 同寮ニ會計主務官ヲ置キ從前ノ通御取計相成候儀ハ異存無之候依テハ右御造營費ハ殘額トモ終始帝室
 費ト區分シ別途收支決算相成可然存候此段御回答及ビ候也
 宮内省ヨリ大蔵省へ照會二十一年十月十六日
 去ル九月二十五日付ヲ以テ皇居御造營費掛ヲ廢シ御造營費ハ内藏寮へ繼續シ云云及御照會候處本月
 三日付ヲ以テ御異存無之且帝室費ト區分可致旨御回答ノ趣了承依テハ御造營費引繼順序等左ノ通取計
 申度候

一殘業掛廢止當日ノ豫算殘額及未決算額其他雜部金等現在高ヲ以テ其儘内藏寮へ繼續シ同寮ニ於テ
 收支取扱フヘキ事
 但金錢物品ノ收支ニ係ル諸帳簿モ即チ其儘繼續使用ス可キ事
 一御造營費ノ儀ハ殘業掛廢止迄ニ屬スル分ハ殘業掛長其責ニ任シ其已後ハ即チ内藏頭其責ニ任シ從
 前ノ例規ニ據リ整理セシムヘキ事
 右及御協議候條御異存無之哉否至急御回答有之度候也
 大蔵省回答二十一年十月二十五日
 十月十六日付ヲ以テ皇居御造營費引繼方ノ儀ニ付御照會ノ趣了承右ハ御申越ノ通りニテ異存無之候此
 段及御答候也
 追テ引繼ニ係ル金額ハ其種類ヲ區別シ更ニ御報告相成度候也

皇居御造營費掛帳品者ニ付明治六年

宮内省ヨリ各府縣へ達二十一年十一月二十八日

皇城御造營落成ニ付明治六年 皇上炎城竝ニ 皇居御造營獻金獻品者へ拜觀被差許候付テハ別紙ノ通

官報新聞紙ヲ以テ廣告及ヒ置候間其(府縣)管内獻納者へ尙其應ヨリ適宜ノ方法ヲ以テ告示可致此段相
 違候也

追テ別紙中其應取扱ニ屬候條件ハ夫々可取計且其應高等官ノ輩ハ來ル二十二年六月迄ノ内上京ノ節
 出願候ハ、御差支無之時日相定拜觀被差許候答ニ候條此段添テ相違候也東京府へハ且

廣告

今般 皇城御造營落成ニ付明治六年 皇城炎上竝 皇居御造營ニ付北海道廳各府縣獻金獻品者へ拜
 觀差許スニ付左ノ通り心得可シ

但有爵者有位華族及現今高等官奉職ノ輩拜觀日割等ハ別ニ之ヲ定ム
 明治二十一年十一月二十八日 宮内省

- 一宮城拜觀ハ十二月四日ヨリ同十日迄毎日午前七時ヨリ午後三時迄トス
- 一拜觀ノ者ハ階下ヨリ巡視シ階上ニ昇ルヲ許サス
- 一拜觀ノ者ハ獻金獻品ニヨリ宮内省ノ賞狀ヲ所有セル者ニ限ル
- 一拜觀ノ者ハ各自賞狀ヲ携帶シ正門外拜觀切符渡場ニ至リ賞狀ヲ示ス可シ
- 一切符渡場ニ於テハ賞狀ヲ檢閱シ其裏面ニ拜觀ノ印ヲ捺シ猶各人へ拜觀切符ヲ渡ス可シ
- 但二人以上連名獻納セシモノニシテ賞狀一枚ヲ連合所有セルモノハ賞狀ノ外其獻納セシモノ、
 人名ヲ記シ區戸長ニ於テ與書證明セル書面ヲ携持ス可シ此場合ニ於テハ賞狀裏面へ捺印ノ上更
 ニ人員ニ應シテ切符ヲ相渡ス可キニ付右等ノ輩ハ必ス一時ニ同伴シテ拜觀ス可シ就テハ同伴ニ
 漏レタル者ハ拜觀スルヲ得ス
- 一賞狀ヲ所有セルモノニシテ七十年以上十五年以下ニテ他人ノ扶助ヲ要スルモノハ本人ノ外附添ノ
 者一人ヲ限り切符ヲ渡シ拜觀ヲ許ス可キニ付區戸長ノ證明書ヲ持參ス可シ
- 一拜觀ノ者ハ正門ヨリ入り阪下門ヨリ退散ス可シ著服隨意雨具携帶苦シカラスト雖トモ風呂敷包ヲ
 所持スルヲ禁ス

一拜觀日割左ノ通

第一日

東京府下

日本橋區

京橋區

神田區

麴町區

下谷區

第二日

芝區

麻布區

四ツ谷區

赤坂區

牛込區

小石川區

本郷區

第三日

深川區

本所區

淺草區

荏原郡

東多摩郡

南豐嶋郡

北豐嶋郡

南足立郡

南葛飾郡

自第四日

至第七日

北海道廳

各府縣

一從前官吏在職中獻納シ現今就職セサル者及ヒ從前ヨリ引續在職シ現今判任官タルモノハ現今居住
地ニヨリ前書日割ニ拜觀ス可シ

一各府縣ヨリ東京府管内ニ寄留スルモノモ右東京府下日割ニヨリ拜觀ス可シ

一遠地所在ノ者ニシテ今回拜觀ヲ得サルモノハ來二十二年一月以降六月迄一箇月三回宛拜觀差許ス
可シ

但其日限手續等ハ時時官報及新聞紙ニ廣告ス可シ

宮内省廣告 二十二年三月十五日

明治二十一年十一月二十八日附本省廣告末項ニ該當スル者へ左ノ手續ニ依リ宮城拜觀ヲ許ス

一拜觀日割及ヒ時限ハ三月二十四日、三十一日ノ兩日四月七日、十四日、二十八日ノ三日間午前十時ヨ

リ午後三時マテトス

一拜觀ノ節ハ各自賞狀ヲ携帶シ阪下門ニ來リ賞狀ヲ掛員ヘ示シ拜觀證札ヲ受ケ夫ヨリ東車寄前ニ至
リ掛員ノ指示ニ從ヒ順次拜觀ノ上阪下門ヨリ退出スヘシ

右ノ外拜觀手續ハ明治二十一年十一月二十八日付廣告ニ從フヘシ

宮内省廣告 二十二年四月二十九日

明治二十一年十一月二十八日附(翌二十九日)本省廣告末項ニ該當スル者へ左ノ手續ニ依リ宮城拜觀ヲ許ス

一拜觀日割及時限ハ來々五月五日十九日二十六日六月二日十六日二十三日ノ六日間午前十時ヨリ午後三時マテトス

一拜觀ノ節ハ各自賞狀ヲ携帶シ阪下門ニ來リ賞狀ヲ掛員ヘ示シ拜觀證札ヲ受ケ夫ヨリ東車寄前ニ至リ掛員ノ指示ニ從ヒ順次拜觀ノ上阪下門ヨリ退出スヘシ

右ノ外拜觀手續ハ明治二十一年十一月二十八日附廣告ニ從フヘシ

宮内大臣へ稟中二十一年十一月二十日

宮城御造營落成候ニ付テハ去六年 皇城英上並御造營ニ付獻金獻品候者ハ其篤志ニ被對既ニ御賞與モ有之候儀ニ付此際 宮城拜觀被差許候ハ、一同或可仕尤モ多人數ノ儀ニモ有之且追々 御移轉モ差追居候ニ付テハ多人數ノ輩へハ一殿上拜見ノ儀ハ實際難行屆儀ニ付大體左ノ通御取極御差許可相成哉相伺候也

一皇城英上並御造營ニ付獻金獻品致シ賞與ヲ受ケン者ニ限リ拜觀被差許候事
一拜觀ハ來々十二月一日ヨリ七日マテ七日間毎日午前七時ニ起リ午後四時出拂ノ事
但大雨ハ順延

一擬宴所謁見所御車寄等ヲ階下ヨリ拜觀ノ事
但拜觀者ハ正門ヨリ入り二重橋ヲ經テ御車寄右脇下行路ヲ入り謁見所庭上ヨリ巡觀シ謁見所左脇下行路ヨリ擬宴所庭上ニ出テ巡觀ノ後東溜ノ間脇下行路ヲ出テ宮内省玄關前ヲ巡觀シ阪下門ヨリ退散ノ事

一拜觀ノ儀ハ府縣廳ヲ經テ各人へ公示シ猶新聞紙へ廣告ノ事
但遊地ノ府縣所在ノ者ハ今般ノ期限內拜觀ヲ得ヘカラサル儀ニ付右等ノ者ハ御移轉後ト雖トモ

一賞狀持參ノ者ニ限リ拜觀ヲ差許ス可キニ付右持參ノ者へハ各人ニ拜觀證ヲ渡シ賞狀基面へ宮殿拜觀濟ノ印ヲ捺シ本人へ返付ノ事

右ノ外詳細ノ手續ハ更ニ取調可相伺候事
但本文御許容ノ上ハ内事課主殿寮内匠寮其主管ヲ定メ取扱候積ニ候事

宮内省ヨリ爵位局へ達 二十一年十一月三十日
宮城御造營落成ニ付有爵者爵香間祇候有位華族ノ輩拜觀相願度者ハ左ノ條條ニ依リ被差許候條夫夫通

有爵者爵香間祇候有位華族及内閣各省院廳高等官ニ宮城拜觀ヲ許ス

違可致此旨相違候事

一拜觀ハ十二月十二日午前七時ヨリ午後三時迄トス

但雨天順延且前日ノ天氣都合ニ依リ延引スルコトアル可シ此場合ニ於テハ官報新聞紙ヲ以テ廣告ス可シ

一有爵者及爵香間祇候ノ輩ハ夫婦有位華族ハ其本人ノミ拜觀ヲ得

但七十年以上十五年以下ノ者ハ附添ノ者一人ヲ限リ同行ヲ許ス可シ付豫メ爵位局へ申出ツ可シ

一拜觀ノ者へハ爵位局ヨリ拜觀切符ヲ渡ス可キニ付正門外宮内省切符改所ノ查閱ヲ受ケ出入ス可シ

一拜觀ノ者著服ハ隨意但靴若クハ草履ヲ著ク可シ

一拜觀ノ者ハ正門ヨリ入り宮内省員ノ指示ニヨリ順次拜觀シ阪下門ヨリ退散ス可シ

一各地散在ノ輩ハ來々二十二年六月迄ノ内上京ノ節拜觀願出ツル向ハ御差支ナキ時ニ於テ日限ヲ定メ差許ツルヘキニ付爵位局ヲ經テ願出ツ可シ

宮内省ヨリ省中へ達 二十一年十一月三十日

宮城御造營落成ニ付高等官ニシテ拜觀願出ツル者ハ被差許候條人名取調來月五日迄ニ主殿寮へ可差出候尤拜觀手續ハ別紙ノ通ニ有之候此段相違候也

追テ各地方在勤並出張ノ輩ハ來々二十二年六月迄ノ内上京ノ節出願候ハ、時日相定可被差許答ニ付臨時人名取調主殿寮へ可差出候此段副違候也

宮内省ヨリ内閣及各省院廳へ照會 二十一年十一月三十日

宮城御造營落成ニ付御省(廳)奏任官以上ノ者拜觀相願度者ハ被差許候間別紙ノ條條御承知ノ上人名御取調來ル十二月五日迄ニ當省主殿頭宛御申越有之度此段及御照會候也

追テ御省(廳)各地在勤ノ高等官ノ輩ハ來々二十二年六月迄ノ内上京ノ節出願候ハ、御差支無之時ニ於テ日限ヲ定メ拜觀可被差許答ニ候間出願ノ輩有之節ハ其人名主殿頭へ御申越可有之候此段申添候也

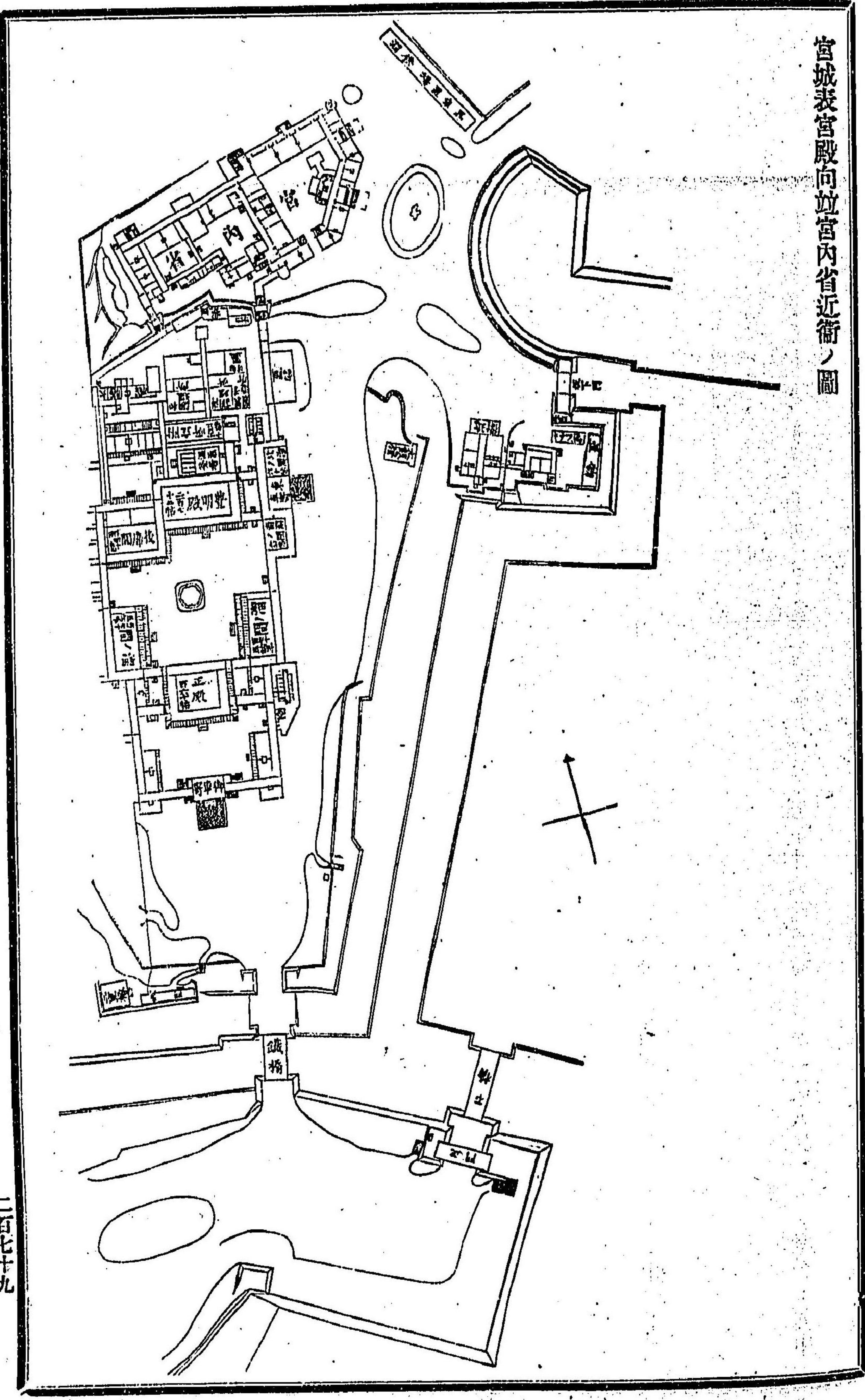
宮城總建坪及表宮殿並
宮内省近衛ノ圖

宮廷門 宮殿

二百七十八

官報抄錄 二十二年二月十一日
今十一日御移轉アラセラル宮城御造營ノ工事ハ去ル十七年七月著手セルモノニシテ昨年十月ニ至リ始
テ竣工セリ其總建坪ハ一萬二千七百三坪三合七勺三才ニシテ内表宮殿向二千二百十坪九合六勺五才
宮内省千九百四十七坪三合八勺一才、近衛三百五坪七合三勺一才ナリ其略圖ハ左ノ如シ

宮城表宮殿向並宮内省近衛ノ圖



宮廷門 宮殿

二百七十九

宮殿諸門及御車寄ノ位

官報抄錄 二十二年一月十一日
 宮城正門ハ元西丸大手門ヲ謂フ
 阪下門ハ元西丸阪下門ニシテ宮内省ノ正面ニアリ
 通用門ハ代官町ニアリ
 御車寄ハ宮城ノ南面ニシテ正ニ鐵橋ト相對ス
 東車寄ハ宮城ノ東面ニシテ宮内省ト鐵橋トノ中間ニアリ
 外庭東門ハ通用門ヨリ宮内省ニ通スル道右ニアリ
 東北斜ニ西枯橋ニ對ス
 千里門ハ元吹上釣橋ノ西南參集所ノ東北ニアリ
 道灌門ハ元吹上釣橋ノ西北ニアリ
 吹上門ハ半藏門内ニ正面ス
 吹上一ノ門ハ吹上門内左方ニアリ
 廣芝口ハ御苑内吹上一ノ門ヲ入り廣芝ニ出ツル所ヲ謂フ

吹上御苑御覽ヲ止ム

官報抄錄 二十二年一月十一日
 吹上御苑ハ從前月、水、金ノ三曜日ヲ以テ勅任官以上並ニ各國公使等へ拜觀ヲ許サレタリシカ昨年十二月限り差止メラル

皇居御造營費總計額

官報抄錄 二十二年一月十四日
 皇居御造營費ハ合計金二百九十六萬八千二百三十二圓五十六錢五釐ニシテ一般人民ヨリノ獻金モ其中ニアリ

皇居御造營費品ハ内匠
鑿ニ引繼キ御轉後模
樣等ノ箇所ニ費用ス

宮内省ヨリ大藏省へ協議 二十二年一月二十九日
 皇居御造營費用御器械並非戸掘器械其他木石等凡代金七千五百圓餘殘品有之即今賣却可取計ノ處器械
 械等ノ如キハ差向望人無之其他木石等ニ於テモ一時ニ入札拂ニ付スルトキハ格外ノ下位ニテ看巨多
 ノ損失ト可相成ニ付自今相場ノ景況ヲ睇テ徐徐ニ賣却致シ候ハ、多少高價ニ可相成見込ニハ有之候得
 共到底損失ハ免カレヌ然ルニ夫レカ爲メ御造營費完結ノ期追追延隨テ官吏俸給其他冗費モ不抄甚タ
 無益ノ次第ニ付キ篤ト途開查候處御轉後宮殿向ヲ始メ數十箇所模樣替等有之其費用ニ適當ノ物品ニ
 付此際御造營殘業補足トシテ内匠察へ無代價ヲ以テ引繼御造營費ノ決算速ニ完結候樣致候方便益ニ付
 此運ニ取計申度貴省ニ於テ御異存無之哉此段及御協議候條否至急御回答有之度候也

大藏省回答 二十二年二月九日

一月二十九日付ヲ以テ皇居御造營事業ニ費用セル殘品其儘内匠察ニ引繼 御移轉後模樣替等ノ箇所ニ
 費用ノ儀御協議ノ通り了承右ハ御申越ノ通ニテ強テ異存無之候此段及御答候也

皇居御造營費工區分

宮内大臣へ請議 二十二年三月十二日
 概算高壹萬七千八百貳拾四圓七拾四錢七釐ノ内
 一金千八百八拾七圓四拾九錢四釐 吹上土藏
 但本年四月以降ニ係ル經費別紙仕譯書ノ通り
 一金三千三百四拾貳圓四拾錢 婦人室其他裝飾
 但別冊仕譯書ノ通り

合計

金五千貳百貳拾九圓八拾九錢四釐
 右ハ現今著手中ノ處何レモ本年六月ニ至リ竣工ノ筈ニ有之然ルニ纔手殘事業ノ爲メ御造營ノ決算追追
 及遷延隨テ冗費モ不抄ニ付御造營費ニ於テハ本年三月限り打切り決算ヲナン同四月以降ニ涉ル殘工事

ニ對スル經費取調候處前記ノ通りニ有之因テ土藏ハ内匠寮裝飾ハ調度局ニ於テ取扱其經費ハ帝室費ヲ以テ別途御支辨相成候ハ、御造營費ノ決算速ニ完結可致候條右ノ運ニ取計可然哉此段及稟議候也

但本文經費ノ儀ハ實際ニ臨ミ多少ノ増減ハ可有之此段副申候也

吹上土藏築造職工事經費取調書
概算金壹萬七千八百貳拾四圓七拾四錢七釐
一金千八百八拾七圓四拾九錢四釐

内
金三百三拾九圓六拾五錢六釐 材料
金千五百四拾七圓八拾三錢八釐 職工料

大工木挽人足土房共一式
今井源兵衛

内
金三百貳拾三圓

内
金百貳拾三圓三拾壹錢
金百九拾九圓六拾九錢

材料
職工料
定雇大工人足賃

金三拾七圓八拾錢

淺田治吉
職工料

金三拾圓九錢九釐

軒體及並儀取調
谷 新兵衛

内
金拾四圓四拾貳錢五釐
金拾五圓七拾七錢四釐

材料
職工料

内
金七百貳拾三圓拾五錢

壁造方及葺キ土之費

内
金六拾四圓七拾三錢九釐
金六百五拾八圓四拾壹錢壹釐

材料
職工料
家根瓦葺方之費

内
金七拾六圓九拾三錢貳釐
金九拾圓七拾六錢三釐

材料
職工料

金三拾圓

中仕切上羽目取假之費

金六拾圓貳拾五錢

職工料
釘鐵物購入之費

金貳百圓

材料
假圓修繕其他小仕事

金貳百五拾圓

職工料
殘木片付地形一式

記

金百八拾六圓三拾三錢三釐

伺濟ノ分
川島甚兵衛

婦人室柱隱上飾最前請負分

増費
川島甚兵衛

金四百八拾四圓五拾壹錢五釐

前同斷模樣替ニ付増費
伺濟ノ分
杉田幸五郎

金百貳拾六圓四拾八錢

前同斷裁縫並ニ取付費
伺濟ノ分
杉田幸五郎

金六百貳拾五圓三拾七錢

舞臺所巨鏡飾並ニ配膳口疊帳裁取付ケ
伺濟ノ分
杉田幸五郎

金九百五拾六圓貳拾五錢

女官而爾所窓掛織物
田村總兵衛

金九百六拾三圓四拾五錢貳釐

女官而爾所裁縫及取付費其外
杉田幸五郎

合計
金三千三百四拾貳圓四拾錢

宮殿各御間ノ名稱ヲ定

宮内省内事課長ヨリ省中一船へ通達 二十二年十一月二十日
宮殿各御間ノ内今般左ノ通名稱ヲ定メラレタリ

名 稱 舊 稱
△印ハ朱書

宮廷門 宮殿

千種之間
 桐之之間
 榑荷之間
 西一之間
 西二之間
 東一之間
 東二之間

△後席之間
 △皇后宮内謁見所
 △番女官面謁所
 △女官面謁所
 △東脱帽所
 △同上

官報抄録 二十三年四月一日

長内省ニ於テハ皇居御造營ノ殘務既ニ結了ヲ告ケタルヲ以テ昨三十一日限同殘務取扱所ヲ閉鎖セリ

皇居御造營誌抄録

皇居御造營費ノ鉅額其自起工至竣工收支頭末ハ別ニ經費ノ部門中ニ詳ナリト雖モ單ニ各御建物ニ對シタル建築費總額ノ區分ハ別表ノ如シ

名	稱實	費無代價物品	合計
寶所神殿皇靈殿	1,474,247	1,944,731	3,418,978
神嘉殿	1,212,104	1,949,512	3,161,616
榑合砂拜殿奏樂所	7,818,456	6,710,030	14,528,486
便殿	5,811,011	11,522,711	17,333,722
式部職	5,811,011	1,744,316	7,555,327

建築費内譯表 △命ノ奉拜

内 掌 典	4,544,888	1,113,311	5,658,199
寶 所 土 藏	1,361,047	6,116,455	7,477,502
内 掌 典 物 置 檢 番 所	9,849,033	1,111,910	10,960,943
寶 所 四 脚 門	1,757,710	1,141,946	2,899,656
同 外 構 煉 化 堀 穴 門	4,111,104	9,747,815	13,858,919
同 中 仕 切 堀	1,712,410	3,819,949	5,532,359
神饌所及渡廊下神嘉殿神饌所	4,444,357	3,150,035	7,594,392
禮 上 常 御 殿	5,118,440	3,268,160	8,386,600
皇 后 宮 常 御 殿	4,064,133	2,082,574	6,146,707
皇 太 后 宮 御 休 所	1,150,210	4,224,044	5,374,254
宮 御 殿	11,000,000	3,358,447	14,358,447
申口取合間女官候所	11,497,715	4,110,033	15,607,748
聖上御湯殿御廊下	1,435,522	1,578,659	3,014,181
皇后宮御湯殿御廊下	2,730,568	11,311,114	14,041,682
御靈代之間二位局詰所	8,405,561	5,646,133	14,051,694
女官客間具服所其外	2,447,401	4,442,511	6,889,912
與御車寄皇后宮職	2,322,847	4,298,668	6,621,515
御 文 庫	7,144,931	7,110,111	14,255,042
典侍部屋及掌侍部屋	3,646,254	4,855,254	8,501,508
命婦部屋及東下西女	4,628,644	4,947,317	9,575,961

女官昇降口買物所檢番所	七三三二二五	△	一三三三三三三	八八五七六五〇
女官部屋通用門	五二〇九七五	△	二八五七五五	五五七六七〇
御學問所	六三〇〇〇〇〇	△	三七〇〇〇〇〇	九八〇〇〇〇〇
侍從詰所及武官詰所	五二〇二二〇〇	△	一〇三三三三三	六二〇〇〇〇〇
皇族大臣候所	九二〇〇〇〇〇	△	八〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇〇
附立所	一三三三三三三	△	二二〇〇〇〇〇	一七二二九七五
櫻宴所	二二八二八九五	△	四三〇〇〇〇〇	一六二二四〇〇〇
後席之間	二二二二二二二	△	三二〇〇〇〇〇	一五二二二二二
西溜之間	六七〇七三六六	△	三三三三三三三	一〇〇〇〇〇〇〇
謁見所	一〇一七三六六	△	五八三三三三三	一〇〇八五九九〇
女官面謁所	一三三三三三三	△	七三三三三三三	二二二二二二二
内謁見所	五〇〇〇〇〇〇	△	二二二二二二二	七二二二二二二
西脱帽所	三三三三三三三	△	一六〇〇〇〇〇	四七五五五五五
御車寄所	三三三三三三三	△	二二二二二二二	六三三三三三三
東脱帽所	三三三三三三三	△	一三三三三三三	四九二二二二二
東化粧之間	三三三三三三三	△	二二〇〇〇〇〇	三六〇〇〇〇〇
東溜之間	六〇〇〇〇〇〇	△	三三三三三三三	九二二二二二二
東御車寄	三三三三三三三	△	三三〇〇〇〇〇	一一三三三三三
主馬寮	一三三三三三三	△	二二七九九九九	一六三三三三三
御厩	二六三三三三三	△	八九九九九九九	三三三三三三三

器械置所	三三三三三三三	△	三三三三三三三	三三三三三三三
御料馬車舎	一一三三三三三	△	一三三三三三三	一一三三三三三
麥冷場	九三三三三三三	△	七三三三三三三	一〇三三三三三
馬丁部屋	一〇三三三三三	△	九三三三三三三	一一三三三三三
女官部屋取合煉化廊下	一六三三三三三	△	二二三三三三三	二六三三三三三
御湯部所	一三三三三三三	△	一三三三三三三	一三三三三三三
奥御車寄前塀重門	一三三三三三三	△	五八三三三三三	一三三三三三三
釣橋跡塀重門	一三三三三三三	△	〇	一三三三三三三
所所煉化塀	二二〇二二八五	△	三三三三三三三	二二四三三三三
籠子塀板塀入口共	四一〇六九九	△	二二〇一六九九	六五〇〇〇〇〇
山里御馬場	二八三三三三三	△	〇	二八三三三三三
山里御馬見所	三三三三三三三	△	一三三三三三三	五三三三三三三
御庭作樹木植附	八八二九九五	△	一八三三三三三	八九九九九九九
假上水及スタンドパイプ	三三三三三三三	△	三三三三三三三	三三三三三三三
御庭所所御門	二二〇〇二二二	△	一三三三三三三	三三三三三三三
宮内省及東西渡廊下	三三三三三三三	△	五八三三三三三	三三三三三三三
大膳職	一六三三三三三	△	五三三三三三三	一六三三三三三
調理所及附屬物置	三三三三三三三	△	五三三三三三三	三〇三三三三三
近衛術局	一七〇〇八二九九	△	三三三三三三三	一七〇〇七三三三
近衛儀仗兵屯所及彈藥庫	二二二二二二二	△	四三三三三三三	一四三三三三三

官	吏	俸	給	二四四、〇三	七〇八
死	亡	賜	金	二一〇	〇〇〇
備	人	料		二四、〇九〇	四七三
惠	及	圖	書	三、八七三	四九〇
器	紙	墨	文	四、七六六	二四七
筆	紙	墨	文	五、六二七	八七三
消	耗	品		一、四〇〇	八八六
被	服	費		六、〇六一	八四五
雜	費			二、四一九	六六四
內	國	旅	費	七、九〇六	八六〇
外	國	旅	費	九、七三三	五八八
營	繕	費		一、四、二二九	四四一
小	計			三、八八、二七二	〇七五
建	築	費	物	三、八八、八一九	五八七
合	計			六、四七	五二二
內	廉	合	費	一、四八八	六七二
差	引	賃	費	三、八七、三三〇	九一五
雜	件				
銀	貨	交	換		八〇〇
損	金				

實	所	及	宮	殿	向	模	樣	替	其	外	工	事	三、五、一、〇〇五	△	一、〇、六、六〇	三、五、一、〇、六六〇
水	道	並	沈	澄	池	費							六、九、八、〇、八三六	△	〇	六、九、八、〇、八三六
近	衛	傳	令	騎	兵	厩	新	設	費				四、九、三、六、〇五	△	〇	四、九、三、六、〇五
木	石	材	及	雜	品	取	扱	工	料				三、六、〇、一、五八八	△	〇	三、六、〇、一、五八八
祝	田	町	地	所	及	建	家						四、九、一、七、七五五	△	〇	四、九、一、七、七五五
並	付	屬	品	共	買	入	費						三、六、一、五、〇七五	△	〇	三、六、一、五、〇七五
小	計												三、五、九、九、〇、八六三	△	四、三、五、五、〇、三三六	三、五、九、九、〇、八六三
毀	損	物	品	及	器	械							二、九、七、〇、一、七九	△	〇	二、九、七、〇、一、七九
備	品	器	械	修	繕	其	外	諸	雜	費			四、五、〇、四、三三三	△	〇	四、五、〇、四、三三三
流	失	及	折	損	木	石	類						六、七、七、四	△	〇	六、七、七、四
內	匠	寮	へ	引	繼	品	代						二、〇、〇、三、三、五七	△	五、一、六、六、三、三三	二、〇、〇、三、三、五七
事	務	局	費	へ	引	繼	品	代					三、三、三、三、三	△	六、六、六、六、六	三、三、三、三、三
殘	品	代											三、六、八、三、三、〇、一	△	五、六、八、三、三、〇、一	三、六、八、三、三、〇、一
十	九	年	度	中	支	出	シ	タル	宮	殿	裝		三、〇、〇、〇、〇、〇	△	〇	三、〇、〇、〇、〇、〇
十	五	年	度	末	現	在	品	越	高	ノ	内	物	〇	△	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇
同	上	越	高	ノ	内	毀	損	物					〇	△	一、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇
事	務	局	費	ヨ	リ	引	繼	品	ノ	内	毀	損	〇	△	〇	〇
小	計												六、四、一、七、四、三、八	△	六、四、一、七、四、三、八	六、四、一、七、四、三、八
通	計												八、〇〇、三、三、三、一、〇一	△	八、〇〇、三、三、三、一、〇一	八、〇〇、三、三、三、一、〇一

事務局費内訳表 △印ハ朱書

賜本仲道へ支山シタル木村代
金四萬圓ノ内奉損金

三二七八四 九八〇

宮内省辭令 二十一年二月二十二日

- 宮内書記官 櫻井能監
- 宮内大臣秘書官 長崎省吾
- 宮内大臣秘書官 齋藤桃太郎
- 宮内書記官 田邊新七郎

皇居御引移御用掛被仰付

皇居御造營誌抄録二十一年二月二十二日
宮内書記官櫻井能監田邊新七郎宮内大臣秘書官長崎省吾齋藤桃太郎皇居御引移御用掛被 仰付二十九日ニ至リ新築宮内省中ニ參集シテ事宜ヲ詳議ス

宮内省告示 二十一年十二月十八日

宮城工事裝飾等ノ都合ニヨリ來二十二年一月十一日御移轉ノ旨仰出タサル

宮内省達 二十一年十二月十七日

一 來二十二年一月九日

賢所 宮城へ御遷座之事

一 二月十一日

兩陛下御移轉之事

右御治定被爲在候事

官報抄録 二十一年十二月二十九日

來ル二十二年一月十一日宮城へ御移轉ニ付キテハ宮内省(圖書諸陵ノ二寮ヲ除ク)ハ都テ宮城内へ移轉

皇居御引移御用掛被仰付

宮城へ御移轉期日

宮内省圖書諸陵二寮ヲ除クノ外宮城内へ移轉

スル筈ナリ

皇居御造營誌抄録 二十一年十二月二十九日

宮内省圖書諸陵二寮ヲ除クノ外宮城ニ移轉ス

官報抄録二十二年一月二十三日
圖書諸陵ノ二寮ハ宮内省移轉ノ後モ赤阪離宮内ニ於テ事務ヲ取扱ヒシカ諸陵寮ハ去ル十九日圖書寮ハ一昨二十一日孰モ宮城内ノ宮内省ニ移轉セリ

宮内省ヨリ近衛都督へ通牒 二十二年一月四日

來ル九日午前九時 賢所皇靈神殿等宮城へ渡御被爲在候ニ付近衛士官五名騎兵二小隊供奉

同十一日午前十時御出門 聖上皇后宮御移轉被爲在候ニ付近衛士官五名騎兵二小隊供奉並宮城正門外へ近衛諸隊整列御著盡ノ節近衛樂隊奏樂

同十二日午前九時

皇子女御靈代御遷座被爲在候ニ付騎兵半小隊供奉

右之通被 仰付候間御列並御道筋書及御回付候條時限前夫々御差出相成度此段及御通知候也

逐テ近衛諸隊整列ノ儀ハ陸軍大臣へ致通達候條爲御心得此段申添候也

宮内省ヨリ陸軍省へ通牒 二十二年一月四日

來ル十一日午前十時御出門 御移轉被爲在候ニ付宮城正門外へ近衛諸隊整列候様御達有之度此段申入候也

宮内省ヨリ警視廳へ通牒 二十二年一月四日

來ル九日午前九時 賢所皇靈神殿等宮城へ渡御被爲在候ニ付先駈警視一名警部四名

同十一日午前十時御出門 御移轉被爲在候ニ付先駈警視一名警部六名

同十二日午前九時

皇子女御靈代御遷座被爲在候ニ付先駈警視一名警部四名

二十三年一月二十三日
宮内省圖書諸陵二寮ヲ除クノ外宮城内へ移轉
圖書諸陵ノ二寮ハ宮内省移轉ノ後モ赤阪離宮内ニ於テ事務ヲ取扱ヒシカ諸陵寮ハ去ル十九日圖書寮ハ一昨二十一日孰モ宮城内ノ宮内省ニ移轉セリ

宮内省ヨリ近衛都督へ通牒 二十二年一月四日

來ル九日午前九時 賢所皇靈神殿等宮城へ渡御被爲在候ニ付近衛士官五名騎兵二小隊供奉

同十一日午前十時御出門 聖上皇后宮御移轉被爲在候ニ付近衛士官五名騎兵二小隊供奉並宮城正門外へ近衛諸隊整列御著盡ノ節近衛樂隊奏樂

同十二日午前九時

皇子女御靈代御遷座被爲在候ニ付騎兵半小隊供奉

右之通被 仰付候間御列並御道筋書及御回付候條時限前夫々御差出相成度此段及御通知候也

逐テ近衛諸隊整列ノ儀ハ陸軍大臣へ致通達候條爲御心得此段申添候也

宮内省ヨリ陸軍省へ通牒 二十二年一月四日

來ル十一日午前十時御出門 御移轉被爲在候ニ付宮城正門外へ近衛諸隊整列候様御達有之度此段申入候也

宮内省ヨリ警視廳へ通牒 二十二年一月四日

來ル九日午前九時 賢所皇靈神殿等宮城へ渡御被爲在候ニ付先駈警視一名警部四名

同十一日午前十時御出門 御移轉被爲在候ニ付先駈警視一名警部六名

同十二日午前九時

皇子女御靈代御遷座被爲在候ニ付先駈警視一名警部四名

右略服著用時限前夫々御差出可有之別紙御列並御道筋書相副此段及御通達候也

逐テ御道筋支障有無御申越可有之此段申添候也

式部職ヨリ各親王へ通牒 二十二年一月四日

來ル十一日午前十時御出門 御移轉被爲在候ニ付右時限前御參内供奉可有之旨御沙汰候條此段申進候也

逐テ當日馬車御用意可有之且文官著服ハ通常服ニ候間此段申添候也

式部職ヨリ内大臣各大臣樞密院議長親任官へ通牒 二十二年一月四日

來ル十一日午前十時御出門 御移轉被爲在候ニ付通常服著用右時限前參内供奉可有之此段申進候也

逐テ當日馬車用意可有之此段申添候也

式部職ヨリ各廳へ通牒 二十二年一月四日

來ル十一日午前十時御出門 御移轉被爲在候ニ付勅任官ノ面々通常服著用 宮城へ參集奉迎可有之且奏任官ハ十二日ヨリ三日ノ内通常服著用參賀候様御達有之度此段及御通知候也

逐テ親任官ノ向へハ直ニ申入置候條此段爲御心得申添候也

式部職ヨリ公卿宮中顧問官宮別當辨香間祇候へ通牒 二十二年一月四日

來ル十一日午前十時御出門 御移轉被爲在候ニ付通常服著用宮城へ參集奉迎可有之此段申入候也

式部職ヨリ爵位局へ通牒 二十二年一月四日

來ル十一日午前十時御出門 御移轉被爲在候ニ付侯伯子男爵各總代一名宛通常服著用宮城へ參集奉迎自餘侯伯子男爵及有位華族ノ輩ハ十二日ヨリ三日ノ内通常服著用參賀候様御達有之度此段及御通知候也

逐テ本文總代人名御回付有之度此段申添候也

式部職ヨリ内大臣秘書官宮家令非職奏任へ通牒 二十二年一月四日

來ル十一日午前十時御出門 御移轉被爲在候ニ付通常服著用宮城へ參集正門内ニ於テ奉迎可有之此段

及御通知候也

式部職ヨリ御守衛隊司令官へ通牒 二十二年一月四日

來ル九日 賢所皇靈神殿宮城へ渡御

同 十一日

御移轉

同 十二日

皇子女御靈代御遷座ニ付

右次第相副此段及御通知候也

式部職ヨリ省中一般へ通牒 二十二年一月四日

來ル七日

大殿祭

但當日關係員通常服

同 九日

賢所 皇靈 神殿 渡御

但當日關係員小禮服

同 十一日

御移轉並賢所御祭典

但當日關係員小禮服

同 十二日

皇子女御靈代御遷座

但當日關係員通常服

右次第御列書等相副此段及御通知候也

明治二十二年一月七日

通常服

大殿祭次第

當日早日祭場鋪設ス風風ノ間ヲ以テ北所トス

其儀御殿ノ中央ニ簀薦ヲ敷キ神籬ヲ設ク

午前第十時宮内省官員著床

先是舉典長以下祓ノ儀アリ

次

神降舉典

此間著床ノ諸員起ッ

次

神饌ヲ供ス

此間奏樂

次

祝詞舉典長

此間奏樂

次

舉典進テ御殿ノ四隅ニ米酒切木綿ヲ散ス舉典補米酒切木綿ヲ据ニタル三方ヲ持テ隨フ

次

著床ノ諸員拜禮

次

神饌ヲ撤ス

次

此間奏樂

神昇舉典奉仕
此間著床ノ諸員起ッ

次

各退出

明治二十二年一月九日

小禮服

賢所

皇靈 渡御次第

神殿

午前第九時新舊兩御殿ノ御裝飾ヲ奉仕ス大眞賢木恒ノ如シ

次

宮内省官員舊御殿前幄舎ニ著床

次

開扉三前

次

此間奏樂

次

神饌ヲ供ス

次

祝詞

次

神饌ヲ撤ス

此間奏樂

次

掌典補御羽車ヲ殿内ニ昇据ッ

次

掌典各御正體ヲ御羽車ニ移シ奉ル

次

掌典補御羽車御辛櫃等ヲ昇テ階ヲ降ル駕下豫メ階下ニ候シ掌典補ニ替リ昇キ奉ル

次

渡御

警部騎馬	警視騎馬	騎兵二小隊	近衛士官騎馬
警部騎馬	騎兵	近衛士官騎馬	近衛士官騎馬
賢所御羽車 <small>駕丁二十人 奥床持四人</small>	内舍人徒歩	賢所御羽車 <small>駕丁二十人 奥床持四人</small>	
皇靈御辛櫃 <small>駕丁十人 奥床持三人</small>	内舍人徒歩	皇靈御辛櫃 <small>駕丁八人 奥床持三人</small>	
内舍人徒歩	掌典補徒歩	近衛士官騎馬	
神殿御辛櫃 <small>駕丁六人 奥床持二人</small>	内舍人徒歩	掌典補徒歩	近衛士官騎馬
内舍人徒歩	掌典補徒歩		

騎兵	掌典長官取	掌典取	式部長官取
騎兵			警部騎馬
式部官取	宮内書記官取	警部騎馬	
列外 宮内屬			
式部屬			

渡御之間

聖上庭上ニ於テ 御奉送

次

新御殿へ著御掌典補御羽車御辛櫃等ヲ昇テ階ヲ昇ル

次

掌典各神座ニ座セ奉ル

次

宮内省官員著床

次

開扉三前

此間奏樂

次

神饌ヲ供ス
此間奏樂

次

祝詞

次

神饌ヲ撤ス
此間奏樂

次

開扉三前

次

此間奏樂

各退出

同日

御神樂次第

午後第五時宮内省官員著床

次

開扉三前

次

此間奏樂

神饌及御幣物ヲ供ス

次

此間奏樂

祝詞

賢所御鈴如常

次

御代拜御玉串ヲ捧ク

次

皇太后宮御代拜御玉串ヲ捧ク

次

皇后宮御代拜御玉串ヲ捧ク

次

宮内省勅任官拜禮

次

同奏任官判任官拜禮

次

此間學典賢木ノ枝ヲ人長ニ授ク

次

御神樂

次

御幣物及神饌ヲ撤ス

次

此間奏樂

人長賢木ノ枝ヲ學典ニ致ス學典之ヲ宮内省當番ニ附シテ奉獻ス

次

閉扉三前

次

此間奏樂

御道筋

假 皇居ヨリ左へ堀端通四ツ谷門ヲ入り麴町通半藏門外右へ堀端通三宅阪ヲ下リ堀端通左へ櫻田門
ヲ入り 宮城へ御順路

明治二十二年一月十二日

御靈殿御遷座次第

午前第九時新舊御靈殿ヲ裝飾ス

次 宮内省官員舊御靈殿ニ著床

次 開扉

此間奏樂 雨儀之ヲ略ス

次 神饌ヲ供ス

此間奏樂

次 祝詞 掌典長 奉仕

次 宮内省勅奏任官拜禮

次 同判任官拜禮

次 神饌ヲ撤ス

此間奏樂

次 御靈代ノ御辛櫃ヲ御馬車ニ載セ奉ル 掌典 奉仕

次 渡御

正門ヲ出テ 宮城正門ヲ入り御車寄前ヲ右へ宮内省車寄前ヲ左へ内庭西口ヨリ内苑北口御靈殿口
等ヲ入り御靈殿ニ御著

次 御辛櫃ヲ御馬車ヨリ下シ奉ル 掌典 奉仕
此時著床ノ諸員起ッ

次 開扉 掌典 奉仕

此間奏樂

次 御靈代ヲ 御座ニ奉安ス 掌典 奉仕
此時著床ノ諸員起ッ

次 神饌ヲ供ス

此間奏樂

次 祝詞 掌典長 奉仕

宮城内通行力

官報抄録 二十二年一月十日
明十一日御移轉當日ハ宮内省モ宮城内へ移轉スルニ付キ同日ヨリ判任官以下ノ輩モ官吏ニ限り同省判任官昇降所マテ乘車馬ノ儘通行スルヲ許シ阪下門平河門ヨリ入ル者ハ各門立番ノ警手ニ本人並ニ車夫若クハ馬丁トモ銘々ニ門鑑ヲ示シ通用門ヨリ入ル者ハ門内中仕切柵ニテ同様門鑑ヲ示シテ通行スルコト、シ車夫馬丁ヲシテ門鑑ヲ所持セシメサル輩ハ阪下平河ノ二門外及通用門内中仕切柵外ニ於テ下乗セシムルコトニ定メタリ

宮内省通牒 二十二年二月六日

自今判任官及判任待遇之輩共諸御祭典之節參拜被仰付候ニ付テハ右參拜之節ニ限り制服並通常禮服着用ノ者ハ無印鑑ニテ御門通行被差許候條此段及御通牒候也

司法書記官ヨリ本省各局課裁判所へ通牒 二十二年二月八日
自今判任官及判任待遇之輩諸御祭典ニ付右參拜之節ニ限り無印鑑ニテ御門通行被差許候旨別紙ノ通官内省ヨリ通牒有之候條此段及通達候也

宮内省告示 二十二年二月九日

來ル十一日紀元節ハ午後 行幸在ラセラルルニ付正午十二時以後參拜ノ輩ニ限り正門ノ通行ヲ止ム

大守、内閣田園開闢
拉雜車通行力

内閣書記官通知 二十二年九月二十四日
一大手門内櫻田門(元格)ハ晝間開扉夜間ハ小扉ノミヲ開ク

一大手門内櫻田門トモ開扉中判任官以下官吏ハ内閣昇降所迄乘車馬ノ儘通行差許サル
一前項御門通行ノ節御門鑑差示シ方ハ本年一月十日官報官廳事項内ニ掲載セル「宮城内通行」ノ例ニ同右及御通知候也

宮城内通行力ハ前ニ出ス

宮城へ御移轉後赤阪假
皇居外御門ノ閉門
定ム

皇宮警察署通知 二十二年一月九日
明後十一日 宮城へ御移轉後ハ取締ノ都合ニ依リ赤阪假皇居内外廓左ノ諸門諸口平常閉扉ノ事ニ決議相成候條此段及御通知候也

- 一 乾門
- 一 内庭東口
- 一 御厩南門
- 一 表御庭南門
- 一 廣芝西口
- 一 同 北口

北海道廳へ達 二十二年十二月二十八日

北海道石狩國上川郡ノ内ニ於テ他日一都府ヲ立テ離宮ヲ設ケラル、ニ付夫々計畫施設可致旨被仰出此旨相達ス

北海道石狩國上川郡ニ
他日離宮ヲ設ケラルト
サ以テ之ヲ計畫施設セ
シム

北海道廳長官永山武四郎建議二十二年十一月十四日
北海道廳長官永山武四郎首再拜謹惟ニ凡ソ治國ノ要務ハ富強ヲ謀ルヨリ急且大ナルハナシ方今國家日ニ明明ノ域ニ進ミ富強ノ實俱ニ舉リ復タ議スヘキナシト雖トモ大ニ慮ルヘキモノハ獨リ北海道開拓ノ舉タリ明治中興ノ初朝廷蝦夷ヲ改テ北海道ト稱シ開拓使ヲ建テ、之ヲ管シ尋テ函館札幌室三縣分治ノ制ヲ布キ更ニ北海道廳ヲ置カレ前後二十餘年力ヲ拓地殖民ノ業ニ致シ土地ノ墾成人口ノ繁息産業ノ興起交通ノ便利ヨリ兵備教育等ノ事ニ至ルマテ復タ昔日ノ觀ニ非ス其成績續述スルニ勝ヘス然トモ其城域ノ廣濶ナル今尙人口平均一方里四十六人餘田圃僅ニ總面積百分ノ三ニ上ラス未タ地ニ遺利アリ業ニ遺功アルヲ免レズ豈ニ慨歎ニ堪ヘケンヤ夫レ北海道ハ總面積無慮六千九百餘方里其廣袤四國九洲ヲ合スルモ猶遠ク本道ニ及ハス海内四分ノ一ヲ占ル一大島ニシテ土壤肥沃氣候動植二物ニ適シ鐵山森林ニ富ミ鱗介菜藻無盡ノ産アリ其狀況恰モ寶庫ヲ開テ以テ人ノ取ルニ任スカ如シ唯己レノ力ヲ致ス如何ニアルノミ然リ而シテ拓地殖民上未タ長足ノ進歩ヲ見サル所以ノモハ何ンヤ交通尙未タ不便ナルカ爲メカ抑モ又氣候沍寒ナルカ爲メカ是等皆其進路ヲ遮ルノ一原素タルヲ免カレサルヘント雖トモ職トシテ全國人民カ敢爲勇奮進取ノ氣象ニ乏シク徒ラニ奮里ニ安シ儘ニ偏小ノ地ヲ耕シ藜藿ヲ喰ヒ穢穢身

ヲ加テ以テ足レリトスルモノ之レカ一大階客ヲ爲スニ由ラシクハアラサルナリ我邦人口歳ニ多キヲ加ヘ加テ器械力ノ試用大ニ發達シ細民ノ生計漸ク困難ニ陥ラントスルノ時期ハ漸ク北海道ヲ一大シテ絶海ノ孤島トシ痛ク之ヲ雄飛シ移住ヲ欲セサルモノノ如ク何ソ其レ思ハサルノ甚キヤ今此ノ一大階客ヲ除却シ人民ヲ誘導シテ以テ富源ヲ開通シ國力ヲ發達セント欲セハ北京ヲ北海道ニ設定シ天下ノ人心ヲ北海道ヘ歸嚮セシムルニ若クハナシ其設定スヘキノ地ヲ擇ハントナラハ石狩國上川郡ヲ尤モ可ナリトス上川郡ノ地勢タルヤ殆ト全道ノ中央ニ位シ四面山ヲ帶ヒ沃野數里ニ亘リ東ハ釧路ニ連リ南ハ十勝ニ接シ北ハ天鹽北見兩國ニ隣シテ天鹽川ニ出ツルノ便ヲ有シ國境皆山アリ頗ル要害ノ地勢ヲ占ムト雖トモ亦道路ヲ開キ鐵道ヲ架スルニ難カラサルナリ石狩美英忠別ノ三川平原ヲ貫流シテ神居古潭地ノ利ヲ與フルノミナラス夏ハ輕舟ニ棹スニ宜シク秋山ノ紅葉殊ニ美觀ヲ極ム已ニ選定アリタル御料地内忠英山ヨリ下瞰スレハ新タニ開クヘキノ屯田兵村地ハ非然トシテ林樹ノ間ニ隱顯ス風光ノ美ナル眞ニ名狀スヘカラス茲ニ一兩年ヲ期シ兵ヲ遣キ地ヲ開キ復タ漸ク進フテ室蘭鐵道ヲ延長シ神居古潭十勝ニ越ヘ上川平原ニ入り之レヲ北見網走ニ及ホシ終ニ釧路ノ鐵道ニ合シ折レテ根室ニ達シ大道ハ南十勝ニ通シ北ハ天鹽川口ニ至ラシメシメシトコトヲ庶幾ス都下炎熱ノ候龍忽此地ニ巡狩セラレ至尊玉體ノ御健康ヲ衛ラセ玉ヒ又親シク拓地殖民ノ事業經營ノ顛末狀況ヲ親覽アラセラルトキハ人民ノ感情更ニ深キヲ加ヘ粉骨盡身以テ至仁ノ恩旨ニ答ヘ奉ルヘキノミナラス天下民心ノ歸嚮スル所大ニ定マリ移住ヲ嫌厭レタル邊鄙ハ俄チニ消滅シ千里ノ波濤比隣モ管ナラサルノ習慣ヲ馴致スヘキハ毫モ疑ヲ容レザルナリ或ハ曰ク北海道ハ極北亞寒帝都ヲ設クノ地ニ非スト是レ何ノ言ソヤ彼ノ海外各國ノ都府ヲ觀ルニ多クハ皆四十三度乃至五十九度ノ位置ニアリ寒氣北海道上ニ出ル所ナキニアラサルモ能文明繁華ヲ極メ宇内ニ雄飛スルニアラスヤ殊ニ北海道上ニ空氣清爽人身ニ適シ内地惡疫滋キノ比ニ上川郡ハ衛生ニ關スル各統計ニ就テ之ヲ觀ルモ明カニ北海道上ニテ全道ヲ控御スルニ足ラザルニテ上川郡ハ衛生ニ關テフルカ如ク四通八達所謂天府ノ地ニシテ論者ノ言周ヨリ取ルニ足ラザルニテ上川郡ハ衛生ニ關テ得サルモノ一旦帝都ノ名定マリ加フルニ東北鐵道青森ニ達シ空室開闢功成リ之ト連絡スルノ美ヲ仰クテ萬機ノ餘暇車轡々々北海ニ幸シ玉ハ官民歡呼シテ奉迎シ衆目瞻仰シ是ニ於テ乎北海ノ風氣愈開ケ人民培ノ如ク聚リ益産業ニ富ニ立不羈國家ノ富強ヲ贊ク其當道ノ事業ニ裨補スル豈ニ淺鮮ナランヤ武四郎任ヲ此土ニ承クル前後十有五年既往ヲ察シ將來ヲ考ヘ内外ノ大勢ヲ顧レハ轉タ感慨ニ禁ヘザルナリ伏願クハ一日モ速ニ上川ニ北京ヲ定ムラシムコトヲ聊カ卑官ヲ陳シ敢テ尊嚴ヲ冒瀆ス幸ニ採納ヲ賜ラハ何ノ榮カ之ニ過キン恐懼ノ至ニ堪ユルナレ誠恐願首謹言

内閣書記官長ヨリ法制局長官北海道石狩國上川郡ニ北京ヲ設定セラレ人心ヲ北海道ニ歸嚮セシムルノ宮内大臣并北海道廳長官建議北海道石狩國上川郡ニ北京ヲ設定セラレ人心ヲ北海道ニ歸嚮セシムルノ別紙宮内大臣并北海道廳長官建議北海道石狩國上川郡ニ北京ヲ設定スルノ件ヲ審案スルニ北海道ニ國

都ヲ立テ人心ノ方嚮ヲ導カントスルハ將來開拓ノ事業ヲ振勵スル爲メノ効益ニ於テ蓋シ補フ所ナレトセシム

然レトモ全國政治上ノ大計ヨリ之ヲ觀察スルニ頗ル其宜キヲ得サル所アリ抑々國都ナルモノハ全國統治ノ首府ニシテ永遠駐紮ノ所ニ限ルノ名ナリ故ニ國都ハ必ヤ國家内外ノ事物之ニ輻輳スル所ニシテ之ヲ國土ノ首腦ニ比スヘシ今夫レ北海道ニ國都ヲ立テハ北京ノ名稱ヲ附セントノ建議ハ蓋國都タルノ體裁施設ヲ備ヘテ土地ノ繁榮ヲ促スニ止マルモノナリ然ト雖モ既ニ北京ノ名稱ヲ定ムルトキハ帝都タルノ事實之ニ隨伴セザルヘカラス立都ノ大事ヲシテ名實相反スル所アラシムルハ處置ノ宜キモノニ非ナリ

且設令國都ノ體裁結構ヲ備フルノ舉ヲ實施スルニハ草莽未開ノ地ニ於テ新ニ土木ノ業ヲ起シ巨大ノ資

金ヲ費サハルヘカラス此ノ巨大ノ資金ハ開拓ノ事業ヲ助ケルニ於テ果シテ當初豫期ノ如クナルコトヲ得ルカ亦疑ナキヲ得ス

國都必シモ唯一ナラス東京ノ西京ニ於ル例ヲ推セハ北海道ニ新東京ヲ建設スルモ名義ニ於テ關ル所ナキモノノ如シト謂ハシカ然ルニ西京ハ祖宗歷代ノ帝都ニシテ大禮及大祭ノ舉行セラル、所ナリ故ニ此特別ノ制度ハ容易ニ他ニ例推スヘカサルナリ

右ノ理由ニヨリ本建議ハ御採用ナキ方可然ト思考ス

宮内省申渡二十二年十二月二十五日

北海道ハ土地膏腴魚藻豐饒國家ノ富源ニ付同道石狩國上川郡内ノ地ヲトシ他日一都府ヲ立テ離宮ヲ設ケラル、ニ付夫々計畫施設可致旨被仰出候右申渡ス

官報抄錄 二十三年七月十四日

宮内省ニ於テハ神奈川縣下相州箱根塔ヶ島離宮ヲ箱根離宮ト改稱シ下足柄第一第二御料地ヲ函根離宮附屬地ト改稱セリ

官報抄錄 二十三年十一月十八日

宮内省ニ於テハ赤阪離宮表門敷石修繕ニ附キ昨十七日ヨリ本月三十日マテ同門ノ通行ヲ差止メ該日限中ハ乾門ヲ以テ表門ニ代用スル旨一昨十六日省中一般ヘ達セリ

官報抄錄 二十二年二月十六日

赤阪離宮内ニ明宮御住所ヲ定メ花御殿ト稱シ之ニ御移轉アラセラル

今般赤阪離宮内ニ於テ區域ヲ限リ明宮御住所ト定メ花御殿ト稱セラレ同宮ハ來ル二十三日熱海ヨリ御歸京直ニ御移轉アラセラル、管ニテ御留守御殿詰ノ輩ハ明十七日移轉スル都合ナリ

官報抄録 二十二年十二月三日

赤阪離宮中ニ東宮御所ヲ置ンタリ

官報抄録 二十二年六月十八日

赤阪離宮中仕切門内花御殿御車寄建築落成ニ附キ參殿ノ輩ハ一昨十六日以後同所ヨリ通行ノ筈ナリ

宮内省達 二十一年一月十八日

博物館自今圖書寮ニ屬ス

赤阪離宮中ニ東宮御所ヲ置カレ
花御殿御車寄落成ニ付參殿ノ輩同所ヨリ通行
博物館圖書寮ニ屬ス
二十一年一月宮内省達第...
二十二年五月宮内省達第...
二十二年六月宮内省達第...
二十二年七月宮内省達第...
二十二年八月宮内省達第...
二十二年九月宮内省達第...
二十二年十月宮内省達第...
二十二年十一月宮内省達第...
二十二年十二月宮内省達第...

大藏省ヨリ宮内省ヘ照會二十二年一月二十九日
大阪造幣局附屬泉布觀其他敷地建物ニ關シ豫テ御協議ヲ遂ケ候如ク別紙繪圖面ノ通御引渡致度本省事務ノ都合ニ依リ延期ヲ要スル建物ノ外來三月ヲ限リ御引渡致度委細ハ當省主務者ヲ以テ直ニ貴省主任官ヘ協議爲致可申此段及御照會候也
追テ泉布觀内裝飾及器具類共御引渡致度詳細圖面ハ追テ差出可申候此段申添候也
造幣局ヨリ大藏省ヘ伺二十二年一月二十二日
當局附屬泉布觀宮内省ヘ引渡ノ儀過般兩大臣之御内協議ニ奉キ横瀬出張所長ヲ以御料局山本主事ヘ打合相濟候ニ付公然御照會相成度尤最初者泉布觀敷地而已之見込ニ有之候處過般精製所モ本局内ヘ引移シ積建物不用ニ屬シ其他必要無之建物敷地共別紙繪圖面圖番之通並泉布觀内裝飾及器具類共引渡致度依テ御照會案左ニ取調相候候也
宮内省ヨリ大藏省ヘ回答 二十二年二月一日

兼テ御内儀有之候造幣局内泉布觀其他敷地建物並裝飾及器具類トモ悉皆御引渡ノ儀乾第二八五號ヲ以テ御照會ノ趣致了承候右ハ貴省事務ノ御都合ニ依リ御入用ノ建物等有之候ハ、御使用候相成候トモ差支無之候間來ル三月ヲ限リ該地所建物其他トモ悉皆受領致度委細ハ當省主務者ヨリ貴省主任官ヘ協議濟ニ付此段御回答旁申進候也
追テ御追書ノ趣致了承候也

造幣局議案 二十二年二月九日
當局所屬泉布觀敷地建物其外宮内省ヘ引渡ノ儀同大臣ヘ御照會相成候ニ付テハ其旨内務大臣ヘ御通知相成度文案取調此段相候候也
大藏省ヨリ内務省ヘ通牒 二十二年二月十三日
大阪造幣局所屬敷地ノ内一萬六千五百五十八坪九合七勺今般協議ノ上宮内省ヘ引渡候筈ニ付此段及御通知候也

宮内省ヨリ大藏省ヘ照會 二十二年二月十六日
大阪造幣局内泉布觀其他敷地建物トモ不違當省ヘ御引渡ノ儀兼テ御往復相濟候ニ付テハ別紙圖面未練内現今疏曹會社ヘ貸渡地ノ儀モ接續ノ箇所ニ付此際地所建物トモ併セテ當省ヘ受領致度右御差支無之候ハ、疏曹會社ヘ引續キ當省ヨリ貸渡可申候條至急何分ノ儀御回答有之度此段及御照會候也
追テ本件ハ山本御料局主事補ヨリ横瀬大藏參事官及長谷川造幣局次長ヘ内議濟ニ有之候且御回答ノ節該地坪數並ニ建築坪數ヲモ御申越相成度添テ申進候也
造幣局ヨリ大藏省ヘ伺 二十二年二月二十二日
當省附屬泉布觀其他敷地建物共今般宮内省ヘ引渡候就テハ同續疏曹會社兩製造所敷地建物共併テ引渡方宮内大臣ヨリ照會ニ奉キ別紙圖面ノ通地所及建坪圖番相添御返翰案并内務省ヘ御通知案共左ニ相候候

大藏省ヨリ宮内省ヘ回答 二十二年三月一日
大阪造幣局附屬泉布觀其他敷地建物共今般貴省ヘ引渡候付テハ同地續キ現今疏曹製造會社ヘ貸下ケ有之候地所建物共御受領被成度云々送第五四號ヲ以テ御照會之趣了承右者差支無之候間別紙圖面之地所及建物共御引渡可致尙建物及附屬品引渡ノ儀者當省主務者ヲ以テ直ニ貴省主任官ヘ協議可致候條此段及御回答候也
大藏省ヨリ内務省ヘ通牒 二十二年三月一日
大阪造幣局所屬敷地ノ内六千五百六十六坪六合三勺別紙ノ通今般協議ノ上宮内省ヘ引渡候筈ニ付此段及御通知候也

宮内省報告節錄 二十三年四月二十四日 (全文ハ帝室財)

鹿鳴館ヲ宮内省ニ屬ス
宮廷門 宮殿
三百十五

二十三年八月二十日
前大藏省御用金庫
御用金庫ノ目ニ載ス

永田町第一御料地内建
物ノ行政裁判所ノ受領
ス

宮城(御移轉前)授入夫
其他ノ者多人入込込ニ
ニ付火ノ元一層嚴重

宮城内掘付ノ非常號砲
試驗施行

東京市麹町區内山下町一丁目一番地五號
鹿鳴館敷地
一面積云々
右ハ外務省用地ニ有之候處今般同館竝ニ其敷地トモ當省へ受領候云々

行政裁判所稟申 二十三年十月十八日

永田町第一御料地内建物別紙圖面黑線ノ箇所今般受取申候間此段入御承知置候也
別紙圖面

宮内省ヨリ省中一般へ達 二十二年一月九日

御移轉前後ハ人夫其他外向ノ者多人入込居候ニ就テハ當 皇居竝 宮城宮中省中共火ノ元一層嚴重
取締方法可相立候此旨相違候事

警視廳告示 二十二年二月二十二日

本日午前第十時宮城内掘付ノ非常號砲試驗施行アリ但發數ハ三發トス

長慶天皇御陵取調上卷
考ノ爲メ同天皇御陵
取調ス

順宗武烈光孝村上冷泉
四條三條二條順德仲泰
光明天皇御陵及後白
河院天皇御陵上四門院
御陵並道標那十字繪卷
ヲ修繕ス

陵墓

青森縣知事ヨリ諸陵頭へ申渡 二十一年十一月十六日
縣下中津輕郡紙漣澤村字ウヘノウツ堂及同所山頂埋佛地ト唱フル箇所ヲ以テ御陵墓傳説考地トシテ保
存可相成御省議有之趣ヲ以テ右建物敷地等取調方盡キニ御照會ニ依リ及御回答置候處本縣士族手塚強
ヨリ
長慶天皇御遺蹟編輯書獻納致度旨別紙之通申出候ニ付右ハ御陵墓御調査上御參考ノ爲メ及御送致候也
(別紙)

長慶天皇蒙塵以降已ニ五百十有五年ヲ經過シ文獻ノ徵ス可キ無ク經歷ヲ叙スルノ資料ニ乏キヲ以テノ
故ニ
御遺蹟久シク埋没ニ屬セリ然ル處本縣中津輕郡紙漣澤村ニ於テ右ニ關スル所ノ古書續々發見シ該書中
往々事理ノ他古書ニ附合スルアリテ信憑スルニ足ルモノ寡ナカラス就テハ之ニ基キ旁ヲ正史野乘ヲ對
照整查シ官暇ノ餘力ヲ以テ前卷別紙
長慶天皇年譜一冊ヲ纂輯仕獻納御參考ニ供シ度候間多年焦思苦慮ノ微意ヲ察セラレ御納受被成降度候
也

明治二十一年十一月

宮内大臣子爵土方久元殿
宮内省指令 二十一年十一月三十日

書面願之趣出願シ

諸陵寮議案二十一年十一月三十日
青森縣下中津輕郡弘前山道町十六番戶手塚強ヨリ長慶天皇年譜獻納出願ノ件
右年譜參考ノ爲メ獻納ノ儀別紙ノ通青森縣ヨリ出願取調候處 長慶院太上天皇御事蹟及御陵ノ儀現今
御取調中ノ事ニ付該年譜中事實ノ當否ハ措テ不問ニ附シ右獻納願ノ趣御開届相成可然哉相伺候也

宮内省ヨリ京都府へ達 二十二年六月四日
今般其府管内別紙箇所書之御陵墓修營候條當省諸陵寮京都出張所官員へ打合セ兆域見込相立段別及地
種記載民有地ニ係ル分ハ買上ノ積ヲ以テ代價取調實測圖面ヲ附シ至急可申出此旨相違ス

宮内省ヨリ奈良縣へ達 二十二年六月日開
今般其縣管内別紙箇所書之御陵墓修營候條當省諸陵寮京都出張所官員へ打合セ兆域見込相立段別及地
種記載民有地ニ係ル分ハ買上建物有之向ハ移轉之積ヲ以テ代價移轉料トモ取調實測圖面ヲ附シ至急可
申出此旨相違ヌ

京都府下

光孝天皇

後田邑陵

村上天皇

村上陵

冷泉院天皇

櫻本陵

圓融院天皇

後村上天皇

三條院天皇

北山陵

二條院天皇

香隆寺陵

順德院天皇

大原陵

仲恭天皇

九條院

光明院天皇

山城國葛野郡宇多野村宇天王塚

山城國葛野郡宇多野村妙光寺後山

山城國愛宕郡鹿谷町宇御廟所ノ内北ノ塚

山城國葛野郡宇多野村宇北ノ長尾

山城國葛野郡大北山村宇尊上院

山城國葛野郡大北山村宇ウダ川

山城國愛宕郡勝林院町 宇法華堂趾 後鳥羽院天皇御陵北隣

山城國紀伊郡東福寺山上皇嘉門院御陵ノ東ノ山上

大光明寺陵

後白河院天皇准母

上西門院御陵

應神天皇皇子菟道稚郎皇子

宇治墓

奈良縣下

顯宗天皇

傍丘磐塚丘南陵

武烈天皇

傍丘磐塚丘北陵

山城國紀伊郡堀内村 宇院長老 光院天皇御陵ノ東隣

山城國葛野郡花園村 宇寺ノ内

山城國宇治郡宇治村 宇九山

奈良縣下

大和國葛下郡今市村 宇的場 御陵墓傳説地

大和國葛下郡今泉村 宇志都美神社森ノ北

諸陵寮議案二十二年五月二十五日

顯宗天皇以下十一帝御陵及後白河天皇准母上西門院御墓應神天皇皇子菟道稚郎皇子宇治墓之儀所在未

定ニテ修陵不相成候處今般立諸陵助出限ノ命ヲ奉シ實地檢覈ノ上別紙取調書差出調査候ニ適當ノ考

案ト存候條此際夫々御確定之上修陵相成候様致度因テ地方官へ御違案ヲ附シ此段相伺候也二十二年

六月三日御覽定

但安徳天皇御陵ノ儀ハ追テ取調相伺可申候

(別紙)

光孝天皇後田邑陵

山城國葛野郡田邑郷立屋里小松原

扶桑畧記仁和三年八月二十六日丁卯是日巳二刻天皇崩於仁壽殿 十八日 九月二日壬申葬山城國葛野郡

後田邑陵 一云小松原

延喜式後田邑陵光孝天皇在山城國葛野郡田邑郷立屋里小松原陵戸四烟四至西限雲原峯南限大道東限

清水寺東北限大峯

西宮記後田邑光孝天皇小松原在仁和寺西

江家次第後田邑仁和寺西大教院 丑寅

拾芥抄後田邑仁和寺内大教院 丑寅

中右記長治三年二月十九日小松山陵使可被立日時仗右大將被定申來二十是仁和寺法親王被造房舍之

間西築垣入山陵四至内頗被堀破了其後彼山陵頻鳴助申覺意僧都申云故覺行法親王被作北院僧房之

時山陵下彼房西築垣相接之間下人頗犯其土人人見付制止了但如延喜式者伴山陵西至又不分明也云々
 其邊ヲ搜索スルニ文ニ據ルトキハ本陵ハ京都府下山城葛野郡宇多野村仁和寺ノ西ニ在ル可シ仍ラ
 墳アリテ上ニ老松立チタリ元祿年中舊幕府ノ取調ニ此地ヲ以テ御陵ニ當テタリシヲ周圍三十間許ノ圓
 垣ニ打合難ケレハトテ文久度ニハ修陵ヲ見合ラレシ所ナリ其打合難キ趣ハ山陵考ニ中右記江家次
 第ニ打合難キ等ヲ引テ委ク辨シタリ其概畧ハ
 中右記ニ覺行法親王北院ノ僧房ヲ造ラル、時山陵彼ノ僧房ト相接シタルヨリ下人等其山陵ノ土ヲ犯
 シタルヨリシヲ記シタルハ御陵ノ東邊ト北院ノ西ノ築垣ト接シタルモノナルヘシサテ現在ノ地理ニ就
 テ考ルニ福王寺村ノ畑中ナル御陵ノ東邊ト北院ノ西ノ築垣ト接シタルモノナルヘシサテ現在ノ地理ニ就
 右記ニ云ヘル趣ニ叶ハス、又江家次第抄等ニ此御陵ヲ仁和寺ノ西大教院ノ長ニ在リト云ヘルハ中
 教院ノ跡ハ福王寺村用水池ノ南人家南邊ノ竹林ナリト云ヘリ然ラハ御陵ハ大教院ノ異ニアリト云ハ
 サレハ叶ヒ難シ
 ト云ヘリサレト今田畑ノ字ニ呼フ北院ノ西ニ接近シテ古墳ト思ハシキモノ一ツモ有ルコト無シサ
 テ山陵考ニモ北院ノ所在ヲ疑テ今田畑ノ字ニ呼フ北院ト仁和寺ト本要記ニ引タル御廟御師經次第ノ
 裏書ノ小圖ニ載セタル北院又建保三年ノ龍慶指圖ニ見エタル北院ト其所在異ナルハ如何ナル故ニ
 カ有ン若クハ時代ニヨリテ北院ノ名ハ同シクシテ在所ノ遠ヒタリシカ心得難キ事也ト云ヘリ故ニ
 ハ中右記ニ云ヘル北院ハ古圖ニ載セタル所ニモアラズ又今田畑ノ字ニ呼フ所ニモアラテ猶天王塚
 ノ東寄リノ方面院ノ北ニ續キテアリシハ知ルヘカラス又江家次第等ニ仁和寺ノ西大教院ノ長ト記
 シタルニ此墳ハ大教院ノ南邊ヨリ方位ヲ取レハ丑寅ノ方ニ當リタリ又古書ニ御陵ヲ仁和寺ノ西ト記シタル
 ニ大教院敷地ノ南邊ヨリ方位ヲ取レハ丑寅ノ方ニ當リタリ又古書ニ御陵ヲ仁和寺ノ西ト記シタル
 ハ同寺ノ惣攝往昔ハ今ノ如キ小伽藍ニアラテ猶南方ニモ廣カリシ故ニ其四至ノ西ニアタリタル事
 論ヲ俟タサルヘシ然レハ此天王塚ヲ以テ本陵ニ決定セラレテ然ルヘキカ
 村上天皇村上陵
 山城葛野郡北長尾村上
 日本紀畧保四年五月二十五日癸丑巳時天皇崩於清涼殿^{十四}二十七日乙卯大行皇帝御入棺六月四日
 辛酉今夕奉土葬先皇於山城葛野郡田邑鄉北長尾西四刻出御自陰明宜秋放宮門親王公卿已下供奉僧
 都觀理於內膳司南門勤御尊師律師法藏爲咒願 九日丙寅村上御陵可殖樹之由被仰左右衛門又可充陵
 戶伍烟官符アリ
 一代要記保四年五月十四日葬體不豫出家法名覺貞同二十五日崩於清涼殿年四十二 同六月四日葬
 山城葛野郡村上陵
 人車記仁安三年四月三十日辛酉藏人皇太后宮大進光雅宣下御即位由可進發山陵使由 村上ハ村上天
 皇御陵在仁和寺西
 山陵記治承四年七月二十一日辛未於福原被立山陵使被告申御即位之由也 村上寺在仁和八條三位宗清

類聚大補任康保四年五月二十五日崩御年四十二山陵在村上
 謹案スルニ本陵ハ京都府下山城葛野郡宇多野村仁和寺ノ西ニテ光孝天皇御陵ノ近傍ニアルヘシ
 今實地ヲ檢スルニ同村妙光山ノ後ノ頂上宇村上山ノ圓墳ハ則コノ御陵ナルヘシ日本紀畧ニ葛野
 郡田邑鄉北長尾トアル其田邑鄉北長尾ノ名ハ今存セザレト山陵記ニ仁和寺長尾トアルニ中尾長
 尾ハ同所ナルヲ知ルヘシ其長尾ノ稱ハ今モ彼妙光山ノ南ヘ長ク引延タル山裾ヲ呼ヘリ又一代
 要記ニ非山城葛野郡村上陵云々類聚大補任ニ山陵在村上云々ト記セル村上モ今彼山ヲ村上ト
 里人ノ呼フニテ明瞭ナリ又人車記ニ在仁和寺西トアル此山即チ仁和寺ノ西ノ方ニテ地勢モ載籍ニ
 符ヒタルハ本陵ト決定セラレテ然ルヘキカ
 山城葛野郡村上陵
 日本紀略正曆二年二月十二日癸丑今日圓融寺法皇崩^{十三} 十九日庚申葬太上天法皇於圓融寺北原置御
 骨於後村上山陵傍依遺詔停素服哀國忌山陵
 皇代曆正曆二年二月十二日崩於圓融寺^{十三} 十九日葬其谷北原置御骨於村上陵不置國忌山陵
 謹案スルニ右ノ文ニ據ルトキハ本陵ハ京都府下山城葛野郡宇多野村宇福王子ノ邊ニ在ル可シ仍
 テ實地ヲ檢スルニ同村元福王子村專念寺ノ裏ノ丘ニテ村民本郷某カ所有竹林中ニ古陵アリ先年發
 掘セシ所ニテ三坪許ノ穴ノ内ニ大石三ツ四ツ顯レタリ古代ノ物品ヲモ得タリト云今地勢ヲ熟視
 スルニ彼ノ妙光山ノ後ナル村上ノ山ヨリ三町許ヲ隔テ、尤長尾ノ字アル地ナレハ是村上陵ノ傍ニ置
 ト云フ明文ニ應シテ疑ナシ然レハ此地ヲ以テ本陵ト決定セラレテ然ル可キカ
 山城葛野郡村上陵
 山城愛宕郡
 日本紀畧寬弘八年十月二十四日癸亥成刻冷泉院太上天皇崩於南院春秋六十二 十一月十六日乙酉今
 夜奉火葬太上天皇於櫻木寺前野諸寺僧等依例委任前大僧都院源爲導師權少僧都林懷爲咒願木工頭雅
 通朝臣奉持御骨奉安置於山傍^丁
 編年集成寬弘八年十一月十六日乙酉葬櫻木寺乾原
 御堂關白記寬弘八年十月二十四日癸亥入夜則隆來云院御柩極重不覺給云々仍馳參口時崩給
 十一月十三日壬午參入冷泉院以惟貞朝臣並吉平等令見御葬所並御陵所還來申云櫻木寺ノ北方在平地
 伴處御葬所並御陵吉田吉平定申者
 謹案スルニ今京都府下山城圓愛宕郡鹿ヶ谷町靈鑑寺ノ西ノ方田圃中字御廟所トイヘル地ニ北ノ塚
 ト呼ヘル古陵アリ是レ本陵ナルヘシ此地ヨリ南七八段ヲ隔テ、字オウホンシト稱スル田地アリ即
 チ櫻木寺ノ音ニテ彼ノ御堂關白記ニ記セル櫻木寺ノ名ノ存セルナリサテ此ニ近キ邊ニ北野ト字セ
 ル地アルハ同記ニ櫻木寺ノ北ノ方ニ在平地ト云フニ適ヒ御廟所トイフモ御陵ニ緣故アル稱ナリ又
 同記寬弘八年十一月二十五日ノ條ニ冷泉院御陵ニ置沙彌二十人初念佛須造假合櫻木寺甚近仍置其
 寺云々トアルニテモ彼ノ櫻木寺ト云フ地ニ近キヲ以テ正シク常レリトス又日本紀畧ニ云奉安置伴

山傍トアルモ今ノ地形ヲ以テ見レハ實ニ山ノ傍ト云フヘキ處ナリ然レハ此ヲ以テ本陵ト決定セラレタ然ルヘキカ

山城國葛野郡

御堂關白記寛仁元年五月ノ條十二日己酉早朝召文高院御非令進勅文定行雜事申尋遣左大辨令見可置

日本紀略寛仁元年五月ノ條今夜奉葬三條院於石陰

編年集成寛仁元年五月ノ條葬於西山邊奉埋御骨於北山小寺中

世繼物語寛仁元年五月九日ノ條葬於西山邊奉埋御骨於北山小寺中

一條院のおりしまし、いはかたにおはしけり

職案スルニ右ノ文ニ據レハ本陵ハ京都府下山城國葛野郡大北山村ノ内ニアルヘシ仍テ搜索スルニ

同村一條院天皇御火葬所ヨリ南二町許隔テ字尊上院ト呼ヘル田地中ニ回リ數尺ノ塚アリ寸地ヲ爭

フ耕地ノ中央ニ於テ僅ニモ發キ殘シタルハ尤所謂アルヘシ此處ハ金閣寺ノ門前ヨリ山邊ニ沿ヒテ

北方ヘ四町餘漸漸ノ登リ道ニシテ御堂關白記ニ寺ノ後山ト曰ヒ編年集成ニ北山小寺中ナト曰ヘル

地勢ニ適ヒ且ツ田地ノ字ヲ以テ考ルモ往昔寺院ノ有リシ事知ラレテリ旁本陵ニ決定セラレテ然ル

ヘキカ

但日本紀略榮花物語ニハ石影ニ御火葬ノ趣見ニ他書ニハ舟岡西北ト見エテ異所ノ如ク開レトモ昔ハ

今ノ金閣寺ノ東北ノ邊渾テ石影ト云ヒシヨシナレハ同所異名ナリサテ榮花物語ニ一條院の北はしま

し、石陰ニおはしけりトアリテ一條院天皇御火葬所ノ近傍ニテ御火葬有シ如ク開ユレハ或ハ字尊上

院ノ塚ハ御火葬所ナラント疑ヒモアルヘケレト御堂關白記編年集成ノ文ニ據レハ本陵ナルコト明

瞭ナリ御火葬所ハ猶舟岡ノ方ニ寄リテ尋ヌ可キコトニコソ

二條院天皇香隆寺陵

山城國葛野郡

顯廣王記永萬元年七月二十九日丙子去曉新院遂以前押小路東洞院亭^御去三月以後于今不豫也

八月七日癸未先皇御送葬也^高云々十月十五日辛卯右大臣被參高野廟是二條院御變爲奉收彼山云々

堀川院例也

一代要記永萬元年六月葬禮不豫七月二十五日頗有増氣仍直讓位 同二十九日爲太上天皇號二條院同

月崩葬二十三八月七日葬香隆寺長野

百練抄仁安元年七月二十六日奉爲二條院於香隆寺供養一堂右大臣以下參行 嘉應二年五月十七日二

條院御骨自香隆寺本堂渡三味堂伴堂以二條皇后崩御殿左大臣渡送之

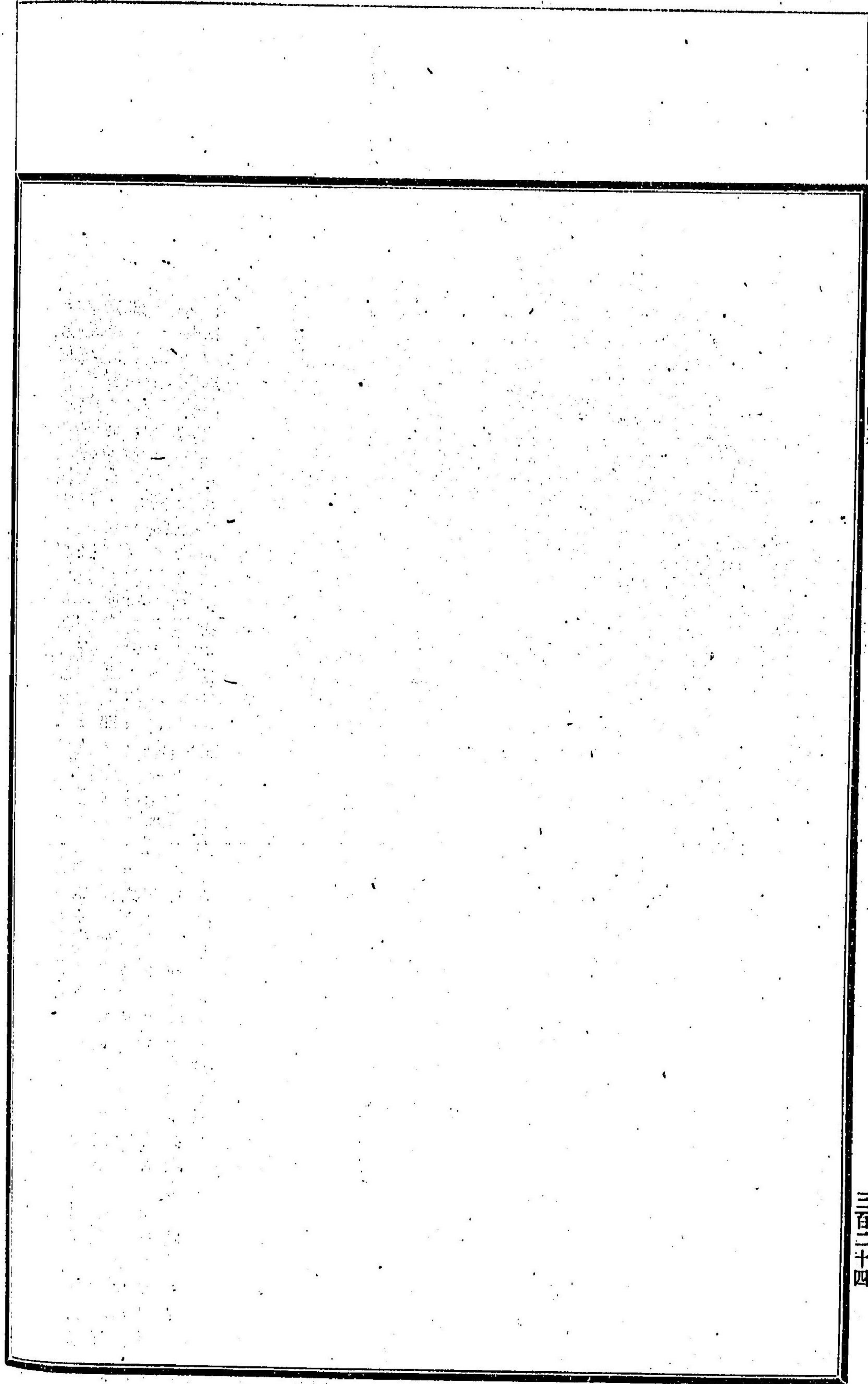
天文本拾芥抄香隆寺今日松原

職案スルニ本陵ハ京都府下山城國葛野郡松原香隆寺^{又高}三味堂ノ舊趾ニ在ルヘキヲ其寺跡地

名共廢絶シテ分明ナラサレハ未定陵ノ一ナリシヲ以テ今實地ニ臨ミ之ヲ檢覈スルニ先ツ香隆寺跡

ノ中點ト覺シキ所ヲ標定スルヲ必要トスヘント考ヘ乃チ中右記ニ白河院天皇御送葬ノコトヲ記セ

ル至御墓所香隆寺乾野云々御墓所ハ衣笠岳之東下云々ノ文ニ據テ現在ノ白河院御火葬所ヨリ東南
ニ方位ヲ取リ又同書ニ堀河院天皇御送葬ノコトヲ記セル北行至高隆寺地方野云々ノ文ニ據リ現在
ノ堀河院御火葬所ヨリ丑寅ニ線路ヲ弘テ之ヲ推ルニ別紙畧圖ノ如ク一條通ノ北平野神社ノ西南松
原村民居ノ東ニ常ル邊コソ此寺ノ舊趾即チ中點ナルヘケレ然ルニ此邊ハ悉皆田畠ニ鋤返シ或ハ屋
敷トナシテ土地ノ字サヘ亡セ果會テ痕跡ヲモ留サレハ之ヲ如何トモスルコト能ハス故ニ今日ニ在
ラハ良地ヲトシテ修陵ノ外ナカレヘシト斷案シ地勢ヲ相スルニ其ヤ西北ノ方大北山村元松原村
字宇多川ニ於テ一層小苗キ茶畑ヲ適當ノ地所ト認メタレハ此地ニ就テ凡三十間四方ヲ陵城ニ定メ
修繕相成然ルヘキカ尙同天皇御火葬所ハ此香隆寺跡ヨリ丑寅ニ常レル地ニ就テ求ムヘシ



○後冷泉院天皇御火葬所

○近衛院天皇御火葬所

千本通

繪圖

○ゴモク塚

元神宮 天條院天皇
寺裏 御火葬所見込

紙屋川

○一條院天皇御火葬所 宇尊上院
○三條院天皇御陵

鏡石

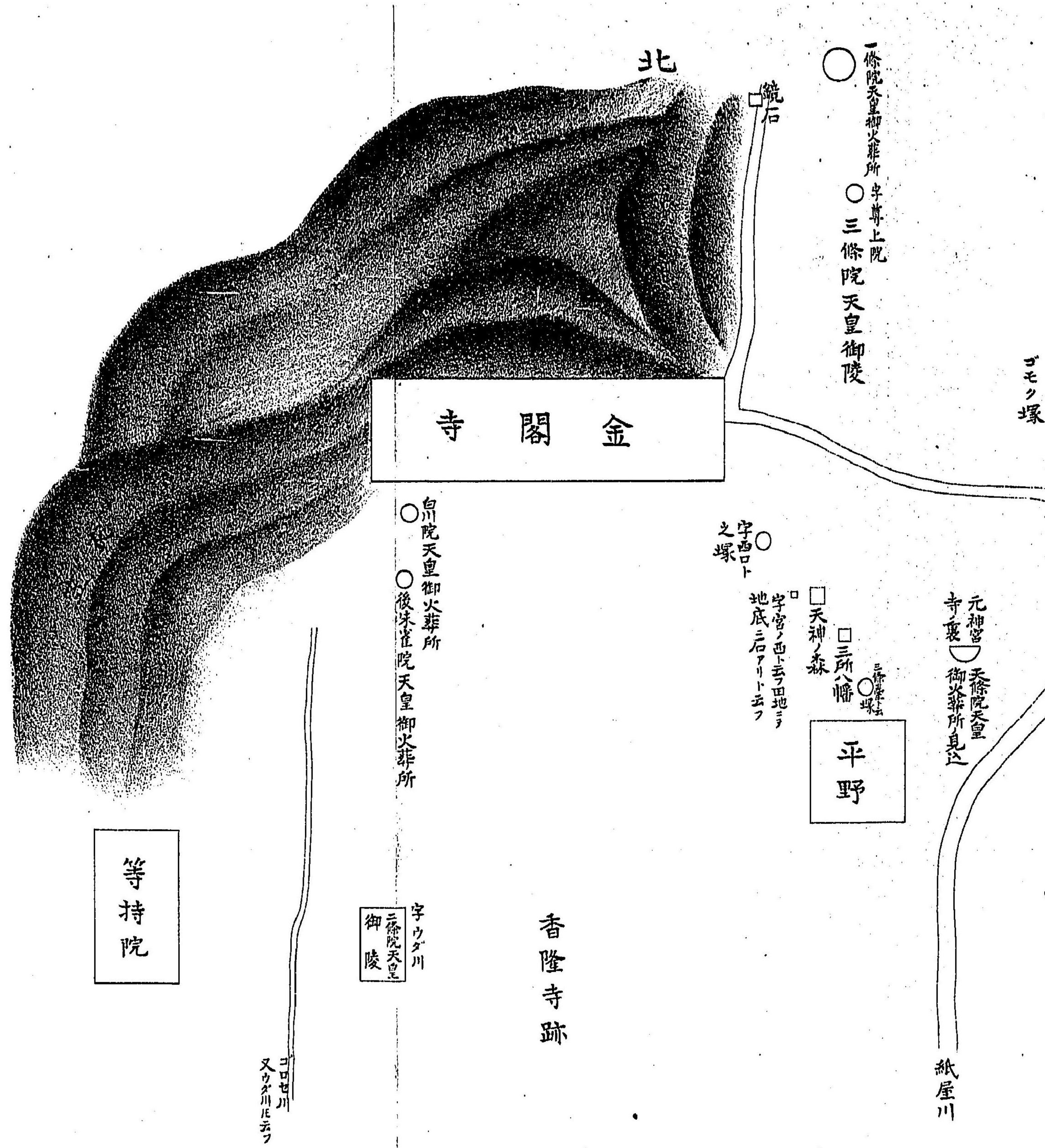
○宇西口
之塚

□天神ノ森
宇宮ノ西ト云フ田地ヲ
地底ニ石アリト云フ

三條院天皇
○塚
□三所ノ幡
平野

西

北



寺閣金

○ 一條院天皇御火葬所 宇尊上院
 ○ 三條院天皇御陵

コモク塚

○ 白河院天皇御火葬所
 ○ 後朱雀院天皇御火葬所

宇西ノト之塚

□ 天神ノ森
 □ 三所ノ幡
 ○ 塚
宇宮ノ西ト云ラ田地ニ
 地底ニ石アリト云ラ

平野

元神宮 天孫院天皇
 寺裏 御火葬所見込

○ 近衛院天皇御火葬所

千本通

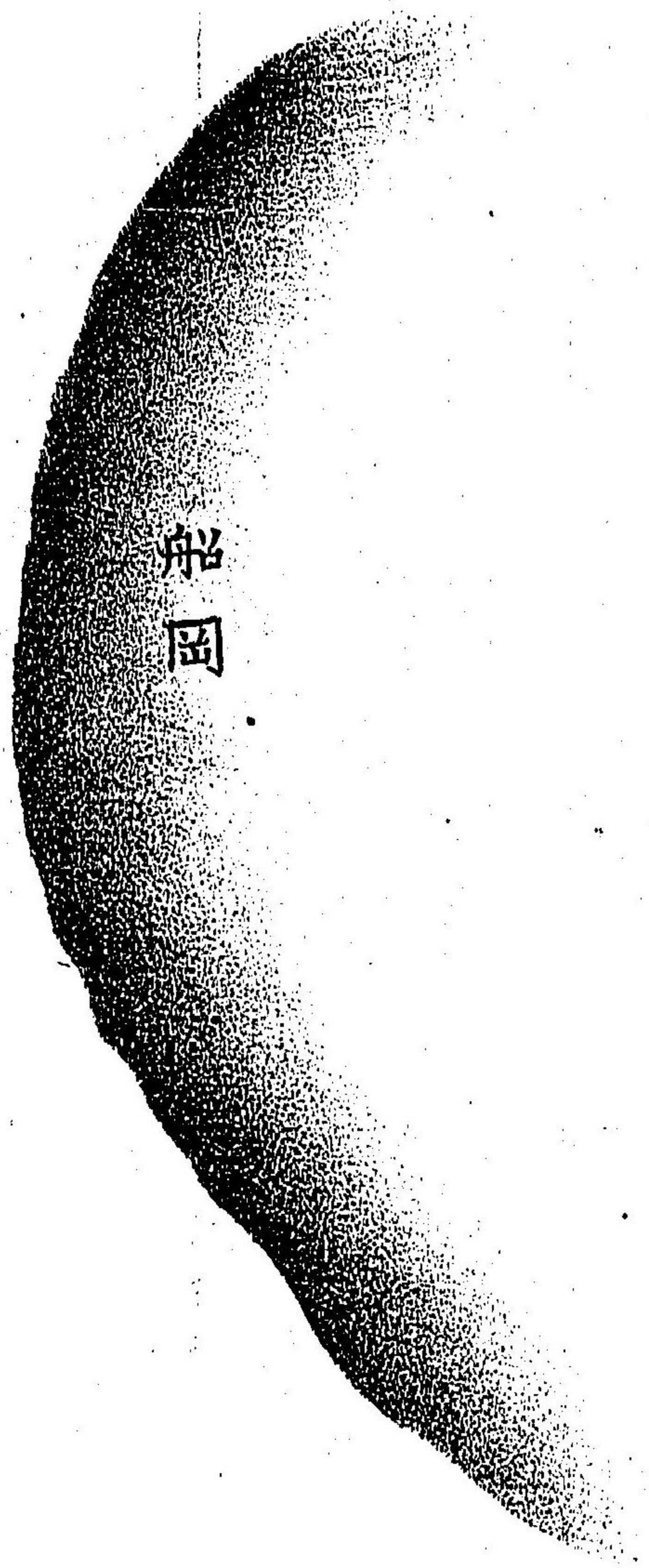
紙屋川

等持院

宇ウタ川
 三條院天皇
 御陵

香隆寺跡

コロセ川
 又ウタ川ト云ラ



船岡

繪圖

堀川院天皇
 ○ 御火葬所

順德院天皇大原

山城國愛宕郡大原
百練抄寛元四年四月二十八日甲戌佐渡院御骨康光法師奉遷首渡御大原云々五月十三日佐渡院御骨今
日奉納大原御所
議案スルニ本陵ハ右ノ文ニ見エタル如ク京都府下山城國愛宕郡大原ニ在ルヘケレハ今實地ヲ檢ス
ルニ後鳥羽院天皇御陵ノ北ニ接シタル九間四方許一廓ヲナシ樹木鬱蒼タル所有リ内ニ大小石散在
セリ之ヲ寺僧ニ賀スニ法華堂ノ舊趾ナリト云フソノ法華堂ハ後鳥羽院天皇ノ法華堂ノ例ニ依リテ
其傍ニ建立シテ御骨ヲ納メ奉リシモノナルヘシサレハ此舊趾ヲ以テ本陵ト決定セラレテ然ルヘキ

仲恭天皇御陵

百練抄文暦元年五月二十日戊午廢帝崩御是佐渡院御子御母儀東一條院也承久亂道之後御同所干女院
仲恭天皇御陵
類聚御心勞之外無他御年十七未及御首服
議案スルニ此天皇崩御御送非ノ事ニ關シタル戴籍ハ前文ニ擧タルノミニテ他ニ徵據トナスヘキ明
文ナシ一説ニ山城國伏見街道ノ塚本社ノ古冢ヲ舊來廢帝塚ト呼ヘルヲ以テ此御陵ノ如ク言ヒナセ
トモ畢竟想像ノミニテ何タル間モナシサレハ此御陵ハ最前ヨリ明瞭ナラサルコト疑ヒナカルヘ
シ故ニ今此天皇ノ九條殿ニ御座シ且ツ玆ニ崩御アラレタルニ因ミテ凡九條ニ相當スル東山東福寺
ノ官山中清潔ノ地即チ皇嘉門院御陵東ノ頂上ニ於テ凡四十間四方ノ地域ヲ定メ御本陵トシテ修營
相成然ルヘキカ

光明院天皇御陵

山城國紀伊郡
迎陽記康曆二年六月二十四日ノ條後開今日光明院法皇崩御此間御座大和長谷寺有御事御年六十一云
神皇系圖
謹案スルニ右ノ文ニ據ルトキハ本陵ハ京都府下伏見大光明寺ノ舊跡即山城國紀伊郡堀内村字允長
老ト唱ル邊ニ在ルヘキヲ今ハ悉ク如地竹藪等ニ引均シタルハ御陵ト認ムヘキモノモ無シサレハ此
地ノ内ニ於テ清淨ナル土地ヲ選ミ新ニ築陵セラレハ外無ルヘシ則實地ヲ相スルニ崇光院天皇御陵
ノ東隣ハ幸ニ荒土ニ汚レス南ノ一方ニ大木生立適當ノ陵地タレハ此所ニ於テ四方凡二十間ノ地ヲ
兆城ニ圍込崇光院天皇御陵ニ準シ修營相成リ然ルヘキカ
後白河院天皇御陵
上西門院御陵

山城國葛野郡法金剛院

百練抄文治五年七月二十日戊寅上西門院崩
歷代皇記上西門院元厄一
文治五年七月二十日崩
五六十
于六條院御所

